

大島にして、臺灣海峡を隔て、支那の福建省と相對す。この地もと、清國の領地なりしが、日清戦争の結果、我れに割讓したるものなり。一總督府、二十廳を置きてこれを治む。

たいわんさんけい(臺灣山系)臺灣の中央南西より北東に走れる山系にして、新高山(モリソン山)、雪山(シルビヤ山)最も著名なり。

たいわんじんじや(臺灣神社)台湾台北市の郊外に在り。北白川宮能久親王を合祀す。

たいわんせいぶちほう(台湾西部地方)本島西部の平原一帯を包含し、北の方新竹より、南の方台南に至るまでを總稱したるなり。

たいわんせいぶちほうのさんぶつ(台湾西部地方の産物)斗六街(雲林)、埔里社、苗栗は樟腦産地の中心たり。就中、苗栗は山中樟林多くして製造最も盛なり。淡水溪、大肚溪の流域は沃野廣くして米、麥、豆、粟、胡麻、落花生、甘藷、茶、黄麻、砂糖の産出多く、又

莫産(大甲荖)を産するは、本島中第一位を占む。

たいわんせん(台湾線)本鐵道は官設にして、台湾島の北部、基隆を起點として南に走り、台北、新竹、臺中、彰化、嘉義、臺南等を経て打狗港を終點とす。支線は臺北より淡水港に達す。線路延長二百五十哩あり。その中伯公坑驛より、葫芦墩驛までは輕便鐵道を敷きて、南北を縦貫するに至れり。

たいわんちほうとくふ(臺灣總督府)臺北市に在り。臺灣島及びその附屬の諸島を管轄す。

たいわんたいとうちほうのさんぶつ(臺灣臺東地方の産物)麥、粟、烟草等をその主要なる産物となす。

たいわんちほう(臺灣地方)臺灣島、澎湖島その他附屬の、嶋嶼の總稱したる名にして、琉球の西南に位し、四方清國の福建省に相對し總督府を臺北に置きてこれを治む。

たいわんちほうのちりやう(臺灣地方の雨量)北部は黒潮の上を渡り來る、北東風多きが爲に雨量多く、これに反して南部は、稍、少しと雖、晴雨常に不定にして、概して雨量多き方なりとす。

たいわんちほうのかがん(臺灣地方の海岸)東部沿岸は、絶壁斷崖にして、高きは海面より六十尺に及ぶ。これに反し西部沿岸は、低地なりと雖、臺灣山系より發源する幾多の河流土砂を吐出すること多く、沖積層は遠く海中に延長し、沿岸の出入多きに拖らす良港に乏し。只、南岸及び北岸は僅に大船を泊するを得るのみ、即ち北端には、富貴角突出し、その東南に基隆港あり。その東北の岬角を鼻

たいわんちほうのちりやう(臺灣地方の雨量)

頭角といひ、その南を三貂角といふ。日清戦役の際に於ける我軍の上陸點なり。南方海岸には卑角溪あり。これより以南、珊瑚礁頗る發達し、南端分れて二となり、西に西南岬、東に南岬突出して、南海を抱けり。

たいわんちほうのちりやう(臺灣地方の交通)臺灣は地形南北に長く、中央には南北に走る數行の山脈あり。東部は概して山地にして交通の便頗るあし、西部は平野開け交通便利なり。鐵道は基隆より起りて打狗に達し、延長二百五十哩に至り、僅々の時間を以て南部より北部に至るの便あり。街道は畧ぼ鐵道に並行して基隆より臺南に通じ、臺南より以南も鳳山、東港を経て恒春に通ずる道路あり。河流は潭山ありといへども、交通の便あるは唯、淡水河のみ下流小汽船往來せり。基隆、淡水の両港は神戸、大阪と汽船の往來あり。鹿港は海峡中最も狹き所にして、清國の泉州

港と交通盛なり。

たいわんちほうのかりう(臺灣地方の河流)淡水河は、シルヴィヤ山麓の水を集めて淡水港に注ぎ、大突溪及び西螺溪は、本島中部の水を集めて西流し、淡水河は新高山の南麓に發源して東港に注ぐ。

たいわんちほうのきこく(臺灣地方の氣候)全島三分の一は熱帯に屬す。雖も、島地なるを以て、氣候海洋性を帯び、他の熱帯地方の如く甚しからず。雨量は晴雨常に定まらず。雖、概して多く、年中風力強くして、夏秋には暴風襲來することあり。

たいわんちほうのきやくかい(臺灣地方の境界)我邦の西南端に位し、西は臺灣海峡を隔て、南清地方に對し、南は北米合衆國に屬するフィリピン群島と相近し。

たいわんちほうのくわらさん(臺灣地方の鑛産)鑛産の主要なるものを硫黄、石炭、砂金等と

す、概ね臺北地方に産す。

たいわんちほうのこせり(臺灣地方の湖沼)臺灣は湖沼に乏しき地方なり、その中、稍、著しきものは左の如し。

■ 打狗瀉 本島の南部、鳳山麓下の海岸にあり。

■ 水社湖 島の中央部にあり。

■ 竹湖 島の中部濁水溪の北にあり。

たいわんちほうのさんかく(臺灣地方の山岳)新高山は新高山脈中の高山にして、直立一萬二千八百五十尺あり。日本第一の高山なり。レルヰヤ山は、本島第二の高山にして、一萬尺以上あり。その他合歡山、白姑山、鳳凰山、ガンタパン山、卑南山、紅土山等の諸山あり。北部に大屯山あり。大屯火山脈中の盟主たる山岳なり。

たいわんちほうのさんげふ(臺灣地方の産業)農産には茶、甘藷、麻、藍、落花生、砂糖等

あり。水産は鹽を第一として、林産は檜樹、檳榔、椰子等あり。鑛産の主なるものには、硫黄、石炭、砂金等あり。

たいわんちほうのさんみやく(臺灣地方の山脈)臺灣山系本島の中央より、東に偏して南北に貫く、山系中北部に連亘せるは、雪山山脈(シルビヤ山脈)にして、その南方、少しく西に偏して新高山脈あり。又、北端に近き所に大屯山麓あり。この山麓は琉球諸島より來り澎湖島に連る。

たいわんちほうのじんこく(臺灣地方の人口)本島の人口凡そ二百八十萬人は、漢種族に屬し、廣東福建等より移住したるものなり。この他蕃人十萬、内地人三萬人餘あり。

たいわんちほうのじんしゆ(臺灣地方の人口)本島住民の大部は、漢種に屬し、その他蕃人内地人も多く住居す。前項參照。

たいわんちほうのすゐさん(臺灣地方の水産)

主要なるは鹽にして、臺南、打狗、通霄等に産し、内地に輸入せり。

たいわんちほうのちせい(臺灣地方の地勢)本島は臺灣山系によりて、東西の二部に分る。東部は山脈急に海に迫り、平野に乏しく、海岸の絶壁削れるが如し。これに反し西部は、廣き平野にして、諸川悉く臺灣山系より發し西流せり。

たいわんちほうのてつたう(臺灣地方の鐵道)官設臺灣鐵道は、北部基隆より起り、臺北、新竹、苗栗、臺中、彰化、斗六、嘉義、臺南等を経過して、本島を南北に縦貫打して狗に達す。支線は大稻埕驛より分岐して、東北に走り、淡水河口の淡水港に至る。延長二百五十哩九釐あり。

但し伯公坑驛より葫芦墩驛までは、目下輕便鐵道を敷設して、南北貫通するに至れり。

たいわんちほうのといふ(臺灣地方の都邑)基

たいわんちほうのといふ——たいわんちほうののうさん

1100

隆、もと維龍と稱したる所、人口凡そ八千。港は、富貴角と鼻頭角との突出によりて形成せられ、東南西の三面山を以て圍まれ、港口北に向つて開く。この港は内地と交通の衝に當れるを以て、汽船の出入頗る繁し。臺北市 人口約七萬。總督府の所在地にして市街は支那風なり。周圍に城廓を繞らせり。淡水 一に滬尾といふ。淡水口の河口にあり人口六千餘。茶及び樟腦の輸出盛なり。港はもと良好なれども、淡水口の吐出する土砂の爲、漸次埋もれて、ジャンク及び小蒸汽船を通ずるのみ。新竹 全島屈指の都會にして、人口約一萬九千。四周石壁を繞らす。臺中 混成第二旅團司令部の所在地なり。市街の規模大なるも住民多からず。彰化 西部の大都會にして、商業、稍、盛んに、四周石壁を繞らし、數百の銃眼を穿てり。

嘉義 もと諸羅と稱す。人口一萬八千。商業頗る盛なり。臺南 南部の大都會にして、人口約五萬。市街の道路石を以て敷き、甚だ殷盛なり。安平 砂糖、樟腦の輸出多く、棉布、毛布の輸入盛なり。人口凡そ五千。恒春 本島最南の一名邑なり。北方山中に牡丹社あり。明治七年臺灣征伐のありし地なり。その他塗葛堀は大肚溪口にあり。開港場の一にして貿易は淡水、安平に亞ぐ。打狗は港内の水、稍、深けれども、港口狭くして大船に入る、に足らず。媽宮は澎湖島に在り。港内水深くして、大船を泊するに足り、澎湖廳及び要塞あり。宜蘭、苗栗、鳳山、亦、皆名邑なり。たいわんちほうののうさん (臺灣地方の農産) 茶は臺中、臺北、宜蘭等に産し、年中これを摘み得るが故に、その産額甚だ大なり。甘藷

は澎湖島を除く外到る處に栽培し、砂糖は内地及び支那に輸出し、將來、有望なり。麻は苧麻、黄麻の二種ありて到る處に産し。又、落花生は油を製し、粕は肥料とす。藍は數年前の栽培に係るも、その結果は良好なり。米は一年二回の收穫あれども米質宜しからず。たいわんちほうのふりる (臺灣地方の風位) 夏は西南風多く、冬は北東風多し。夏秋に暴風襲來することありて、概して年中風力強し。たいわんちほうのへいや (臺灣地方の平野) 臺灣山脈以東の地は、山勢急に海岸に迫るを以て、平野に乏しと雖、山脈以西の地は低平にして廣き平野を有し、諸川流通して、農産多くこの地方に出づ。

たいわんちほうのりんさん (臺灣地方の林産) 本島大部は熱帯に屬し、榕樹、檳榔、椰子等を産し、山地は巨大なる樹木蔚蒼たり。就中樟樹頗る多く、全世界中に冠たり。

たいわんちほうのふりる——たいわんちほうののうさん

1101

たいわんちほうののうさん (臺灣地方の位置) 我邦の西南端に當り、西は臺灣海峡を隔て、清國福建省に對し、南は北米合衆國のフィリピン群島に近し。

たいわんちほうのをんど (臺灣地方の温度) 全島三分の一は、熱帯に屬すれども、島地なるを以て氣候海洋性を帯び、他の熱帯地方の如く甚しからず。臺南に於て最高温度九十三度九に達す。

たいわんちほうのぼんと (臺灣土人の言語) 支那の泉州語及び廣東語にして、生蕃は南北蕃社により異なるなり。熱蕃語は前二語の混合せるものに屬す。

たいわんちほうのふりる (臺灣土人の風俗) 衆味未開の民にして、言語は馬來語より轉化したるものを用ゐるも、地方によりて大差ありて南北二蕃の共に、談ずる能はざるは勿論隣接する部落と部落との間も、相通するを難

たいわんなんぶちはうーだうちやう

しと云ふ。文字なく教育の何たるを知らず、僅に漁獵の如き簡單なる生業によりて、生活を営むに過ぎず。

たいわんなんぶちはう (臺灣南部地方) 臺南以南恒春に至るまでを總稱す。熱帯なれども氣候は北部に比し、反りて溫和なり。

たいわんなんぶちはうのさんぶつ (臺灣南部地方の産物) 砂糖はこの地方産物中の第一位を占む。その他豆類、煙草、黄麻、水牛等を産す。

たいわんのしだいさんぶつ (臺灣の四大産物) 北部の茶、石炭、中部の樟腦、南部の砂糖は臺灣四大産物の名あり。

たいわんのへいび (臺灣の兵備) 内地の各師團交るく混成旅團三個を駐屯せしめ、司令部は臺北、臺南、臺中にあり。若干の守備隊を各地に分派せり。

たいわんのめんせき (臺灣の面積) 二、二五三

方里にして、九州の次位にあり。

たいわんぼんぶく (臺灣蕃族) 本島の先住民にして、馬來種に屬するもの、如し。濁水溪を界として、南蕃北蕃に區別し、文化の度に從ひて、生蕃と熟蕃とに區別し。又、パイワン、テホン、アミ、ペホンの四蕃族となす。

たいわんぼくぶちはう (臺灣北部地方) 臺灣の北方一帯の總稱にして、西北に大屯火山脈、東南に新高山脈あり。その間一般に平野にして、淡水河その中央を流る。

たいわんぼくぶちはうのさんぶつ (臺灣北部地方の産物) 茶を主とす。その他石炭、樟腦、硫黃、甘藷、山藍、落花生、苧麻等多く産す。

だうとせんせん (道後温泉) 古來有名なる温泉にして、松山町の北十八町に在り。單純泉にして、半透明、無臭無味にして、浴客常に絶ゆるをなし。

だうちやう (道廳) 北海道の北州の札幌區に設

置し、三區十六支廳を配下におき、北州島、千島列島を管轄せしむる官廳なり。その長官は府縣の知事に相當せり。

たかねこう (打狗港) 又、たーくーといふ。臺灣鳳山の南西方一里に在り。砂糖の産出盛なりしが、港内年々埋れて大船を容るゝ能はざるに至り、商況次第に衰へて、安平に移るの傾あり。

たかさきし (高崎市) 信越線、両毛線、上野線の諸鐵道、皆、こゝに會合す。交通至便にして、人口三萬餘。生糸の集散地なり。

たかさきせん (高崎線) 日本鐵道高崎線は、東京市上野を起點として西北に走り、大宮にて奥州線と分れ、熊谷を経て上野國高崎市に至り、官設信越線に連絡せり。

たかしま (高島) 備中笠岡の南海上にあり。神武天皇東征し給ひし時、行在所となし給ひし處なりといふ。

たかおこうーたかたて

たかしま (高島) 長崎港の西海上三里にあり。周圍一里に過ぎざる小島なれども、石炭の産出著しきを以て有名なり。

たかしま (鷹島) 平戸島の正東にありて、伊万里灣に横はる。弘安の役元兵の據りし處、風濤の爲に艦破れて、壓殺されしも、亦、この附近なりといふ。

たがじやうし (多賀城址) 仙臺の東北一里許に在り。城址の古碑は一に壺の碑といふ。神龜元年鎮守府將軍大野朝臣の置きし所なりと云ひ傳ふ。

たかた (高田) 新潟縣荒川の西岸にありて、人口二萬三千。商業繁盛なり。毎年積雪數丈、人家悉く雪中に没するを以て、その構造異様なり。

たかたて (高館) 陸中に在り。源義經京師を逃れ、來りて藤原秀衡に依り、この地に居りしといふ。

たかたへいや (高田平野) 越後の高田附近一帯の平野にして、荒川の流域に屬し、新潟平野に隣る。米穀の産甚だ多し。

たかちほ (高千穂) 日向の國延岡の西にあり。この地に、高天原と稱する所あり。

たかちほのみね (高千穂の峯) 日向の西南大隅との國境に霧島山あり。峯嶺東西に分る。東嶽は一に高千穂峯と稱し、海拔五、一二〇尺あり。

たかちほのみやあと (高千穂の宮址) 日向國、都の城にありと傳ふ。

たかつまやま (高妻山) 長野縣上水内郡西北に位し、戸隠山の北に峙つ。北方越後の黒澤岳と對峙す。直立八千三十六尺、登行凡そ五里あり。

たかぬははんたう (高繩半島) 伊豫の中央部より北方海中に突出したる半島にして、沿岸に今治、三津濱等の港あり。

たかはし (高梁) 備中の一都會にして、人口大千。麥稗真田の産出を以て名高し。

たかはらかは (高原川) 岐阜縣飛騨國吉城郡にあり。源を郡の東南に發し、西北に流れ宮川と相會し、富山縣に入り神通川となる。流程十二里十八町、巾二十間。

たかまづかり (高松港) 香川縣讃岐國香川郡の北部内海に臨める港なり。北向にして、水深五仞あり。明治三十六年築港落成す。大阪、神戸、馬關及び瀬戸内海の各港と、汽船の交通あり。神戸へ六十三哩あり。

たかまつじやうし (高松市) 香川縣廳の所在地にして西南紫雲山を負ひ、北は瀬戸内海に臨む。人口三萬五千餘。陸に讃岐鐵道通じ、海に大阪馬關等その他、瀬戸内海の諸港と汽船の往來ありて繁盛の都會なり。市の北なる栗林公園は有名なり。

たかまつじやうし (高松城址) 備中の東南備前

の國境に近き所にあり。豊臣秀吉が、清水宗治を水攻めにしたるは、この所なり。

たかみやま (高見山) 大和伊勢の境に聳ゆ。奈良縣吉野郡大臺原山の北に在り。伊勢國飯南郡に跨る。直立四千二百九十尺あり。古稱は高角山なり。

たかやま (高山) 飛騨川の上流地方にあり。山高く水清く風景佳なり。生糸一位細工を産す山間の一小都會にして、人口一萬五千餘。

たからのしちたう (寶の七島) 大隅の南方海上にある口の島、中の島、諏訪の瀬島、臥蛇島平島、悪石島、寶島を併稱す。

たかを (高尾) 山城愛宕山の支脈にして、清瀧川の上流にありて、觀楓の勝地なり。

たかをかし (高岡市) 越中にありて、北陸、中越兩鐵道線に當り、且、庄川ありて運輸を助く、市街繁盛。人口三万。富山に亞ぐの大都

たかみやま ー たけだじやうし

なり。漆器、銅器、織物等を産す。

たきのがは (瀧の川) 兵庫縣丹波國氷上郡に發し佐治川と云ひ、播磨に入り杉原川を合せ、始めて本川の稱を得、下流は加古川となる。香魚を産すを以て著名なり。

たぐすのけい (濁水溪) 源を、雪山 (シルピヤ山) の南方に發し、新高山間の溪流を合せ、下流數多に分岐して海に注ぐ。河床の勾配急にして、河水爲に濁れるが故に、この名あり。

たけしき (竹敷) 對馬の下島の北岸にありて、淺海灣に臨む。砲臺の設ありて、竹敷要港部あり。

たけした (竹下) 駿河御殿場の東北に當る。新田義貞が足利尊氏の爲に破られし所なり。

たけだ (竹田) 大分縣大野川の上流にありて、熊本縣に通ずる要路に當れり。

たけだじやうし (武田城址) 山梨縣甲府の北八

たけとよ—たちみ

町に在り。永正年間武田信虎の築きし處にして、信玄、勝頼に傳ふ。城址には、信玄の墓あり。

たけとよ (武豊) 尾張知多半島の東岸にある開港場にして、港内水深く、波穏かに、且、陸運の便を兼ねるが故に、百貨輻輳し、商業隆盛なり。

たけとよせん (武豊線) 大府を起點とし、龜崎、牛田、武豊の諸邑を通ずる官設鐵道線なり。
たけぶ (武生) 福井市の南西にありて、北陸鐵道線に當り、機業地にして、又、蚊帳を産す。
たけもり (竹森) 山梨縣の一都邑にして、その附近よりは良質の水晶を産す。

たけを (武雄) 佐賀縣肥前國杵島郡にある町なり。人口三千百二十八。島栖長崎間の鐵道線にかゝり、停車場を設く。武雄温泉ありて著名なり。

たこのちら (田子の浦) 駿河の富士郡一帯の海岸にして、紅葉を以て著はる。

岸にして、北に富士山を望み、西に三保の松原を眺め、南は渺々たる駿河灣を望み、雄壯なる風光を有す。

たざいふ (太宰府) 筑前にあり。古來九州及び二島を管し、且、外交に當りし所にして、太宰府神社あり。菅原道真を祀る。

たじま (但馬) 山陰道の一國にして、兵庫縣に屬して、その北部を占め、北日本海に面し、西は因幡、南は播磨、東は丹波丹後に接す。
たなみがは (只見川) 源を尾瀬沼に發し、越後の境に近き岩代の山間を北流して、日橋川に合す。

たちばなやま (立花山) 筑前糟屋郡にあり。山頂七峯に分れ、その内最も高きを本城といふ。天正年間島津義久、立花宗茂をこゝに攻めしことあり。

たぢみ (多治見) 美濃にあり。人口約六千。陶磁器の製出を以て著はる。

たつたがは (立田川) 大和の北部を流る、細流にして、紅葉を以て著はる。

たつの (龍野) 播磨の都邑にして、醬油の名産地なり。

たつびぎき (竜飛岬) 陸奥津輕半島の北端にして、渡島の白神崎と相對す。その間、僅かに五里。

たてかほどうさん (立川銅山) 伊豫に著名なる銅山にして、その産額のみき足尾に亞ぐといふ。

たてしなやま (立科山) 長野縣北佐久郡の西南境に在り。富士帶火山脈の惣火山なり。直立八千四百尺餘あり。登山三里。

たてばやし (館林) 上野國邑樂郡に在る町なり。人口九千八十。秋元氏の舊城市にして、絹織業盛なり。諸會社あり。小都會にして諸官衙あり。

たちやま (立山) 越中の東南に峙ち、北陸著名

たつたがは—たにやまくわうさん

の高山にして、海拔九、五〇〇尺。山頂に雄山神社ありて、夏日參詣者多し。

たてやま (館山) 安房國の南部にあり。館山灣に臨む。往昔里見氏の居城たりし所にして、海水浴の適地なり。

たどつころ (多度津港) 香川縣に在り。四國中屈指の要港にして、港内水深く碇泊に便なるを以て、中國沿岸を往來する船舶、大抵こゝに寄泊し、市街繁華なり。

たなべ (田邊) 和歌山縣紀伊國西牟婁郡の海岸にある町なり。人口七千六百。安藤氏の舊城市にして葛粉を産物とす。

たなべわん (田邊灣) 和歌山縣紀伊國南牟婁郡の西岸に在り。東西十九町、南北一里五町。水深二仞。一名扇の濱と云ふ。附近の島に温泉あり。夏季遊客多し。

たにやま (磐山) 鹿兒島縣に在りて錫を産す。
たにやまくわうさん (谷山嶺山) 鹿兒島縣の西

南に在り。錫の産額甚だ多し。

たねいぢやま(種市山) 岩手縣陸中國九戸郡北境に位す。北上山脈中の山岳なり。直立二千三百七十尺あり。西の方は陸奥の三戸郡に跨る。

たねがしま(種子ヶ島) 大隅の南、佐多岬を距る十里の海上にあり。天文十二年葡國人この島に來りて互市を求め、鳥銃を齎らせり。これを我國火器の始とす。

たはらざか(田原阪) 肥後にあり。近傍なる植木町と共に、西南の役に於ける激戦地として著はる。阪上の紀念碑及び左方樹間の招魂標は當年の光景を想起せしむ。

たひら(平) 福島縣に在り。もと磐城平と稱す。西松浦半島と彼杵半島とによりて擁せらる。

たひら(平) 福島縣に在り。もと磐城平と稱す。海岸地方屈指の都會なり。この地方石炭の産

出極めて多し。

たふのみぬ(多武峯) 大和國に在り。藤原鎌足を祀れる談山神社ありて峯の中腹に當り。社殿の宏壯、境内の幽邃なるを以て著はる。別格官幣社たり。

たまがは(多摩川) 源を甲斐の大菩薩峠に發し東南に流れて武蔵に入り、多くの支流を合せて東京灣に注ぐ。下流六郷川の稱あり。水清きが故に東京市の飲料に供せり。この河より産する鮎は有名なり。

たましま(玉島) 岡山縣の海岸にありて、山陽鐵道線その北を過ぐ。高梁川沿岸地に入出する貨物の市場たり。

たんど(丹後) 山陰道に屬する一國にして、京都府管轄區内にあり。北は日本海に濱し、東南西の三方は丹波及び但馬に界す。

たんごほんたう(丹後半島) 丹後國の北部日本海中に突出したる部分にして、宮津灣を擁す。

たんさんじんじや(談山神社) 大和多武峯の中腹に在りて、別格官幣社たり。藤原鎌足を祀る。社殿宏壯、境内幽邃なり。

たんするけい(淡水溪) 臺灣の南部に在り。源を新高山に發し、流程三十里あり。流域は稻田遠く開け、巨額の米産あり。

たんするところ(淡水港) 一に滬尾といふ。臺北の北西五里、淡水河口の右岸にあり。商業盛にして茶、石炭、樟腦、砂金を輸出し、棉布類、金箔、鴉片を輸入する要港なり。この港は往時頗る良好なれども、淡水河より吐出する土砂堆積して、遂に大船を容るゝ能はざるに至れりといふ。

たんするせん(淡水線) 官設臺灣鐵道の南北を貫く幹線の一驛たる、太稻埕驛より分岐して西北方に走り、淡水河口の淡水港を終點とする支線なり。この間に三ヶの停車場を設く。たんのうち(壇の浦) 下關東部の海にして、文

たんさんじんじや——ちおんおん

治元年源平の戦に、平氏大敗して一族戦没したる所なり。

たんば(丹波) 山陰道の一國にして、その大部は京都府に屬し、の多紀、氷上の二郡は兵庫縣に屬す。北は丹後、若狹に接し、東は山城に連り、南は攝津、播磨に界す。

たんばかりげん(丹波高原) 京都府下と兵庫縣下に屬する丹波國は、四方山にて圍み一大高原をなす。

たるまいだけ(樽前岳) 北海道蝦夷に在り。支笏湖の南方に聳ゆ、勇拂郡の西隅にありて千歳、白老の二郡に跨る。直立三千二百尺。その西方モクシタフコフ山と相對峙す。

あ

ちねんるん(智恩院) 京都市下京區に屬し、三

條、四條の中間に位す。淨土宗鎮西派の總本山にして、華頂山大谷寺と號す。建曆元年僧慈鎮、この寺を僧の源空に寄附して栖止せしむ。洛東第一の巨刹たり。

ちきり (地球) 球体をなせども、南北兩極に至れば、稍、扁平なり。直徑凡そ三千二百里、周圍一万里あり。

ちきりき (地球儀) 地球の雛形を地球儀と云ふ。その表面は、最も完全なる地圖を成す。

ちきりちきり (地球の運動) 地球は絶えず二様の運動をなす。一は地球が地軸によりて一日に一回西より東へ回る運動にして、これを自轉といひ、他の一は地球が、自轉しつつ一年間に一回、太陽の周圍を回る運動にしてこれを公轉と云ふ。この二様の運動によりて晝夜と四季との區別を生ずるなり。

ちきりちきり (地球の面積) 地球の面積は凡そ三千三百萬方里、即ち五億一千万方キロ

メートルあり。一キロメートルは一メートルの千倍にしに、一メートルは凡そ三尺三寸に當る。

ちくこ (竹湖) 壺灣島の中部、濁水溪の北側にありて、その水、濁水溪に注ぐ。

ちくこ (筑後) 九州島の北部に位する一國にして、筑前の南に連り、東、豊後に界し、南、肥後に接し、西は筑紫海及び肥前に限らる。

ちくこがは (筑後川) 一に千歳川と云ふ。源を豊後、肥後の兩國より發し、共に數多の支流を併せ、豊後の西方に於て相會し、西流して筑前、筑後の間を界し、久留米を過ぎて西南に轉じ、肥前、筑後の兩國に出入し、大川港に至りて筑紫海に注ぐ。九州第一の大河にして、世にこれを筑紫二郎といふ。舟運の便少からず、中流の地は、菊池武光が大友氏と奮戦したる所なり。

ちくこへいや (筑後平野) 福岡縣筑後國筑後川

ちけいのめいしよ (地形の名稱) 陸地の凸凹

の状態及び海面よりの高さによりて平原、高原、丘陵、山岳等の名あり。

山岳の連續せるものを山脈といひ、山脈の一系を成せるものを總括して、山系と稱し、又山岳の群集せるを山嶽といふ。陸地の一部海中に突出せるを岬(崎)といひ、陸地の一部を除く外、海水に圍まれたるを半島といひ、海水の一部、陸と陸とに挟まれたる處を海峽といひ、海水の陸地に浸入したる所を灣といひ、灣にして、船舶の碇泊に安全なる處を港といふ。

ちきりさん (地蔵山) 長野縣北安曇郡の北部に位し、北小谷村の東北に屹立す。

ちきりさん (地蔵山) 上野國勢多郡の北部に位し、赤城山群峯の一なり。直立五千五百尺。

ちきりさげ (地蔵岳) 下野國上都賀郡の西北境に位し、粕尾村の西方に發し、西方上野國勢

の流域は、所謂筑後平野にして、九州の平野中最も廣きものなり、その廣と、畧、十二万五千町の田圃を有す。米、菜種等の産額夥し。

ちくせん (筑前) 福岡縣の一部に當る九州の一國にして、北西は玄界灘に面し、南は肥前、筑後に接し、東は豊前に界す。

ちくふしま (竹生島) 琵琶湖中に在りて、花崗岩より成る。大津より十六里、長濱より三里島中に辨財天を祭れる神社あり。

ちくほらのたんざん (筑豊の炭山) 遠賀川上流一帯の地は、筑豊炭田と稱し、石炭を出すこと多く、我國産額の五分の三を占め、遠賀、鞍手、嘉穂、田川四郡の地を主要の産地とし

百四十餘坑あり。就中、鞍手の新入、嘉穂の餘田、田川の赤池等最も名高し。

ちくまがは (千山川) 信濃に在り。源を甲武信嶽に發し、川中島に至りて犀川と合し、越後に入りて信濃川となり、新潟港に注ぐ。

多郡に跨る、登行四里十八町あり。

ちさうはな(地蔵鼻) 出雲國島根半島の東端をいふ。

ちしま(千島) 根室灣の東方より、斜に東北に羅列して海上三百餘里に涉り、その島數三十二あり。これを南北の二部に分つ。國後、色丹、擇捉、得撫等はその南部に屬し、新知、幌筵、占守、阿頼度等はその北部に屬す。諸島多く火成岩より成れども、耕牧に適す。又各島の沿海は、海獸、魚類、藻類の産多し。ちしまかいけふ(千島海峡) 千島列島の東北端なる占守島と、露領カムチャツカとの間にある海峡を云ふ。

ちしまたいくわさんみやく(千島帯火山脈) 露領カムチャツカ半島より千島を貫き、十州島の中央に達する大火山脈にして、キトウシ山、雌阿寒岳、雄阿寒岳、斜里岳、ラウシ岳等の諸火山、脈中に繋ゆ。

ちしまのめんせき(千島の面積) 千島の面積は一〇、三三方里にして、これを四國島の面積に比較するに、稍、小なり。

ちしまれつたう(千島列島) 根室灣の東方より斜に東北に羅列して、海上三百餘里に涉り、三十二島より成りて九郡に分る。即ち國後、擇捉、色丹、占守、新知、得撫、振別、榮取、紗那これなり。これを南北の二部に分つ。その南部に屬するものは國後、擇捉、色丹、得撫等の諸島にして、新知、幌筵、占守、阿頼度等の諸島は北部に屬す。諸島の地層は多く火成岩より成れども、地味耕作に適し、又、各島の沿岸は海獸、魚類、藻類等に富む。

ちたわん(知多灣) 尾張の東南より海中に突出したる半嶋にして、三河の渥美半嶋と相對して三河灣を擁す。半嶋の南端を師崎といひ、東岸に武豊の良港あり。

ちたわん(知多灣) 三河灣の北部にして、三河

の西海岸と、知多半嶋とによりて擁せらる。ちぢく(地軸) 地球は一つの假想軸によりて、日々西より東に回轉す、その假想軸を地軸と云ふ。即ち南北兩極を貫ける一線なり。

ちちしま(父島) 小笠原諸島中最も大なるものにして、周圍凡そ十五里あり。これに亞ぐものを母島とす。熱帯性の動植物を産す。

ちちぶさん(秩父山) 一に武甲と稱す。埼玉縣武藏國秩父郡の東南部に峙ち、海拔四、三二三尺。縣下第一の高山にして、西北群山重疊し、甲、信、上に連る。

ちづ(地圖) 地球表面の一部若くは全部を、平面の上に表したるものを地圖と云ふ。地圖は別段方角を記するにあらざれば、上を北とし、下を南とす。左右の線は緯線にして上下の線は經線なり。左右の數字は緯度を表はし、上下の數字は經度を示す。凡て度の記號には(°)を用ひ、分には(')秒には(")を用ひ

ある。地圖には海圖式と圓錐式とあり。前者は兩極地方大きく現はる。

ちとせがは(千歳川) 筑後川の別名なり。同項を參観すべし。

ちぬのらみ(茅渚海) 大阪灣の別名なり。同項を見よ。

ちば(千葉) 千葉縣廳の所在地にして下總に在り。東京灣に臨み、横濱との間に汽船の往復あり。千葉二十餘世の居城のありし地にして商況盛んなり。

ちはらさいばんしよ(地方裁判所) 區裁判所の上级に位する裁判所にして、全國に四十九箇所あり(臺灣を除く)。區裁判所にて取扱はれざる裁判事務を取扱ふ所なり。ちはらはるん(地方法院) 臺灣地方の裁判事務を取扱ふ所にして、八箇所の設置あり。ちばけん(千葉縣) 下總の大部及び安房、上總を管す。縣廳は千葉にあり。

ちばけんのかいがん(千葉縣の海岸) 東海岸は
屈曲極めて少くして、銚子岬の外、良港なく
大吠岬より南大東崎に至る間は、所謂九十九
里の瀨と稱し、一帯白砂の海濱にして、良好
なる漁業地なり。房州沖は野島岬近海をいふ
ものにして、波濤高し。富津崎は西方に突出
して、三浦半島の觀音崎と相對し、東京灣を
扼せり。

ちばけんのかうつち(千葉縣の交通) 本縣は安
房下總の一部を除けば、他は悉く平野にして
鐵道各地に連り、道路もよろしく交通の便頗
るよし。鐵道の項參觀。

陸前濱街道は下總の松戸より初まり、鐵道に
沿ひて常陸に入る。陸羽街道は中田より古河
を経て下野の野木に至る。銚子街道は行徳町
を起點として八幡、大森、神崎、佐原を経て
銚子港に至る。

ちばけんのかと(千葉縣の河湖) 利根川は縣の

北方茨城縣との境を流れ銚子港に注ぐ。漕漈
運輸の便甚だ大なり。近時州崎より深井に至
る運河を開鑿し、汽船の往來常に絶えず。江
戸川は利根川の支流にして、下總の關宿より
分岐し、武藏下總の國境を流れて東京灣に注
ぐ。

印幡沼は下總の中央に位し、周圍十二里餘。
湖岸の風光美しく、その水利根川に注ぐ。そ
の他手賀沼、長沼等あり。

ちばけんのかやうかい(千葉縣の境界) 北方利
根川を隔て、茨城縣に界し、西北は江戸川を
隔て、埼玉縣及び東京府と界し、東及び南
は日本海に臨み、西は東京灣に濱せり。

ちばけんのさんかく(千葉縣の山岳) 本縣の山
岳は房總半島の脊骨をなす諸山にして、安房
と上總の境に清澄山、鋸山あり。その北方に
鹿野山あり。その東方に石尊山あり。鋸山は
その鋸に似たるを以てこの名あり。

ちばけんのさんぼう(千葉縣の産業) 九十九里

濱は漁業盛んにして、就中、鱒魚の盛んなる
は我邦第一にして、その大部分は搾粕、乾鱒
などに製す。その他、鯉、鯛の漁獲、亦、多
し。野田は醬油を以て名高く、近來米國へも
輸出せり。銚子佐原も、亦、醬油の名産地な
り。流山は味淋を出し、佐倉は炭、銚子は銚
子縮を以て有名なり。

ちばけんのちせい(千葉縣の地勢) 北部地方は
凡て利根川及び江戸川の流域にして、土地低
平なれども、南方安房、上總の境には、安房
山脈の横はるありて、一帯に山陵起伏し平地
少し。

ちばけんのでつち(千葉縣の鐵道) 日本鐵道
は東京より來り、本縣を過ぎて茨城縣に入る。
總武鐵道は東京より來り、千葉佐倉等を経て
銚子に至る。成田鐵道は佐倉より起り、成田
を過ぎて佐原に至る。又、成田より西北に出

ちばけんのさんぼう——ちやう

で、日本鐵道の海岸線に連續するものあり。
房總鐵道は本縣の千葉より起り、東海岸に向
ひて走り勝浦に至る。

ちばけんのちち(千葉縣の位置) 千葉縣は、所
謂房總半島一帯の地を含み、關東地域の東部
より東南に突出せり。北は茨城縣に連り、西
北は埼玉縣及び東京府に接し、東、南は太平
洋に、西は東京灣に瀕す。

ちばけんのかやうし(千葉縣の城址) 金剛山の西腹にあ
り。山勢巍峨として頗る險峻に、四面の谿谷
は削れるが如し。城は楠正成の築きし所にし
て、賊の大兵これを攻めて、遂に降すこと能
はざりき。

ちんじゆふ(鎮守府) 全國(臺灣を除く)の海岸
及び海面を四海軍區に分ち、各區に鎮守府を
置き、數多の軍艦は分れてこれに屬し、以て
海上の防備を掌れり。

ちやう(廳) 臺灣は總督府ありて、全島を管轄

ちゆうごう——ちゆうごくちゆうのうりやう

し、その下に数多の廳あり。廳の下に辨務署ありて行政事務を行へり。

ちゆう(町)町は自治團體にして、公民より選舉せられたる町長ありて、團體の事務を掌れり。

ちゆうくわい(町會)町の財政その他重要な事務を審議決定する所にして、その議員は公民中より選舉せらる。

ちゆうせい(町税)町の費用に充つるために、その人民中より納むる所にして、地租割、戸數割等は、その重なるものなり。

ちゆうちゆうふんするさんみやく(中央分水山脈)中央分水山脈は、奥羽地方の中央にあたり、南北に走る山脈にして、太平洋方面と、日本海方面とに分水線をなす。故にこの名あり。この山脈に沿ひて、那須帯火山脈は噴出せり。

ちゆうがくか(中學校)中學校は高等小學二年級以上の課程を修了せし生徒に、稍、進み

たる普通の教育を興へて、社會の中流以上に立つべき國民を養成する所にして、各府縣に數校を設立す。又、私立の中學校ありて殆んど同程度のものなり。

ちゆうごくさんみやく(中國山脈)山陰、山陽兩道の間を東西に走る山脈にして、大山、三瓶山、菅野山等は、この脈中にあり。高峻なるもの稀にして、高臺をなせるに過ぎず。

ちゆうごくちゆう(中國地方)因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐、美作、備前、備中、備後、安藝、周防、長門の十二國にして、山陰、山陽の大半を占む。これを五縣に分つ。

ちゆうごくちゆうのうりやう(中國地方の雨量)南面せる地方(即ち山陽道に屬する地方)は北より來る、水蒸氣は中國山脈に遮られ、南よりする水蒸氣は、四國山脈に遮らるゝが故に

雨量極めて少し。これ、この地方に製鹽業の盛んなる所以なり。北面の地方(即ち山陰道に屬する地方)は北陸道と同じく、日本海の風を受くるを以て雨多けれども、最も雨量多き西北風を直接に受けざるを以て、北陸道の如く甚しからざれども、全國中雨量多き部に屬せり。

ちゆうごくちゆうのかいがん(中國地方の海岸)瀬戸内海の沿岸は出入極めて多く、良港に富めり。その主なるものは、岡山縣には兒島半島突出して兒島灣を擁し、廣島縣には廣島灣の灣入ありて、宇品港、吳港あり。東方に鞆津、尾道あり。山口縣には室津港突出して、室津港をなす。その他榑井、三田尻、下關等あり。

日本海の沿岸は出入少く、僅かに、島根半島の突出あるのみ。隨て良港に乏し。ちゆうごくちゆうのかいさん(中國地方の海産)

ちゆうごくちゆうのかいがん——ちゆうごくちゆうのかりう

瀬戸内海地方の沿岸は、年中晴天多く、海水の蒸發盛んにして、外海に通ずる所は海峽なるを以て、海水濃厚なるが故に、製鹽に適し巨額の産出あり。魚貝の利も、亦、富めり。日本海沿岸よりは、鱈、鰯、白珊瑚等の産あり。

ちゆうごくちゆうのかりう(中國地方の交通)山陽、山陰兩道ともその沿海地を通ずる街道あり。山陽道沿海地の中國街道と稱し、山陽鐵道、畧、これに沿ひて西走し、下關市に至る。山陰道沿海地の街道には、鐵道甚だ多からず。則ち、伯耆の境より起りて、東に走り因幡の青谷に至る。その兩道を聯接する二三の主要なる街道あり。中國鐵道は岡山市より北に走り、津山に至り、その一に關聯す。瀬戸内海の沿岸は、良好の港灣に富むを以てその沿海の交通、亦、甚だ便なり。

ちゆうごくちゆうのかりう(中國地方の河流)

ちゆうごくちはらのきこう——ちゆうごくちはらのこうわん

河流の主なるものは南に吉井川、旭川、川邊川あり。北に千代川、日野川あり。諸川の沿岸は山陰、山陽の交通線にして、下流の流域は農産豊なり。西部には簸川、江川、高津川岩國川、太田川あり。簸川は出雲の中央を瀝流し、宍道湖に注ぐ。江川は備後の中央に發し、三次の邊にて數川を合せ、中央の脊骨山脈を横ざり、石見に入り海に注ぐ。中國第一の大河なり。

ちゆうごくちはらのきこう (中國地方の氣候) 瀬戸内海に面する地方は、東海道に比すれば内地性にして、寒暑共に強し、これ東海道は沙漠たる大洋の影響を受くれども、この地方は狭き瀬戸内海を擁するを以てなり。日本海に面する地方は、冬季割合に寒からず。備前地方の俗語に「雪は降れども因幡はぬくい、寒むや備前の川風」といふことあり。又、南面地方は、雨量少くして風穩かに北面地方は

雨量多くして風力強し。ちゆうごくちはらのきやうかい (中國地方の境界) 本州の西部に位し、近畿地方の西に連り北は日本海に面し、南は瀬戸内海を控へ、西は下關海峡によりて九州に連る。内に十二國五縣あり。

ちゆうごくちはらのこうわん (中國地方の港灣) 瀬戸内海にては、東に備前の兒島灣あり。その西方に玉島、笠岡の兩港あり。廣島縣には鞆の津、尾の道、糸崎、吳の良港あり。廣島灣に宇品港あり。山口縣には徳山、三田尻、下關等の良港あり。下關は、開港場にして、瀬戸海の門口にあたり、交通盛なりとす。日本海の方面には海岸線の風曲に乏しく、隨て良港なし。たゞ石見の濱田と、伯耆の境とを著しきものとなすのみ。兩港とも開港場なり。その他中の海の灣底に、米子港あり。松江境間汽船の往來あり。

ちゆうごくちはらのきこう (中國地方の湖沼) 宍道湖は中海の西にあり。もと中海と通じたりしが、今は土砂堆積して、馬瀨の瀬戸といへる一條の川を以て相通するのみ。東海に一小島あり。嫁ヶ島と云ふ。全島廢にして古松その面を點綴し、湖上の風光を添ふ。湖中の鱸は、味、甚だ美なり。斐伊川、宇賀川、來待川、玉造川等、皆、この湖に注ぐ。

ちゆうごくちはらのさんかく (中國地方の山岳) 中國山脈は山陽、山陰兩道の分水嶺となり、その中に著しき山岳は、東部に那岐山、蛭山、大山、三平山、鷹巢山あり。中部に船通山、三光山、毛無山等あり。西部には雲月山、苅尾山、十方山、冠岳、平家山、羅漢山、秘密岳、權現山等あり。白山帯火山脈には出雲、石見の境に聳ゆる三瓶山を、著しきものとす。ちゆうごくちはらのさんぶつ (中國地方の産物) 瀬戸内海に面する地方は、産物豊にして、米、

麥、苧、綿等を産し。三備地方は蠶表、花蒔の産著しく、西部よりは木綿、織物の産多し。沿岸の地は製鹽盛んに、魚貝の利、亦、多し。日本海に面する地方は、農産地域廣からず、生産原料豊ならざるため、産物の見るべきものなし。唯、牧牛盛んにして、兵庫縣の北部と併せて、三丹地方の牛と稱せらる。

ちゆうごくちはらのじんこう (中國地方の人口) 中國山脈は、下關に於て九州北部山脈を受けて、山陰、山陽兩道の間を貫きて、脊骨状をなし、著しき高山大嶽なく、一の高壑状をなせり。最高峯を大山とす、海拔五、八〇〇尺あり。ちゆうごくちはらのじんこう (中國地方の人口) 瀬戸内海方面の地方は陸に鐵道あり。海に良港多く、交通便利なるを以て、人口稠密なり。平均每方里の人口二千七百餘人あり。これに反して、日本海方面の地方は交通不便なるを

ちゆうごくちはらのきこう——ちゆうごくちはらのじんこう

以て人口、亦、稀に、平均一万里に一千六百九十餘人を容る。

ちゆうごくちほうのそくたう(中國地方の屬島) 日本海方面には、島嶼に乏しく、内海には島嶼頗る多し。備前に鹿久居島、長島、犬島。備中には神島、高島、北木島、大島あり。備後には田島、向島、因の島。安藝には殿嶋、江田嶋、能美嶋、倉橋嶋、大崎嶋、豊嶋、上蒲刈嶋、下蒲刈嶋等あり。周防には大嶋、平群嶋、屋嶋、上關嶋、牛嶋、祝嶋、笠戸嶋、仙嶋、向嶋あり。長門には西に彦嶋、六連嶋、蓋井嶋、白嶋、角嶋等あり。日本海の方には青海嶋、見嶋、相嶋等あり。石見には高嶋あり。隠岐は嶋前、嶋後に分れ、嶋前は四の嶋中の嶋、知夫嶋等より成る。その他明治三十八年度より我領土となりし、元、韓國の竹嶋は隠岐の六十哩西にあり。

ちゆうごくちほうのちせい(中國地方の地勢)

三田尻等を経て、下關市に至りて、終るものを幹線とす。支線は安藝の海田市より起り、吳市に至るものあり。

■ 中國鐵道は備前の岡山市を起點として北に走り、美作の津山にて止む、その間八驛を置く。延長三十四哩七十七鎖あり。その他岡山市より起りて西南に走り、湛井に至る線あり。この間に六停車場を置く。

■ 山陰の鐵道は、伯耆の境に起り、畷、海岸に沿ひて東に走り、鳥取市に達せん。ちゆうごくちほうのふんど(中國地方の風土)

山陽の氣候は、概して温暖にして降雪少なけれども、山陰は冬季は北風烈しくして、海上の交通殆んど絶に、山地は積雪甚だ深し。山陽は耕地開け地味肥沃にして、殊に備中、周防は田圃よく開け、人口も、亦、稠密なれども山陰は耕地乏しく、人口も、亦、疎なり。本地方に於て人口一萬以上の都會、總て十三あり

ちゆうごくちほうのふうど——ちゆうごくちほうのそんご

中國山脈中央を貫通して、脊骨状をなし、この地方の分水界を以て、地勢を南北の兩部に分てり。即ち瀬戸内海斜面、日本海内海斜面これなり。

瀬戸内海斜面は、所謂山陽道の地にして、中國山脈より瀬戸内海に向つて傾斜す。故に河流は大抵南流し、地幅狭きを以て大河なく、降雨あれば急流奔下して、洪水氾濫の憂ひ多く、地質花崗岩より成れるを以て、山岳脊骨を露はし、その破片流下して、海濱白砂の瀆多し。

日本海斜面は、即ち山陰道の地にして、中國山脈より日本海に向つて傾斜せり。故に河流も亦、北流し、平野極めて少し。只、僅に斐伊川、江川の流域并に海岸に小平野あるのみ。ちゆうごくちほうのてつたう(中國地方の鐵道)

■ 山陽鐵道は神戸より起點として、畷、中國街道に沿ひて西に走り、岡山、廣嶋、岩國、

りて、その九は山陽地方にあり。

ちゆうごくちほうのふんど(中國地方の風位) 山陽は、南に四國島横はりて、外洋の風力を緩くべき位置にあるを以て、一般に風力穏かにして、冬は北西風、夏は南西風多し。これに反して、山陰方面は海上の強風直ちに襲來し冬は北西風、夏は北風強し。

ちゆうごくちほうのそんご(中國地方の位置) 本州の西部にありて近畿地方の西に接し、南方瀬戸内海を隔て、四國嶋と相對し、北方日本海に濱し、西は下關海峡を隔て、九州に臨む。

ちゆうごくちほうのそんご(中國地方の溫度) 山陽地方は北に山を負ひ、南方に臨むを以て氣候概して、温暖なれども、これを東海道に比すれば内地性にして、寒暑、稍、強し。これ東海道は大洋の影響を受くるも、この地方は狭き内海に面するを以てこの差あり。山陰の地方は風強く、降雪多けれども割合に寒か

ちゆうせんじとつくしま

ちゆうせんじと(中禪寺湖)下野日光山中にあり。もと足尾山脈の北麓大谷川の流域なりしが、男体山の噴出によりて、河水塞がりて湖となりたるものにして、周囲八里、海拔四千四百尺あり。風光の佳なる日光山中の第一にして、最も避暑に適せり。

ちゆうばんじ(中尊寺)陸中平泉にあり。平泉は藤原清衡以下三代の治府たりし地なるを以て、この寺も、亦、堂宇宏壯美麗を盡ししが火災に罹りて後、今は僅に一二の堂宇を存するのみ。

ちゆうや(晝夜)地球の自轉するや、太陽に面する處と、面せざる處とを生ず、その太陽に面する處は晝にして、面せざる處は夜なり。

ちよのまつばら(千代の松原)筑前博多灣近傍一帯の地方をいふ。白砂青松連りて數里に亘れり。弘安の役に元兵の暴虐を逞うせし地なり。

り。近時、元寇記念碑の設置あり。

つがるかいけふ(津輕海峡)陸奥と渡嶋との間にして、日本海と太平洋との通路に當り、潮流急に航行危険なり。

つがるはんたう(津輕半島)陸奥の北端なる半島にして、東方北部半島と相對して、陸奥灣を抱けり。

つがるふじ(津輕富士)岩木山の別名なり。岩木山の部を見よ。

つきがせ(月瀬)大和伊賀の境に在り。名張川の溪間にして梅林多し。花は九村八谷に亘りて、花時遊客多し。

つくしかい(筑紫海)有明海の別名なり。同部を見よ。

つくしきぶらう(筑紫三郎)筑後川の別名なり

筑後川の部を見よ。

つくしきんみやく(筑紫山脈)九州山脈の一部にして、九州の北部を南西より北東に貫き、西には背振山となり、東には筑豊煤田たる小山塊をなす。肥前半嶋も、亦、この一派にして、温泉岳、多良岳を起せり。

つくしへいや(筑紫平野)筑後川の流域及び肥後の筑紫海沿岸の平野にして、極めて肥沃の濃産地なり。所謂、肥前米、肥後米は即ちこの平野の産なり。

つくばやま(筑波山)常陸の中央に聳ゆ。高峯にはあらざれども、關東平野中にあるを以て、その名著はる。男体、女体の双峯に分れ、海拔三千二百尺、山中名勝多し。

つくもがはま(九十九里濱)下總の大東崎より犬吠崎に至る海濱にして、長さ二十餘里。海岸平沙連りて弓形をなす。古來有名の鱈漁場

つくしきぶらう—つくしま

なり。

づさうてつぞりせん(豆相鐵道線)本鐵道は駿河國駿東郡長泉村に在る、三嶋驛を起點として南に走り、伊豆國山方郡大仁驛を終點とするものなり。線路延長十四哩五十一鎖あり。この間に六停車場を設置す。この鐵道に沿ひて古蹟勝地少からず、即ち葦山城趾、堀越御所の蹟、蛭が小嶋の古趾、修善寺の温泉、吉奈の温泉、頼家の廟、範頼の墓等これなり。

つし(津市)一に阿農津と云ふ。伊勢灣に濱し阿漕浦に臨む。三重縣廳の所在地にして、人口三萬三千餘。阿漕焼、津練子等の産あり。

づしりねき(豆州沖)伊豆の東南海上にして、潮流甚だ急なり。伊豆諸島その間に羅列す。

つしま(對馬)壹岐の西北海上にありて、北は朝鮮海峡を隔てて釜山浦に對し、古來朝鮮との交通の要津たり。南に横はるを上島と云ひ北にあるを下島といふ、両島山岳相連り、地

味痔せたり。沿海は漁利に富み、鰯、海參、乾鮑、鱧、鱈等を産す。

つしまかいりう (對馬海流) 黒潮の一派にして琉球附近にて本流と岐かれ、九州西海岸より對馬の東に沿ひて日本海に入り、本州に沿うて北進し、更に二派に分れ、その一は津輕海峡より太平洋に出でて本流に合し、一は奥尻島附近より北進し、宗谷海峽に至る。秋田地方の陸中邊より暖に、宗谷地方が根室邊より暖なるは、この潮流あるに由るなり。

つちうち (土浦) 霞ヶ浦の西隅にあり。濱街道及び常磐線の要衝に當り、人家節比し、繁華なる都會にして、土浦沿岸と銚子間に毎日汽船の往復あり。人口一萬五千ありて、風光よき地なり。

つちさき (土崎) 羽後の御物川の河口にありて秋田市の貨物を吞吐する要港なり。

つつじがさき (躑躅崎) 甲斐甲府の北にあり。

武田氏の據りて四方に號令せし所なり。

つつじがさか (躑躅岡) 仙臺市にあり。櫻花を以て有名なる公園なり。

づなんしよたう (豆南諸島) 伊豆の東南海中に羅列せる伊豆七島、八丈島、小笠原列島及び硫黄島を總稱して、豆南諸島といふ。

つやま (津山) 美作にありて、雲齋織を以て著はる。この地山間の小都會なれども因幡、伯耆二州の通路に當り、市街繁盛。人口一萬五千餘あり。

つるが (敦賀) 福井縣にあり。敦賀灣に臨み、西は榮螺岳の山脈連り、東南は木芽嶺、野阪山時ちて三面を圍繞し、港内波靜かに水深く大船を泊するに足るべき開港場にして、浦鹽斯徳との間に定期船の往來ありて、商況日に繁盛に向ふ。金崎宮は恒長、尊長兩親王を祀り。氣比神宮は官幣大社にして、仲哀、應神二帝、神功皇后を合祀せり。

つるがこう (敦賀港) 福井縣敦賀灣頭にあり。敦賀の部を見よ。

つるがわん (敦賀灣) 越前の西隅にあり。立石岬東方海中に突出すること三里、以てこの灣を擁せり。

つるがをかはちまんむら (鶴ヶ岡八幡宮) 鎌倉にありて、應神天皇、神功皇后、大仲媛命を祀る。康平六年源頼義、由比ヶ濱鶴ヶ岡に勸請し、建久四年頼朝この地に移せり。その神樂殿は義經の妾靜の舞を奏せし所、石燈の左傍、銀杏樹は別當公曉の隠れし所なり。

つるきさん (劍山) 阿波の西南に位し、海拔七千四百尺。小劍、大劍、黒笠、三峯、谷道の支峯に分かる、これを總稱して祖谷山ともいふ。

つるぬまがは (鶴沼川) 岩代にあり。源を那須岳の山間に發し、會津平野を流れて、日橋川に合す。

つるみさき (鶴見崎) 豊後の東方より突出せる岬にして、その南北は岩礁多し。

つるみだげ (鶴見岳) 豊後別府の北西に聳ゆ。有名なる活火山にして、海拔五、二四〇尺。山中舊火口あり、硫氣噴孔あり。

つるをか (鶴岡) 山形市の西北二十七里に在り交通便にして商業活潑なり。蕪蠟燭はこの地の名産なり。

つる (津呂) 土佐の海岸にありて、鯨獵を以て名を知らる。野中兼山の開きし港なり。

つわの (津和野) 石見國濱田港の西南に當り、山口縣に通ずる要路なり。

て

ていこくぎくわい (帝國議會) 貴族院、衆議院の二院に分かる。凡て法律及予算はこの兩

院の協賛を經べきものにして、毎年一回天皇の
皇の天命によりて開會す。

ていこくだいがく(帝國大學)東京、京都の兩
大學に分れ、東京帝國大學に法科、理科、醫
科、文科、工科、農科の六分科あり。京都帝
國大學に法科、理工科、醫科、文科の四分科
あり。

ていとくとしよくわん(帝國圖書館)本館は東
京市本郷區上野公園内に設置せらる。古今、
内外の各國の圖書を集めて、公衆の縦覧に供
するものなり。

ていしつはくぶつくわん(皇室博物館)本館は
東京市本郷區上野公園内に設置せらる。館内
は地理、歴史、博物等の部門に區劃して、古
今、内外諸國の事實を探究するの便あらしむ
るものなり。

ていしんしやう(逓信省)本廳は官設鐵道、郵
便、電信、電話、航路標識を管理し。私設鐵

道、電氣、造船水陸の運輸に關する事業及び
航路、船舶、海員等を監督する所にして、東
京市京橋區に設置せらる。

てりかいくわさんみやく(鳥海火山脈)那須火
山脈の西方に在り。月山、鳥海、森吉、岩木
の諸火山相列る。

てりかいざん(鳥海山)鳥海火山脈中の山岳に
して、羽後に在り。一に出羽富士と稱し、海
拔七、〇五〇尺。山腹に鳥の海(火口湖)あり
山趾の海岸に迫る處に、有耶無邪の關址あり。
てりし(銚子)利根川の河口に位し、港口岩礁
多く、大船を入れる能はざるも、亦、東海の一
要港なり。人口三萬餘。銚子縮及び醬油の名
産あり。

てがぬま(手賀沼)利根川の南方下總にあり。
淡水魚の産多く、冬期鳥獵盛なり。

てしほ(天摺)十州島の北部の一國にして、西
方日本海に面し、北及び東は北見に限られ、

南方石狩に接す。

てしほがは(天摺川)天摺にありて、一に西母
川といふ。十州島中第二の長流にして、源を
天摺岳に發し、西北流して海に注ぐ。水深く
流緩にして、運輸の便大なり。

てしほせん(天摺線)本鐵道線は官設にして、
石狩の旭川より分岐して、畧、北方に走り、
天摺に入り、劍淵、士別、風連等を經過し、
目下名寄に至る。この線は將來北見の國に入
り、宗谷に至らんとする豫定なり。

てしほだけ(天摺岳)天摺、北見、石狩の境に
峙つ高山にして、海拔五、一〇〇尺餘あり。

てしほへいや(天摺平野)天摺川の流域一帯の
平野にして、地味肥沃なれども、未だ開墾の
緒に就かず、上流地方よりは良材を産す。

てどりかは(手取川)源を白山に發し、加賀の
中央を流れ、白山、大日の諸川を合し、西流
して日本海に注ぐ。

てしほがは——てんりうかは

では(出羽)羽前、羽後の二國は、昔時出羽と
稱せり。今は、山形、秋山の二縣に分つ。

ではさんみやく(出羽山脈)陸奥山脈の西にあ
り。處々河道に斷たれて連山をなさず。山勢
急峻なれども、阿賀川の横斷する處は、稍、
交通に便なり。

ではふじ(出羽富士)鳥海山なり。同部を見よ。
てんたう(天童)羽前國東村山郡天童町。城趾
のある所を城山といふ。天正年中、里見頼久こ
れに居る。文政十二年織田信浮、こゝに移れ
り。

てんもくざん(天目山)山梨縣の東北に在り。
山高からず。天正十年武田勝頼、織田氏に攻
められて、自殺せし所なり。

てんりうかは(天龍川)信濃の諏訪湖に發源し
秋葉山の西麓を過ぎ、遠江の中央を貫流して
遠州灘に注ぐ。下流に架せる鐵橋は長さ八百
間、東海道第一の長橋なり。

てんりうけふ(天龍橋) 天龍川の上流に在り。奇岩怪石兩岸に對峙し、頗る奇勝に富む。てんわりざん(天王山) 山城山崎の近傍にある小山なり。羽柴秀吉の明智光秀を討ちし古戦場なり。

てらどまり(寺泊) 新潟縣越後國三島郡にある町なり。人口四千六百四十九。日本海に面する港にして二港をなす。上の瀧水深一仞二尺乃至二仞、東西一町二十間、南北二十五間。下瀧水深一仞四尺、東西三十二町、南北二町あり。

あ

とにかいだう(東海道) 十五國あり。即ち伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相模、武蔵、安房、上總、下總、常陸

にして、行政區劃として東京府、埼玉縣、千葉縣、茨城縣、神奈川縣、静岡縣、山梨縣、愛知縣、三重縣の一府八縣に分かる。とにかいだうとじふさんつき(東海道五十三驛) 江戸より京都に至る百三十里間に散在す。今東よりこれを擧れば、

品川、川崎、神奈川、程ヶ谷、戸塚、藤澤、平塚、大磯、小田原、箱根、三島、沼津、原吉原、蒲原、由井、興津、江尻、府中、榑子岡部、藤枝、島田、金谷、日阪、掛川、袋井見附、濱松、舞阪、荒井、白須賀、二川、吉田、御油、赤阪、藤川、岡崎、知立、鳴海、宮、桑名、四日市、石薬師、庄野、龜山、關阪下、土口、水口、石部、草津、大津、これなり。

とにかいだうせん(東海道線) 官設東海道線は東京市新橋に起り、東海道沿岸を經、美濃、近江、山城を貫き攝津の神戸市を終點となし

山陽鐵道に連絡す。線路延長三百七十七哩三十一釐あり。又、別に大船横須賀間、大府豊武間、馬場大津間の三支線あり。各驛中にて他線に連絡するものは、品川驛にて日本鐵道の赤羽線に連絡し、三嶋驛にて豆相鐵道に連り、豊橋にて豊川鐵道に名古屋にて中央線と關西鐵道に連り、一の宮にて尾西鐵道に米原にて北陸線に、彦根にて近江鐵道に、草津にて關西線に連絡し、京都にて京都鐵道、奈良鐵道に大阪にて關西城東線、阪鶴線、西成鐵道に連絡せり。

とにかいちはら(東海地方) 本地方は東海道の伊賀、伊勢、志摩、三河、遠江、駿河、甲斐伊豆と、東山道の美濃、飛騨、信濃及び南海道紀伊の一部を含む。これを左の六縣に分つ。山梨縣 長野縣 静岡縣 愛知縣 岐阜縣 三重縣

とにかいちはらのちりやう(東海地方の雨量)

とにかいちはら——とにかいちはらのちりやう

太平洋沿岸は、稍、多き部に屬し、信濃附近の高地は雨量最も少し。

とにかいちはらのかいがん(東海地方の海岸) 海岸は半島港灣に富めり。その主要なるものを擧ぐれば、伊豆半島の石廊崎と、遠江の南端御前崎との間に、深く灣入したるは駿河灣にして、内に清水港あり。御前崎以西、志摩半島との間は、所謂、遠江灘にして風浪高しその間に遠江の今切あり。又、西部渥美半島と志摩半島とは相對して、伊勢灣の口をなし知多半島内に突出して、渥美半島との間に三河をつくり、武豊の良港あり。

とにかいちはらのかいざん(東海地方の海産) 沿岸一帯、鯛、鮓、鱈の漁獲多く、三河灣の沿岸は處々に製鹽行はれ、海中伊勢蝦を産す志摩半島の沿岸には真珠多し。

とにかいちはらのかちつち(東海地方の交通) 東海道の往還は、近江より伊勢に入り、畧、

海岸に沿ひて東北に走り、大井川、箱根峠等の難所を経て東京に至る、所謂五十三驛の宿あり。舊幕時代に諸侯の参勤せし道路なり。官設東海道鐵道は、畧、街道に並行して、京阪地方より東京に通せり(鐵道参照)。伊勢には參宮鐵道あり。津市より起りて山田に終る津より龜山に鐵道敷設せられて、關西の幹線に連絡す。伊勢四日市、駿河清水等の諸港は汽船の各地に往復する便あり。

とうかいちはらのかりう(東海地方の河流)信濃、飛驒の中央は南北の分水界をなし、北に流るゝは信濃川、神通川、射水川等にして、北陸地方との通路をなす、殊に信濃川は長さ九十三里、本邦第一の長流にして、灌漑運輸の便甚だ大なり。上流千曲川と厚川と相會する處は、善光寺平にして、川中島の古戰場あり。南に流るゝ諸川中、富士川は甲斐の笛吹釜梨の二川相合して成り、大井川は駿遠兩國

を界し、天龍川は諏訪湖より發して、伊那の平野を灌漑す。矢作川は豊川、太平川と共に三河の三川と稱せらる。木曾川は木曾、飛驒兩山脈の溪間を流れ、木曾の棧道、寢覺の床等の奇勝あり。下流は飛驒川、長良川を合せて運輸灌漑の利多し。その流域は美濃平野にして、農産豊かなり。その他伊勢に柳田川、宮川あり。

とうかいちはらのまこう(東海地方の氣候)太平洋沿岸は黒潮の暖流を受くるが故に、氣候溫暖にして、夏は海風涼を送り、冬は積雪少く、寒氣甚だしからず。飛驒、信濃地方は全く内地性の氣候を有して、寒暑の懸隔甚だしく、夏季短く冬季長く、三月に至りて始めて九州地方一月の溫度と均しといふ。諏訪湖の氷結して、人馬通行し得るが如き、木曾山中の五月花咲き、九月麥熟するが如きを見て知るべし。雨量は太平洋沿岸は多く、信濃附近

の高地は少し。

とうかいちはらのまわりかい(東海地方の境界)北は北陸地方に境し、東は關東地方に接し、南は太平洋に而し、西は近畿地方に隣す。

とうかいちはらのくわんかつ(東海地方の管轄)本地方は東海、東山二道に亘り。山梨、長野、靜岡、愛知、岐阜、三重の六縣の管轄に屬し。伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、美濃、飛驒、信濃の十二國及び紀伊一部を含む。

とうかいちはらのこうわん(東海地方の港灣)駿河灣内に清水港あり。三河灣内に半田、武豊の二港あり。伊勢灣の海岸には、熱田、四日市等の良港あり。

とうかいちはらのこせう(東海地方の湖沼)諏訪湖は、信濃の諏訪郡上諏訪村外敷村に亘る。周囲四里二十町餘あり。東西一里餘大龍川に發す。嚴寒の時は湖水結氷して、人馬共に氷

上を往來すべし。

濱名湖、遠江國濱名郡にあり。周囲凡そ二十里、東西四里、南北五里あり。曾て地震の爲に陥落して、今は、海水相通じ灣となる。

とうかいちはらのさんかく(東海城方の山岳)富士八湖、甲斐國富士山の北麓にあり。その中著しきものは、山中湖、川口湖、精進湖、西湖、本栖湖等なり。

とうかいちはらのさんかく(東海城方の山岳)長野縣には戸隠山、淺間山、立科山、駒岳、御嶽、乗鞍岳、赤石山等あり。山梨縣には富士山、八ッ岳、金峯山、身延山等あり。靜岡縣には愛鷹山、大無間山、天城山、黒帽子山、秋葉山あり。愛知縣には猿投山、出來山、鳳來寺山、本宮山等あり。岐阜縣には惠那山、養老山、三國山、大日岳、妙法山、位山、鎗ヶ岳、東俣山等あり。三重縣にては藤原岳、釋迦岳、鈴鹿山、經ヶ峯、大同山、朝熊山、東宮山、春日嶺、舟津山、八鬼山、保色山等

を著しきものとす。

とうかいちはらのさんぶつ（東海地方の産物）濃尾平野を始め、諸川の流域は地味肥沃にして農産多く、殊に米の産額多大なり。長野、山梨両縣地方は、養蠶業盛にして繭、製糸を出し、殊に長野縣は本邦第一位を占む。静岡縣の地は茶、紙の産多く、又、山林繁茂して良材に富み、就中、木曾の五木はその名現はる。沿岸漁利多く、特に太平洋岸の鯉は有名なり。

とうかいちはらのさんみやく（東海地方の山脈）東海地方の山脈は、崑崙山系に屬するものにして赤石山脈、木曾山脈、飛驒山脈、鈴鹿山脈等あり。畧、東北より西南に走れり。脈中に高山頗る夥し。富士帯火山脈は、東海地方の東に位し南北に走れり、脈中には富士山を盟主とし、天城山、愛鷹山、八ッ岳、立科山、戸隠山の高峯線狀に噴出せり。

とうかいちはらのじんこう（東海地方の人口）

本地方の人口を平均すれば、一方里毎に二、二〇〇人の割合に當る。

とうかいちはらのちせい（東海地方の地勢）北部は我邦最高の山地にして、山岳重疊し、乗鞍岳、御嶽、鎗ヶ岳、八ヶ岳、赤石山、惠那山等最も高峻なり。南方急斜面をなして太平洋に面し、平野は沿海一帯の地にあり。その大なるを濃尾平野とす。火山脈は豆南諸島より來りて天城山となり、富士の高峯となる。故に河水は何れも急流奔下して、舟運の便あるもの極めて少し。

とうかいちはらのてつたう（東海地方の鐵道）イ 東海鐵道線は、近江より本地方に來り岐阜にて南下し、尾張に入り。畧、海道に沿ひて東北に走り關東地方に入る。ロ 關西鐵道は、近畿地方より來り、三重縣を経て愛知縣に入り名古屋市に終る。

ハ 參宮鐵道は、三重縣津市より起りて山田に至る。津より龜山に至り關西の幹線と連絡する線路あり。

ニ 官設中央線は、名古屋市に起り、東北に至り美濃の中津に至る。

ホ 豊川鐵道は、豊橋より豊川の上流に向へり。

ヘ 豆相鐵道は、駿河の三島より伊豆の大仁に至る。

とうかいちはらのてんさん（東海地方の天産）農産にては米、麥、茶、綿等にして、沿海は黒潮の流あり。漁利頗る多し。

とうかいちはらのとくわい（東海地方の都會）津市は三重縣廳の所在地にして、人口三萬二千餘あり。關西線の一派茲に來り、參宮に連絡す。四日市、松阪、桑名等の都會附近にあり。

名古屋は愛知縣廳の所在地にして、人口

二十四萬あり。往時、徳川氏の親藩を置きし所なり。津島、一の宮、熱田、岡崎、豊橋等の都會管内にあり。

岐阜は岐阜縣廳の所在地にして、人口三萬あり。岐阜提灯の産名高し。その西に大垣關ヶ原等の都會あり。高山は飛驒の中央にあり。

静岡は静岡縣廳の所在地にして、人口三萬九千あり。駿府と稱せし所なり。濱松、沼津、三島、下田、清水等の都會は管内にあり。

甲府は山梨縣廳の所在地にして、人口三萬七千あり。勝沼、猿橋等の都會は東方にあり。

長野は長野縣廳の所在地にして、人口三萬あり。上田、松本、飯田等の都會は中央にあり。とうかいちはらのふうど（東海地方の風土）甲斐、信濃、飛驒の如き内地又は山地は、雨雪

量少く、寒氣強けれども、沿岸地方は、或は牛島をなし、或は海灣を抱くが故に、氣候溫和なり。地味は飛驒、伊豆を除けば大抵肥沃なり。就中、濃尾平野と、伊勢海の周圍は田圃よく開け、戸口も、亦、稠密なり。山地は養蠶製糸の事業盛なり。本地方の人口は一方里に二、二〇〇人の割合にして、人口一萬以上の都會二十餘あり。

とうかいちはりのふるる (東地方の風位) 太平洋岸の地方は、夏期洋上の風涼を送りて暑を減じ、冬季は西もしくは西北より來る寒風を避くるを以て溫暖なり。

とうかいちはりのへいや (東海地方の平野) 平野の重なるものを濃尾平野とす。木曾川の流域にして、沖積層の大平野なり。美濃、尾張の兩州に跨がれり。降雨連日なれば、河水氾濫して洪水の憂を免がれざるも、却りて沃土を沈澱するの利ありといふ。米穀の産甚だ多

し。
とうかいちはりのるち (東海地方の位置) 東海地方は、本州の中部を占め、太平洋に面せり。北方は北陸地方に隣し、東方は關東地方に接し、西は近畿地方に境す。

とうかいちはりのをんど (東海地方の温度) 南岸即ち太平洋に面する地方は、黒潮の暖流を受くるを以て氣候溫暖にして、夏は海風涼を送りて快く、冬は、積雪少く、寒氣甚だしからず。飛驒、信濃地方は全く内地性の氣候にして、寒暑の差甚しく、冬季長くして夏期短し。諏訪湖の結氷して人馬を通行し得るが如き、木曾山中の五月の開花の如き、又、九月に至りて、麥の熟する如きを以て知るべきなり。

とうきやうしの (東京市) 東京市は關東平野の中央に位し、東隅田川を帯び、南方東京灣に臨む。南北三里餘、東西二里餘、人口百八十萬

實に大日本帝國の首府にして、世界中第六位を占むる大都會なり。宮城は舊江戸城の跡にして、深き城濠これを繞り、老松鬱蒼たり。

宮城の内外には、内閣、宮内省、樞密院、帝國議會、内務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省、會計検査院各國公使館等あり。斯の如く、獨り、政治上の中心なるのみならず、軍事、學術、經濟の中心たり。されば參謀本部、軍令部、帝國大學を始め、各種の大學その他の學校、銀行、會社、商館の大なるもの枚擧に遑あらず。市街は電氣鐵道縱横に通じ、溝渠多く、電信電話の設備遍く、東部諸鐵道の集點にして、又全國交通の中心たり。故に各地の貨物夥しく集散し、工業年を逐うて盛なり。

とうきやうしじふごく (東京市十五區) 東京市街を分ちて十五區とす、即ち、麴町區、神田區、日本橋區、京橋區、芝區、

麻布區、赤坂區、四谷區、牛込區、小石川區、本郷區、下谷區、淺草區、本所區、深川區これなり。

とうきやうしのぬんかく (東京市の沿革) 今より三百年前は、武藏野と稱する荒原にして、太田道灌の城きたる、一孤城存するのみなりしが、徳川家康江戸城を築き、三百諸侯の邸宅を置かしめしより繁榮日に加はり、維新の初め帝都を遷されしより、政治、學問、經濟の中心となるに至れり。

とうきやうしのかりつら (東京市の交通) 東京市は下町と山の手とに別れ、下町は地平坦にして電氣鐵道至る所に通じ、交通便なり。然れども山の手は、丘陵臺地等ありて交通便ならず。街道は太平洋海岸に東海道あり。西に甲州街道、中仙道、北に奥州街道、東北に濱街道等あり。諸鐵道は概ねこれ等の街道に沿ひて派出せり。

とうきやうしのがくじゆつ (東京市の學術) 帝國大學を始め、高等師範學校、第一高等學校、高等商業學校、美術學校、音樂學校、外國語學校、その他各種の私立大學、各種學校、帝國圖書館、帝國博物館等ありて、我邦學術の中心たり。

とうきやうしのぐんじ (東京市の軍事) 軍事上にては參謀本部、軍令部、陸軍大學校、海軍大學校、陸軍戸山學校、同砲工學校、同士官學校、近衛師團及び第一師團等ありて、軍事上の中心地たり。

とうきやうしのけいざい (東京市の經濟) 經濟上にては銀行會社、商館の大なるもの多く、刺繡及び陶漆器の美術工藝品を始め、製造工藝漸次隆盛の域に進み、燐寸、棉糸、棉布、セメント、足袋、唐紙、錦繪、海苔等、海外輸出品として製作すること多く、特に消耗品は全國各地より盛に集散するが故に、商業は一大

活氣の下に行はれつゝあり。

とうきやうしのおつさん (東京市の鐵道)

東海道鐵道は、新橋より起りて、西南に走れり。

甲武鐵道は、麴町區の飯田町に起り、西南に走りて、八王子地方に向へり。

日本鐵道の赤羽線は、麻布の西郊を廻走す。

日本鐵道の中山道線は、上野より發し西北方に走れり。

東武鐵道は、吾妻橋に起り、日本鐵道の海岸線に交叉し、北走し奥州線に會す。

總武鐵道は、本所區に起り、東に走り千葉縣に入る。

市内には電氣鐵道各所に通せり。

とうきやうしのおつさん (東京市の物産) 現今物産の著名なるものは、蒔繪細工、鼈甲細工、錦繪、綿絲、西洋紙、麥酒その他の器械、工

藝品、裝飾品等とす。

とうきやうふ (東京府) 武藏の一部、伊豆七島八丈島、小笠原島、硫黃島を管轄す。

とうきやうふのかいがん (東京府の海岸) 本府の海岸は、東京灣の北部にして、東は江戸川の河口より起りて西南に廻り、多摩川の口に至りて終る。海底淺くして船を泊するに便ならず。東京の名物たる淺草海苔は、この區域に産す。東京灣の西北岸は淺草海苔の産地たり。

とうきやうふのまやうかい (東京府の境界) 南は神奈川縣、西は山梨縣、北は埼玉縣、東は千葉縣及び品川灣に臨む。

とうきやうふのちせい (東京府の地勢) 西方境上には山あれども、その他は平坦にして關東平野の一部をなし、東京灣に瀆して江戸川、隅田川、多摩川その間を流れ、地味肥沃なり。とうきやうふのつなら (東京府の鐵道) 本府

とうきやうふ—とうきやうふのどくわい

の鐵道は、東京市を中心として各地に走れり。

東海道線は、東京より西南に走りて神奈川縣に入る。甲府鐵道は、東京市より西に走り八王子に達し、茲より官設中央線に連絡し山梨縣に至るの便あり。青梅鐵道、川越鐵道は共に甲武線より分岐せり。總武鐵道は、東京より東に走り千葉縣に入る。日本鐵道の中山道線は、東京より西北に走り埼玉縣に入る。日本鐵道の海岸線は、東京より東北に走り千葉縣に入る。東武鐵道は、東京より奥州街道に沿ひて北西に走り奥州線に會す。赤羽線は、東京の西郊を廻走せり。

とうきやうふのどくわい (東京府の都會) 東京市。とうきやうしの部を見よ。

品川、千住、大森、八王子は東京市に接続し、生業繁盛せり。就中、大森は麥稈細工、梨實及び海苔の産に名あり。八王子は甲州街道に當り、生糸絹布を産し。狭山は茶を以て名高

く、青梅よりは石灰を出す。

とうきやうふのおち (東京府の位置) 関東平野の中央要部を占め、東は千葉縣及び品川灣に臨み、北は埼玉縣、西は山梨縣、南は神奈川縣に接す。

とうきやうわん (東京灣) 武蔵、上總の間に灣入せる内海にして、相摸の觀音崎と、上總の宮津崎と相對してその口を扼せり。灣内の海岸は概ね遠淺なれども、西海岸には、横濱、浦賀等の良港あり。

とうきやうわんのぼらひ (東京灣の防備) 横須賀には第一海軍鎮守府あり。その附近の觀音崎、猿島、夏島及び對岸宮津崎には砲臺あり何れも東京灣の要塞にして、重要な地なり。ところ (東港) 打狗の南方海上にあり。その近附より米穀の産出多きを以て知らる。

とうさいほんぐわんじ (東西本願寺) 東本願寺は京都市下京區六條通に在り。眞宗本願寺十

一代願如の子教如、慶長七年に創建す。西本願寺は京都市下京區堀河通にあり。本願寺の別稱なり。眞宗本派の本山なり。この寺は天正十九年光佐攝津大阪より移轉す。

とうきんたう (東山道) 東山道は近江、美濃、飛騨、信濃、上野、下野、磐城、岩代、陸前陸中、陸奥、羽前、羽後の十三國を總稱す。而して滋賀縣、岐阜縣、長野縣、群馬縣、栃木縣、福島縣、宮城縣、岩手縣、青森縣、秋田縣、山形縣の十一縣これを分轄す。

とうじせん (冬至線) 赤道の南北二十三度半の處に、赤道と並行して各一線を劃せり。これを回歸線といふ。而してその南の回歸線を一至至線といふなり。

とうせうぐう (東照宮) 下野日光にありて、徳川家康を祀る。別格官幣社にして、元和三年の建立に係れり。當時將軍の威と、天下の財力を竭して經營したるものなれば、結構壯麗

筆舌の外にあり。

とうせきところ (東石港) 壱灣南部地方にありて安平打狗と共に開港の一なり。

とうだいにじ (東大寺) 聖武天皇の朝に、總國分寺として建立し給ひし所にして、金銅製の大佛の坐像を安置す。高さ五丈三尺、面の長さ一丈六尺、巾九尺五寸あり。

とうのち (東濃) 美濃の北、東部にして土地高峻にして、東に飛驒山脈あり。北に濃越の國境をなせる連山あり。

とうぶてつたうせん (東武鐵道線) この鐵道は東京市木所區向島中の郷町に在る、吾妻橋驛を起點として北に走り、武藏國南埼玉郡久喜町に終り、日本鐵道の奥州線と會合するものなり。この間に十五驛を設く。線路延長二十八哩五十九鐵あり。

とうほくきんみやく (東北山脈) 北州の宗谷半島より、畧、西南に走りて襟裳嶺の方に、蝦

とうせきとこしーとち

夷山脈の北部半ばを占むる山脈なり。我國の地体を組織する樺太山系の北端なり。脈中に宗谷嶽、天狗嶽等の高峯あり。

とうほくせん (東北線) 日本鐵道の東北線は、青森線、奥州線等の稱あり。東京市下谷區上野を起點として、畧、東北に向ひ青森縣陸奥國青森市に達す。尙、この線は青森より起りて南下する官線に連絡せり。線路延長四百五十六哩七十一鐵あり。この間に前後九十の停車場を設置せり。

とうやく (洞爺湖) 十州島の西部に在り。膽振國有珠郡なる有珠嶽の北麓に位し、周圍凡そ十里、東西二里二町、南北も二里二丁。

とがくしやま (戸隠山) 信濃長野の西北に峙ち寒風山火山脈に屬し、海拔八、〇〇〇尺餘。中腹には、手力雄の命を祀りたる戸隠神社あり。

とがち (十勝) 十州島の一州にして、東南太平

洋に面し、東は釧路に接し、北、西及び南の一部は北見、石狩、日高に界す。

とくしまけん(十勝岳) 十勝、石狩の境に峙ち本道有名の峻峯にして、十勝川の水源を養ふ海拔五、九八〇尺あり。

とくまかは(十勝川) 一に東父川と云ふ。源を十勝岳に發し、多くの平野を南東に走り、下流は阿派に分れて太平洋に注ぐ。

とくません(十勝線) 官設十勝線は北州島の釧路より起りて東に走り、白糠に至りて西南に轉じ、十勝の浦幌に於て更に東北に轉じ、今や十勝川の上流廣帯に達せり。なほこの線は東北に延長して、落合に至らんとする豫定なり。

とくまへいや(十勝平野) 十勝川の流域地にして地味肥沃、農業牧畜に適し、開拓の業漸く緒に就けり。

とくまつづ(塗葛庵) 臺灣彰化の西北、大肚溪

口にあり。開港場の一にしてその貿易淡水、安平に亞げり。

とくまこうるん(常磐公園) 又、借樂園といふ水戸の西南常磐村にあり、日本三公園の一にして、齊昭公の始めて開きたる所、北に筑波の翠簾を眺め、下に千波の碧漣を見、風光絶佳なり。

とくまじんじや(常磐神社) 茨城縣常陸國水戸市常磐小路にあり。別格官幣社、徳川光圀、同齊昭を合祀す。明治十五年十二月格式を進列せらる。

とくまみね(徳佐峯) 山口縣長門國阿武郡の東端に位し、徳佐村大字徳佐上の西北に聳ね、石見國に跨る。國中第一の高山にして、直立三千三百七十九尺あり。中國山脈に屬す。

とくしまけん(徳島縣) 四國島の東南にして、阿波全國を管轄す。

とくしまけんのかいがん(徳島縣の海岸) 東海

岸は出入多く、淡路島との間は、所謂、鳴門海峡なり。潮流急にして、渦流をなし、水路の險惡なる所なり。南海岸は海部と稱し、漁利多し。

とくしまけんのかちつち(徳島縣の交通) 土佐路は徳島を起點として東南岸に沿ひ、土佐の甲浦に達するものを云ふ。讃岐路は徳島を起點として東北に走り、讃岐の引田に達す。伊豫路は池田より西に走り、伊豫の川瀧に至る池田より徳島に至る池田路あり。船戸より徳島に鐵道あり。徳島は大阪、神戸その他へ日々汽船の往來する便あり。

とくしまけんのかりち(徳島縣の河流) 吉野川土佐より來り、その流域に肥沃の平野を作り下流數派に分れ、三角州を形成して徳島の近海に注ぐ。那賀川、源を南部山間に發し、紀伊海峡に注ぐ。その流域に、亦、小平野を存せり。

とくしまけんのきやちかい(徳島縣の境界) 北は香川縣に、西及び西南は愛媛縣及び高知縣に接し、東及び東南は太平洋に面す。

とくしまけんのきよびふ(徳島縣の漁業) 漁業は、稍、盛にして鯉を第一とし、鱈これに次ぎ、その他鯛、鰻の産、亦、多し。

とくしまけんのおんがく(徳島縣の山岳) 西部には劍山、祖谷山等の高山あり。中央には焼山寺山、高越山等あり。北部讃岐の境には矢筈山、竜王山、大川岳、雲邊寺山等あり。西端伊豫、土佐の境には三傍示山あり。

とくしまけんのおんげふ(徳島縣の産業) 吉野川の流域地は、地味肥沃にして、藍の産出海岸第一と稱す。葉煙草は良質と稱するに足らざるも、巨額の産ありて藍に次ぐ農産物なり。又、林業發達して、森林繁茂、杉、松、扁柏、檜等の良材を産し。漁業も、稍、盛にして鯉、鯛、鰻等の漁獲あり。撫養近海よりは塩

とくしまげんのさんみやく——とくしまげんのりんさん

三四

を産し、赤穂塩を並ぶ稱せらる。

とくしまげんのさんみやく(徳島縣の山脈) 四國山脈の支脈は、本縣、高知、愛媛三縣の境に峙つ三傍示山となり、夫れより縣の中央を東に走りて祖谷山、鈕山を起し、終に紀伊水道に没す。又、その支脈は、香川縣の境を走り、雲邊寺山を起し、遂に鳴門海峡に没す。又、高知縣との境にも一帯の山脈連れり。

とくしまげんのちせい(徳島縣の地勢) 四國山脈東西に連亘して山地多く、平野は吉野川、那賀川等諸川の沿岸に連れり。海岸、亦、小平野を存せり。

とくしまげんのでつち(徳島縣の鐵道) 徳島鐵道は、徳島縣阿波國徳島市を起点として西に走り、吉野川に沿ひて、同國麻植郡川田村なる船戸驛を終点とす。線路延長二十一哩三十九鐵あり。この間に十停車場設置す。

とくしまげんのとくわい(徳島縣の都會) 徳島

市は吉野川に臨む、縣廳の所在地にして、人口六萬三千あり。

撫養は徳島の北にあり。淡路に渡る要津にして、齋田鹽の産地なり。その他小松島、宮岡池田、脇町、半田等、皆、名邑なり。

とくしまげんののらさん(徳島縣の農産) 藍を第一とす。主産地は吉野川の流域地にして、その産額の多き全國の四分の一に居れり。又葉煙草はその産額藍に次ぎ、本縣主要の農産物なり。されどその品質は、未だ稱するに足らず。

とくしまげんのへいや(徳島縣の平野) 吉野川の流域地に肥沃の平野あり。又、那賀川の流域も小平野を存せり。

とくしまげんのりんさん(徳島縣の林産) 往昔徳島藩時代に於て林制を布き、濫伐を防ぎたるが故に、森林克く繁茂し、松、杉、扁柏、櫟等の良材を出す。

とくしまげんのち(徳島縣の位置) 四國島の

東部にありて、北は香川縣に、西及び西南は愛媛縣及び高知縣に接し、東及び東南は太平洋に面す。

とくしまし(徳島市) 四國第一の都會にして、吉野川の三角洲にあり。徳島縣廳の所在地にして、人口六萬三千餘。大阪及び讃岐北部沿岸には、日々汽船の往復あり。阿波縮及び織織の産あり。又、近年綿子ル、紺緋の産出盛んなり。

とくしまてつち(徳島鐵道線) 徳島縣の鐵道の項を見よ。

とくしま(徳山) 周防にありて、三田尻の東に位す。鐵道及び海運の便ありて、繁華なる都會なり。

とくまめ(常滑) 尾張にあり。陶器及び土管の産地たり。

とくまがは(常呂川) 十州島にあり。石狩岳よ

とくしまげんのち——とくまがは

三四

り發源し、東北に流れて、オホーツク海に注ぐ。

ところざは(所澤) 埼玉縣にありて、木綿の産地なり。

とく(土佐) 四國島南部の一州にして、南方太平洋に面し、高知縣の管轄に屬せり。

とく(土佐) 伊豫の西部に發源し土佐灣に注ぐ。仁淀川は伊豫の山間に發し、中部の諸水を集め、物部川は阿波の境に發し、東部を南流し共に土佐灣に注ぐ。

とく(土佐灣) 室戸岬、磯崎岬の間は半月状の一大灣を抱く、これを土佐灣といふ。長さ一百里。水深からざれども、鯨、珊瑚の産出を以て有名なり。

とく(栃木) 下野國下都賀郡に在る町なり。人口二万二千三百八十あり。小山前橋間の鐵道停車場を設く。繭、生糸、木材を産す。こ

とちぎけん——とちぎけんのとくわい

の地勢縣廳の所在地なり。

とちぎけん(栃木縣)關八州の一部にして、群馬縣の東に連り、下野全國を管す。縣廳は宇都宮市にあり。

とちぎけんのかうつち(栃木縣の交通)奥州街道は下總の古河より來り、東北に折れて福島縣に入る。日本鐵道の奥州線は、この街道に界、並行して福島縣に入る。支線は宇都宮より西北に走りて、日光に達せり。その他、小山より西に走りて、上野の前橋市に至る別線あり。小山驛より東に走りて、常陸の友部に至る線ありて常磐線に連る。佐野鐵道線は本縣安蘇郡界村大字越名驛を起点として、西北に走り、同郡葛生村に至るものなり。線路延長九哩五十六鎖あり。この間に六停車場を置く。

とちぎけんのかりち(栃木縣の河流)那賀川、源を男鹿沼に發し常陸に入り、鬼怒川は、日

二四

光火山群の鬼怒沼山より發し、大谷川を合せ南流して利根川に合す。

とちぎけんのさやちかい(栃木縣の境界)西は群馬縣に、北は福島縣に、東は茨城縣に接し南は即ち關八州の平野に連れり。

とちぎけんのさんかく(栃木縣の山岳)本縣は東南部に平野あり。西北部は山地にして山岳夥し。その中主要なるものは、北部福島縣の境に那須山あり。那須帯火山脈の盟主たり。その西南に高原山あり。その西南に列する赤嶺山、男体山、白根山と、もに日光山脈に屬す。西北境に赤安山、帝釋山あり。帝釋山脈に屬す。東北境に入道山あり。

とちぎけんのちせい(栃木縣の地勢)北西部は地勢高峻にして、山岳重疊し、漸次南東に傾斜して關東平野の一部をなし、肥沃の廣野となる。

とちぎけんのとくわい(栃木縣の都會)宇都宮

市は人口三萬五千。縣廳の所在地にして繁盛の都會なり。足利は渡良瀬川に沿ひ、機業地を以て名高く、近來、益、繁盛に赴き、その勢宇都宮を凌がんとせり。足利學校のありし

地にして、今尙足利文庫を存す。日光鐵道に沿へる鹿沼には製麻會社あり。その附近より麻を産す。日光は徳川氏廟地の在る所、その結構の壯麗、山水の勝天下に冠たり。佐野は足利と共に織物を以て名高く、栃木は縣下の名邑にして、もと縣廳の在りし所。眞岡は古來木綿織に名あり。

とちぎけんのおつさん(栃木縣の物産)麻、蘭生糸、絹布、銅、石材、木材、薪炭等は本縣著名の物産なり。

とちぎけんのるち(栃木縣の位置)群馬縣の東に位し、北は福島縣、東は茨城縣に接し、南方は關東平野の一部を形成す。

とつかは(十津川)源を大和の山上ヶ岳に發し

とちぎけんのおつさん——とつとりけんのかいばん

三五

風曲して西南に流れ、西方の山間を迂回して紀伊に入り、北山川と合して熊野川となる。とつかはがら(十津川郷)大和十津川の流域にあり。安賀母尾を産す。

とつとりけん(鳥取縣)中國の一區劃にして因幡、伯耆の二國を管し、縣廳は鳥取市にあり。とつとりけんのかうつち(鳥取縣の交通)街道は鳥取を起点として南に走り、美作の東を通じて播磨に至る播磨路あり。鳥取より西に走り御來屋米子を経て、雲州松江に至る伯耆路あり。この街道には西部に鐵道敷設せられたり(鐵道の項参照)。伯耆美作の境に四十曲峠あり、茲より中國山脈を越へて津山に出で、山陽道に通ずる道路あり。境より汽船各地に通ず。

とつとりけんのかいばん(鳥取縣の海岸)海岸は北風を直角に受け、激浪の漫す所となるを以て出入少く、良港に乏し、西北隅に夜見ヶ

濱あり。日野川の流出する土砂と、北風の打ち寄する土砂との堆積によりて成り、長く海中に突出し、その北端に境港あり。又、千代川の吐口に加露港あり。近時築港落成して漸く大船を船するに至れり。

とつとりけんのかりう（鳥取縣の河流）千代川は縣下第一の長流にして、下流を賀露川、上流を智頭川といひ、北流し鳥取の西を過ぎて日本海に注ぐ。その他日野川、天神川は南境より發源して、共に北流して日本海に入る。これ等諸川の流域は、地平かに地味肥にたり。

とつとりけんのさやうかい（鳥取縣の境界）南は岡山縣及び廣島縣の一部と接し、東は兵庫縣、西は島根縣に界し、北は日本海に面す。とつとりけんのさんかく（鳥取縣の山岳）伯耆の中央に大山あり。五千九百八十尺あり。山陰第一の高山なり。白山帯火山脈に屬する消火山あり。その東北に船上山あり。元弘の變

に關して史上に著はる。中國山脈所屬の山岳は因伯作の境に三國山あり。因作の境に那岐山、伯作の境に蛭山、伯雲の境に船通山あり。伯雲備の境に三國山あり。

とつとりけんのさんびふ（鳥取縣の産業）千代川、天神川、日野川の流域には、實綿の産出多く、岡山、越中、越後等に販路を有す。又沿海には鱈、鱒、白珊瑚等の海産あり。とつとりけんのさんみやく（鳥取縣の山脈）東南西の三境は山脈を以て圍繞せられ、中部には白山火山脈に屬する、中國第一の高山たる大山及び船上山等の聳ゆるありて、山脈縦横せり。

とつとりけんのちせい（鳥取縣の地勢）城内山脈縦横に連りて山地多く、只、千代川、天神川、日野川の流域は、稍、平かにして地勢自ら三部に分れたり。とつとりけんのてつたう（鳥取縣の鐵道）本縣

の鐵道は西北端なる境港を起點として、日本海岸に沿ひ、畧、東方に走り、己に因幡の青谷に達せり。この線は鳥取を経て兵庫縣の但馬に至り、播但線に連絡せんとする豫定なり。

とつとりけんのとくわい（鳥取縣の都會）鳥取市は縣廳の所在地にして、諸街道交通の要路に當り、山陰道第二の都會なり。米子は中の海に臨み、海運の便開け商業頗る盛なり。境は美保ヶ關と相對し中の海の口を扼す。港内廣からざるも、水深く波穩にして、山陰屈指の要津、開港場の一たり。その他倉吉は生糸及び耕を産し、北方の名利には名和神社あり名和長年を祀れり。

とつとりけんのへいや（鳥取縣の平野）城内、山地多きも、千代川、天神川、日野川の流域地は、稍、廣き平野をなして、主要なる農産地たり。殊に日野川の平野には牧牛多し。とつとりけんのさくわい（鳥取縣の位置）山陰道の

とつとりけんのさくわい——とねがは

中部を占めて兵庫縣の西に連り、北方日本海に面し、西は島根縣に界し、南方岡山縣及び廣島縣の一部に接す。

とつとりし（鳥取市）鳥取縣廳の所在地にして因幡國に在り。袋川に跨り、諸街道交通の要路に當り、人口三萬餘。山陰道第二の都會なり。市の東北久松山に舊池田氏の城址あり。とねみはんたう（斗南半島）一に北郡半島といふ。青森縣の東北に突出し、一條の地頸によりて本州に連る。半島中の高山に恐山あり。とねみやま（彌波山）一に俱利伽羅山と稱す。加賀、越中の兩州に跨り、谿谷深き數千仞、極めて險峻なり。壽永年間、木曾義仲の平氏の軍を破りし所たり。

とねがは（利根川）一に阪東太郎と稱す。上野の文珠岳より發源し、近傍諸山脈の水を受け、關東平野を南東に流れ、下總の關宿に至りて江戸川を分ち、本流は鬼怒川、小貝川及

び霞ヶ浦の水を受けて東流し、銚子港に注ぐ河口より關宿まで汽船を通すべく、その流域地も、亦、廣大なり。

とば(鳥羽)伊勢内海の口に當り、東方、遙に東遠州灘を迎ふ。港内水深く、太平洋岸風指の繁昌地にして、附近の風光頗る佳なり。

とば(鳥羽)山城にあり。淀と共に維新の際激戦ありし地なり。

とびしま(飛嶋)山形縣羽後國飽海郡の西北海面に在り。吹浦港を距る七里餘あり。周圍一里三十一町、島中一村を置く。この島は彌彦火山脈に屬す。

とほとらみ(遠江)東海道の一國にして、三河駿河の間に狹まり、南太平洋に面し、北信濃に接す。静岡縣の管轄なり。

とほとらみ(遠江)志原の大王崎より伊豆の石廊崎に至る間の海にして、七十五里に達す。波濤高くして航海安からず。

とままへ(昔前)北海道小樽の北方海岸にあり。鮭、鯨の漁場として著はる。

とみ(鳥見)大和にあり。神武天皇、長髓彦を破り給ひし地なり。

とみやま(富山)一に富山に作る。陸前に在りて、松島の全景を一眸の中に收め得る地なり。山頂に大悲閣あり。阪上田村鷹の建つる所、將軍騎馬の像あり。

とみをか(富岡)上野高崎市の近傍にあり。製糸の業盛んにして、その製糸場は規模の大なるを以て有名なり。

とみをか(富岡)群馬製糸場(群馬縣上野國北甘樂郡富岡町にあり。壯大なる工場にして、もと農商務省の管轄なりしが、今は三井物産會社の管理に屬す。産額年に十五六万圓に達し、日本第一とす。

とんだばやし(富山林)大阪府下南河内郡に在る町にして、人口三千一百。酒、葡萄を産す。

河陽鐵道の驛を置く。正平十五年楠正儀、北畠國清と戦ひし地なり。

とむ(柄)備後海岸の都邑にして、保名酒の名産あり。

とむがしま(友ヶ島)紀伊の西北端加太岬の前に横はる。砲臺の設けありて、大阪灣の口を扼せり。

とみやけん(富山縣)北陸道の一區劃にして、越中全國を管す。縣廳は富山市にあり。

とみやけんのかちつら(富山縣の交通)北國街道は石川縣より、本縣今石動に來り、高岡、富山、魚津、泊等を経て新瀉縣に入る。富山以西は鐵道敷設せられて、京阪地方に通ず。

飛騨路は、富山より起り南に走りて飛騨に入る。能登路は富山市より起りて、海岸に沿ひ能登の七尾に達す。中越鐵道あり(鐵道參照)伏木港より汽船各地に往來す。

とみやけんのかいがん(富山縣の海岸)本縣の

海岸は一大灣入ありて富山灣をなす。灣内に伏木の良港あり。開港場にして、米の集散甚だ盛なり。庄川、神通川、黒部、常願寺川等の河流は、皆、この海岸に注ぐ。富山灣は疊氣樓を現はすことありて名高し。

とみやけんのかりち(富山縣の河流)本縣の河流は、地勢上北流して日本海に注ぐ。その大なるものは庄川、神通川、常願寺川、黒部川等とす。これ等の流域は土地肥々、田圃開け農産豐なり。

とみやけんのみやうかい(富山縣の境界)東は新瀉縣、東南は長野縣に、南は岐阜縣に、西は石川縣に界し、北は富山灣を控へて日本海に面す。

とみやけんのみやうがく(富山縣の山岳)本縣の南部には濃飛高原に屬する諸高山相連れり。立山は東南に築は、直立九千五百尺あり。北陸の最高峯たり。北に劔ヶ岳に南に藥師岳あり。

り。信濃の境に大蓮華山、飛驒の境に高幡山あり。能登の境に石動山、寶達山等、加賀の境に俱利伽羅峠あり。史上有名なるものなり。

とやまけんのさんみやく (富山縣の山脈) 本縣の東境は飛驒山脈横はりて、北方親不知の險に至りて日本海に没し、乗鞍火山脈の藥師岳立山の時てあり。南境は中國山脈の終極點にして、僅かに飛驒より來れる河流の地を経て南部に交通するのみ。西は白山火山脈の餘波北に走りて、彌波山の峻嶺を起せり。

とやまけんのちせい (富山縣の地勢) 三方山を繞らし、殊に東南境には立山を始め、數多の峻嶺高山重疊すれども、北方日本海に面し、北部諸川の流域地は低平にして、彌波、富山の二大平野を形成し、地味、亦、肥へたり。

とやまけんのおつさき (富山縣の鐵道) 官設北陸線は、石川縣より本縣に來りて現今

富山に止む。この線は他日越後の直江津に延長せられて、信越線に連絡するものなり。中越鐵道は、射水郡伏木町を起點として南に走り、高岡にて官線に交叉し、これより畷、南に走りて東礪波郡城端を終點とす。この間に七驛を置く。延長二十三哩あり。

とやまけんのおつさき (富山縣の都會) 富山市は縣廳の所在地にして、神通川の東南に位し人口六萬有餘。古來賣藥を以て有名なり。伏木港は庄川の口に當り、開港場の一にして日本海の要港なり。船舶の出入多きは日本海沿岸中第一位を占む。人口七千餘あり。高岡市は北陸、越中兩鐵道線に當り、庄川ありて運輸の便を助くるを以て、市街繁華、富山に次げる都會なり。漆器、銅器、織物の産あり。その他、新港、滑川、氷見等の良港あり。又東北の魚津は漆器の産あり。

とやまけんのおつさき (富山縣の物産) 本縣の

特産としては米、麻、材木を主とす。その他富山の羽二重。高岡の銅器、象眼、漆器。魚津、新港、滑川、氷見等より多くの海産物を出す。

とやまけんのへいや (富山縣の平野) 庄川、神通川、常願寺川、黒部川等の流域は一帶の平野を形成し、土地肥は田圃開けて、農産豊なり。されど河水は急流にして、洪水氾濫の憂なしとせず。

とやまけんのちせい (富山縣の位置) 新潟縣の西に連り、東南は長野縣に、南は岐阜縣に、西は石川縣に接し、北方日本海に面す。

とやまし (富山市) 富山縣廳の所在地にして、神通川の東南に位し、人口六萬餘。古來賣藥を以て名高く、往昔、佐々成政の居城たり。前田氏が加賀に移るに及び、この地を支封とせり。

とやまわん (富山灣) 能登半島の灣曲と、越中

とやまけんのへいや——とよひらは

の沿岸とによりて形成せらる、日本海岸に於ける大灣曲にして、内に氷見、新港、伏木等の良港を有す。

とよかは (豊川) 三河にあり。國の東部を流る衣ヶ浦に注ぐ。三河の三川の一なり。

とよかはいなり (豊川稻荷) 三河の東部湖美郡豊川町にあり。参拜者多しといふ。

とよかはてつなせん (豊川鐵道線) 本鐵道は豊河の豊橋(吉田驛)を起點として東北に走り豊川の上流地なる、南設樂郡信樂村の大湖驛を終點とす。中間には八驛を置く。線路延長十七哩三十鎖あり。

とよのち (豊の浦) 長門の壇の浦と相連る。仲哀天皇熊襲を征討し給へるや、行宮を建て遂に茲に崩御し給ひき。

とよはし (豊橋) 三河の東部にありて、豊川の西岸に位し、人口二萬二千餘。商業盛なり。
とよひらは (豊平川) 北海道石狩に在り。札

峴區を貫流し石狩川に合す。

とよをか(豊岡)但馬に在り。朝來川に臨み、人口六千。柳行李の産出を以て名あり。

とりのりみ(鳥の湖)羽前の鳥海山の山腹にある火口湖にして、風光賞すべし。

とりあらび(鳥居峠)信濃にあり。和田峠、鹽尻峠と共に仲仙道の難所なり。御嶽神社の造拜所ありて、華表を建つるを以て、この名ありといふ。

とろくがい(斗六街)即ち雲林にして、臺灣島の西部地方に在り。樟腦産地の中心地たり。

とわたこ(十和田湖)陸奥の南境にあり。周圍十里。火口湖にして水色清透、その水流れて銚子瀑となり、奥入瀬川となる。

とるさき(都井岬)日向の南端に突出し、大隅の火崎と相對して志布志灣を擁す。

とをかいち(十日市)越後の信濃川沿岸にあり透綾の産を以て有名なり。

な

なにかくくしやう(内閣九省)我邦の中央政府

は内務、外務、大蔵、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、逓信の九省に分かれて國務を分擔す、各大臣これが長官たり。別に内閣ありて、内閣總理大臣と、九省の長官たる各國務大臣とを以てこれを組織し、重要な國務を議決す。

ないごう(内宮)伊勢の宇治山田市にあり。天照皇太神宮を祀る。垂仁天皇の三十六年、大和笠縫の邑よりこの地に移し奉れり。今に至るまで一千九百餘年。

ないむしやう(内務省)東京市麹町區に置かる地方行政、職員選舉、警察、土木、衛生、地理、神社、宗教、出版、賑恤、救済に關する

ながさきけん(長崎縣)佐賀縣の西南に連り。肥前の半部及び壹岐、對馬を管す。縣廳は長崎に在り。

ながさきけんのかいがん(長崎縣の海岸)本縣の西部及び南部は、海岸頗る複雑にして、半島々嶼、亦、多し。即ち北松浦半島西北に突出して、伊萬里灣をなし、その前に平戸嶼及び五嶋等横はり、南方は彼杵、島原の両半島左右の翼の如く突出し、野母崎その間に突出して中央に長崎港あり。その前面に高島あり炭坑を以て有名なり。

ながさきけんのかいさん(長崎縣の海産)本縣は海岸線の長きこと、本邦第一にして六百餘里に達す。隨て漁利甚だ多く、年額三百三十七萬に上れり。殊に五島、平戸島の近海は鳥賊及び鯨の捕獲多く、對馬は鰯を以て有名にして、又、真珠貝頗る多し。

ながさきけんのかうつう(長崎縣の交通)鐵道

事務を管理す。

なひばさん(苗場山)越後國南魚沼、中魚沼、信濃國下高井の三郡境に位し、清津、中津兩川の境に屹立す。直立七千百十二尺、岩木火山脈の熄火山なり。

なかりみ(中海)一に錦の海といふ。伯耆の夜見濱と島根半島とに包まれ、内に大根島、江島の二島あり。半淡、半鹹の湖水にして、貝類、鰻、蝦、章魚、鯖等を産す。中江瀬戸を経て美保灣に至るべし、周圍十六里餘あり。

なかがは(那珂川)下野男鹿沼より發源し、黒川、箒川、荒川等を合し、常陸を貫流して太平洋に注ぐ。

なかがは(那賀川)阿波の南部山間に發源し、東流して紀伊海峽に注ぐ。

ながくて(長湫)尾張、三河の境に在りて、小牧の役に徳川家康が、豊臣秀吉の軍を破りし古戰場なり。

なひばさん—ながさきけんのかうつう

なひばさん—ながさきけんのかうつう

は九州鐵道の幹線、島樫より分岐して本縣に入り長崎に達するあり。支線は早岐より分岐して佐世保に至る。長崎は開港場にして本邦の屈指の良港なれば、内外諸國の船舶常に輻輳して各地に交通の便あり。海底電線も、亦各地に通せり。口ノ津、巖原、佐須那、鹿見等の開港場、本縣下に在りて外國との取引盛なり。

道路には長崎街道あり。長崎より九州鐵道の線路に、畧、沿ひて佐賀縣に入り、佐賀市を経て福岡縣に至ることを得。

ながさきけんのきやうかい (長崎縣の境界) 東北は佐賀縣及び有明海にして、南は千々岩灘天草灘に濱す。西は黄海を隔て、遠く支那に對し、北は壹岐海峡を隔て、壹岐に至り、又對馬海峡を隔て、對馬に至り、遂に朝鮮海峡を隔て、朝鮮に對す。

ながさきけんのくわうさん (長崎縣の礦産) 本

縣は福岡縣に次げる石炭産出地にして、その最も多きは高島炭坑とす。總計年額四十五万七千餘噸に上れり。

ながさきけんのさんかく (長崎縣の山岳) 温泉ヶ岳は島原半島にありて、霧島帶火山脈の煙火山なり。佐賀縣の境に多良岳あり、これも霧島火山脈に屬する煙火山なり。知見山は西北部にあり。平戸島に安瀨山聳ね、壹岐に魚釣山あり。對馬に大失山、矢立山屹立せり。五島には中通島の三王山著し。

ながさきけんのさんびふ (長崎縣の産業) 我邦第一の長き海岸線を有するを以て、漁業甚だ盛んにして、海産物は本縣主要の産物なり。殊に平戸島、五島の烏賊及び鯨、對馬の鰯、眞珠は共に著名なり。礦産には多額の石炭を出し、農産は甘藷の産最も多し。

ながさきけんのさんみやく (長崎縣の山脈) 霧島帶火山脈は、八代沖を越えて島原半島に來

り、多良岳温泉岳等を噴出して、更に西北に走れり。高洲火山脈は、五島列島より壹岐に至り、それより東に走れり。

ながさきけんのたうしよ (長崎縣の島嶼) 本縣は島嶼甚だ多し。就中、その重要なるものを擧ぐれば、北松浦半島の西に平戸島、五島あり、北方に壹岐、對馬あり。又、長崎港の前面に高島あり。伊万里灣口に鷹島あり、小島なれども、弘安の役、元兵の據りし所なるを以てその名著はる。

ながさきけんのちせい (長崎縣の地勢) 阿蘇火山脈に關する温泉岳は、島原半島に聳ね、その脈延て彼杵半島の脊梁をなし、北松浦半島亦、山地にして、平地と稱すべきものなし。故に本縣は山岳丘陵多き半島と、島嶼を管するものといふべし。而して海岸線は非常に長く、六百餘里に達し隨て最も港灣に富めり。

ながさきけんのつたう (長崎縣の鐵道) 九州

鐵道の長崎線は、佐賀縣より來りて本縣に入り、早岐にて一支線を出して佐世保に至り、本線は早岐より大村灣の沿岸に沿ひて、東南に走り、大村、諫早を経て一旦西北に轉じ、夫より南に向ひ長崎に達す。この間に十二の停車場を設置せり。

ながさきけんのたうかい (長崎縣の都會) 長崎市は縣廳の所在地にして、人口十五萬。砲臺造船所等あり。最も舊き貿易港にして、艦甲細工、蓑等は本市の主なる物産なり。口の津は島原半島南端の開港場にして、三池の石炭多くこの地より輸出せらる。佐世保は、人口約四萬、第三鎮守府の所在地なり。この地、もと一小漁村なりしが、明治十九年鎮守府の設置以來順に繁盛を來し、市制を施行し縣下の第二の都會となれり。平戸島の平戸は、始めて和蘭と互市場を開きし處にして、人口一萬

二千餘。近海の漁獵地なり。壹岐に勝本の要港あり。對馬に嚴原、鹿兒、佐賀原の開港場あり。就中、嚴原は宗氏の舊城下にして、文永、弘安の昔、元兵の來寇せし處、今は警備隊を置けり。又、竹敷は海軍の要港なり。

ながさきけんののらさん(長崎縣の農産)甘藷の産最も多くして、收穫高九千八百三十餘萬貫の多きに達し、島嶼地方住民の常食となせり。

ながさきけんのはんたう(長崎縣の半島)本縣の北部には、北松浦半島突出して伊萬里灣を擁し、南部には島原半島東方に突出して、諫早の地峽を以て連り、西野母崎と對して千々岩灘を抱く。又、彼杵半島西北に突出して大村灣を形成せり。

ながさきけんのるち(長崎縣の位置)本縣は肥前の半島地方と、その西北に散在せる數多の島嶼より成り、東北は佐賀縣及び有明海に接

し、海を隔て、熊本縣に對す。南は千々岩灘天草灘にして、熊本縣の天草群島に臨み、西は黄海を隔て、遠く支那に對し、北は壹岐海峽を経て壹岐に、對馬海峽を経て對馬に到り朝鮮海峽を隔て、鮮朝に對す。

ながさきかり(長崎港)野母崎の地頸に位し、東南北の三面丘陵を繞らし、四方開けて海水深く灣入し、自然の良港なり。浦鹽斯德、朝鮮、支那、西洋諸國を往來する船舶の發着所にして、内國諸港との航通、亦、盛なり。

ながさきし(長崎市)長崎縣廳の所在地にして人口十五萬。砲臺あり、造船所あり。徳川時代に於ける唯一の貿易港たり。開港以來繁榮は神戸、横濱に及ばざれども、尙、重要の商港なり。鼈甲細工、蓑等は本市の特産とす。

ながさきしのぬんかく(長崎市の沿革)長崎は或瓊浦の稱あり。相傳ふ鎌倉の家臣長崎氏の邑なりきと。足利氏の末、平戸、漸く外國貿

易の中心となり、その利を専らにして四隣の羨望する所たり。而して外船時に大村氏の領土福田横瀬に寄港するものあり、大村純忠深

江浦の良泊なるを以て修築を加へ、外船を誘ふ。元龜以後漸く盛にして商賈四集し、終に平戸を凌ぐ。天正十六年秀吉西征、この地を直轄し奉行に治めしむ。徳川氏もその制を尋

ぎ、外國貿易を制限し和蘭、支那のみ交易するを許せしより、爾來市民その利を獨占せり。

ながしの(長篠)三河に在りて、織田信長が武田勝頼を破りし所なり。

ながしま(長島)八代灣口を扼する島嶼にして薩摩に屬す。周圍二十一里餘。本島と本國四北岸との間は潮流急にして、これを黒瀬戸、又、軍人の瀬戸といふ。

ながす(長洲)豊後の國東半島の地頸部に當れる名邑なり。

なかつ(中津)大分縣北部の都會にして、山國

川の東岸海流にあり。商業、稍、盛にして人口一萬六千餘あり。

なかつかは(中津川)淀川の分流にして、大阪府西成郡に在り。北長柄にて本流と分れ、西南に環流して傳法村にて二派となり、大阪灣に注ぐ。長三里九町中二町。

なかつわん(中津灣)豊後の國東半島と、豊前の海岸とによりて形成せられたる海灣なり。

ながと(長門)山陽道の一國にして、南方海を隔て、九州に對し、北及び西は日本海に濱し東は石見、周防に連る。山口縣の管轄に屬せり。ふけんくわんかつを見よ。

ながのけん(長野縣)本州中部の高地にして、信濃全國を管す。面積の廣きこと我邦第二の大縣なり。

ながのけんのかうつう(長野縣の交通)本縣の鐵道は信越線、篠ノ井線、中央線等あり。北陸地方關東地方及び關西地方に交通の便あり

鐵道の項参照。

中山道 は、輕井澤より追分、岩村田、和田
壺尻等を経て、木曾川の谷に沿ひ岐阜縣に入
る。

北國路 は、追分より上田、篠ノ井、長野、
野尻を経て、越後の直江津に至る。

伊那街道甲州路 は、伊那に起り高遠、四日
市を経て甲州に入る。

遠江青崩嶺路 は、飯田に起り南に走りて遠
江の水窪に達す。

飛騨路 は、中山道の敷原より分岐して、飛
騨の野麥に達す。

ながのけんのかりう (長野縣の河流) 天龍川は
諏訪湖より發して、赤石山脈、木曾山脈の間
を流れ靜岡縣に入り、木曾川、木曾山脈の西
を流れて岐阜縣に入り、北部の千曲川は三國
山脈の西を、犀川は飛騨山脈の東を、共に北
流して相合し、信濃川となりて新瀉縣に入る

ありて、一水の縣内に來り流るゝものなし。
ながのけんのさくら (長野縣の氣候) 本縣は本
州中の最高地に屬し、山脈四方に蟠結せるが
故に、氣候頗る大陸的なり。即ち諏訪湖の水
結して人馬の通行し得るを以て、その寒氣想
像すべく、夏季は晝は暑く、夜は涼しく五六
月の頃、梅櫻桃李一時に花咲くといふ。

ながのけんのさやうかい (長野縣の境界) 岐阜
縣の西南に連り、新瀉、富山、愛知、靜岡、
山梨、埼玉及び群馬の諸山に界す。

ながのけんのさんかく (長野縣の山岳) 本縣は
高原にして山岳頗る夥し。富士帶に屬する山
岳は立科山、戸隠山、高妻山等あり。三國山
脈には碓氷峠、淺間山等あり。飛騨山脈中に
は御嶽、乗鞍ヶ岳、鉦ヶ岳等あり。何れも高
峯なり。赤石山脈中には赤石山あり。木曾山
脈中には駒ヶ岳、惠那岳等あり。その他有明
岳、鉢盛山、和田峠、壺尻峠等の諸山あり。

姥捨山は北部にあり。觀月の勝地として、そ
の名著はる。

ながのけんのさんげふ (長野縣の産業) 山岳は
森林克く繁茂して、木材に富み、殊に木曾の
山林は本邦第一と稱せらる。徳川時代には、
五木停止法とて、檜、樅、榎、槭、明檜の伐
採を禁じたりしを以て、巨木鬱蒼として晝な
ほ暗し、且、近時千曲川、犀川、天龍川の治
水の爲、各地に、杉、栗、落葉松の植付を爲
さしめしを以て、後來大に、その結果の見る
べきものあらん。又、養蠶業の盛なる、我邦
第一と稱せらる。隨て、製糸、蠶卵紙、織物
の産額、巨多なり。要するに蠶業、林業は本
縣の富を支持する主要なるものなり。

ながのけんのさんみやう (長野縣の山脈) 東境
には、三國山脈走りて、淺間、碓氷の峻嶺と
なり、東南境には、赤石山脈南北に横はり、
西境は飛騨山脈これを擁して、御嶽、鉦ヶ岳

ながのけんのさんげふーながのけんのてつたう

等聳は、木曾山脈西南より來りて、縣内を北
走し、富士帶火山脈は中央を南北に貫けり。
斯く、諸山脈輻輳して、土地甚だ高く、松本
平の如きは、平地すら、海拔二、三〇〇尺に
及ぶといふ。

ながのけんのちせい (長野縣の地勢) 本縣の四
境は、山脈圍繞し、縣内も、亦、縦横に山脈
の蟠結せるを以て、山地その大部を占め、和
田峠、壺尻峠、鳥居峠を中心とし、以南の地
は南に傾斜し、以北の地は北に傾斜せり。

ながのけんのてつたう (長野縣の鐵道) 官設信
越線は、碓氷嶺を越へて、上野より本縣に入り
上田、長野等を経て北に走り、越後の直江津
に至る。篠ノ井線は、幹線の篠ノ井驛より分
岐して、畧、南に走り松本を経て壺尻に達す。
官設中央線は山梨縣より、本縣の東南部に來
り、諏訪を經由し、已に岡谷に達したり。こ
の線は遠からずして、中央西線に會合して、

名古屋市に交通自在となるべし。

ながのけんのといふ(長野縣の都邑) 長野市は縣廳の所在地にして、千曲川、犀川の合流する所にあり。人口三万餘、養蠶、製糸の業盛なり。上田は佐久平の中心地にして、長野、松本と鼎足をなし、道路四通し、製糸、機業商業盛なり、上田綿、上田紬を産す。松本は古の國府の地にして、人口三万餘。製糸、商業盛なり。上諏訪は諏訪湖の東岸にあり。古來諏訪氏の舊城地たり。製糸業、亦、盛なり。飯田は天龍川の谷にあり。水引、元結の製造盛なり。

ながのけんのふつさん(長野縣の物産) 主要なるものは、材木、繭、生糸、米、等にして、就中、生糸の産額は全國總産額の二割餘を占む。

ながのけんのへいち(長野縣の平地) 本地は諸川の流域にあり。即ち、淺間山の西南、千曲

川の上流地方を佐久平と云ひ、犀川の上流々域を松本平と云ひ、諏訪湖の地方を諏訪湖といひ、天龍川の上流地を伊那谷、木曾川の上流地を木曾谷といふ。

ながのけんのるち(長野縣の位置) 本州の中部に位する、最高の地にして、岐阜縣の東北に連り、四境は山岳を以て、新瀉、富山、岐阜、愛知、静岡、山梨、埼玉、群馬の八縣に接す。

ながのし(長野市) 善光寺平の西北にあり。人口三万餘、長野縣廳、地方裁判所あり。又有名なる善光寺ありて、四方より參集するもの多く、養蠶、製糸の業盛なり。

ながはま(長瀨) 琵琶湖に臨み、北國街道の要衝に當り、水陸の交通便にして、湖北第一の都會なり、所謂濱縮緬の産地たり。

なかもら(中村) 福嶋縣にあり。濱街道の要衝にして、相馬焼の産額多し。人口六千餘、市街殷賑なり。

ながらがは(長良川) 源を大日岳に發し、岐阜の北方を過ぎ、南流して、木曾川に合す。下流を豊股川といふ。

ながらがはのりかひ(長良川の鵜飼) 毎年夏秋の候暗夜篝火を照らし、漁舟に乗じて、長良川の清流に浮び、毎隻数十の鵜を放ち、鮎を捕へしむ。實に壯觀にして、遠客の來り觀るもの多し。

ながれやま(流山) 江戸川の左岸(下總)にあり。この地より、産出する味淋は、品質の良好なる全國無比と稱せらる。

ながをかし(長岡市) 新瀉縣にあり。人口二万五千餘、北越線中の要驛にして、水陸の交通便利にして、商業盛大、新瀉を凌駕せんとする勢あり。

なきのまん(那岐山) 因幡の南境にある高峯にして、海拔五、二〇〇尺餘あり。

なごや(勿米) 常陸と磐城との境にあり。源義

ながらがは——なごやち

家陸奥より歸るとき、この地を過ぎ、櫻子の亂れ散れるを見て、一首の和歌を詠せりといふ。

ふくかぜを勿來のせきと思へども

みちもせにちるやまざくらかな

なごや(名古屋) 佐賀縣東松浦郡の北端にあり。豊臣秀吉征韓のとき、本陣を置きし地なり。

なごやし(名古屋市) 尾濃平野の南部に位し、東西兩京の中間に當り、水陸の運輸極めて便なるを以て、人口日々に増殖し、その繁盛三府に亞ぐ。愛知縣廳、控訴院、第三師團司令部等あり。この地も徳川氏の城地にして、城の天守閣は巍然として聳れ、一雙の金鯱は傑出たる光を發せり。織物、漆器、七寶焼、扇等は、この市の名産なり。

なごやじやち(名古屋城) 一に金城と稱す。市の北部を占め、世々徳川氏の分封所たり。城は加藤清正の意匠に成りて、慶長年間徳川義

直の築造せし所なり。天守閣には金鯱一雙を飾る。朝暈、夕暉に映じて、燦爛たる光を放つ。高さ各八尺半ありといふ。

なさかりら(浪逆浦)常陸の霞ヶ浦と、その東方なる北浦との水相通ずる處を、浪逆浦といふ。沿岸地肥に漁利多し。

なすくわさんみやく(那須火山脈)北上、阿武隈岡山脈の西方に在り。本州北部の分水界を成し、南には榛名、赤城、白根(日光)、高原那須、の諸火山あり。北には吾妻、藏王、駒岳、焼山、岩手山、八甲田山、恐山の諸火山連る。

なすさん(那須山)下野の北境に聳立し、海拔六、三〇〇餘尺。山中硫氣の噴孔多く、その數百餘に及ぶといふ。

なすの(那須野)下野那須山の南麓にあり。東西五里、南北八里餘、開墾未だ全からず。往古殺生石の奇譚ありし所なり。

り一岬突出するあり、これを夏泊崎といふ。

その西は青森灣にして、東は野邊地灣なり。

なとりがは(名取川)陸前の南隅にあり。廣瀬川に合し、閑上流に注ぐ。

なない(七飯)北海道渡島の北方にありて、牧畜盛なる所なり。

ななしまなだ(七島洋)種子ヶ島、屋久島以南一帯の海をいふ。

ななつかまのたき(七釜の瀧)三國山脈中苗場山の支脈中にあり。七階をなして流下し、頗る、壯觀なりといふ。

ななを(七尾)能登灣の南灣の一隅に位し、人口一万餘。露領浦壙斯徳との間に、定期船の往來あり。又、伏木と、直江津とは、日々汽船の往復ありて、市街頗る賑へり。

ななをてつたりせん(七尾鐵道線)本鐵道は、加賀國河北郡津幡町に起りて、能登國羽咋郡七尾町に至るものなり。線路延長三十三哩四

なとりがは—なばりがは

なすをんせん(那須温泉)長野縣小縣郡青木村字那須にあり。仙人湯、朶湯、有乳湯の總稱なり。泉質各硫黄泉、治効慢性筋痲痺質私、慢性皮膚病等なりとす。

なせとら(名瀬港)薩摩の東南大島の名港なり。黒砂糖を産す。

なだ(灘)神戸以東の海濱の通稱にして、この地方は、清酒の醸造盛んにして、品質良好なり。

なちさん(那智山)紀伊の中部に聳ゆ。海拔二、九〇〇尺。山腹に瀑布あり、那智の瀑布といふ。

なちのたき(那智瀧)那智山の半腹に在り、直下八十四丈、巾十八間、我邦屈指の名瀑にして、水煙四散し、近傍は夏猶寒し。熊野沖を航するもの、尙、且、これを望むを得るといふ。

なつとまりさき(夏泊崎)陸奥灣の南岸中央よ

十五鎮なり。この間に十二停車場を設置す。

この鐵道の起点たる津幡驛は官設北陸線の驛にして官設に連絡するを以て、頗る、便利なり。

ななをわん(七尾灣)能登半島の東部、富山灣の北西にあり。兩岸の距離、僅かに三里、中央に能登島あり、灣口ために、二に分かれ、北を大口峽といひ、南を小口峽といふ。この邊一帯山水の景よろし。

なには(浪華)大阪をいふ。大阪の部を見よ。なは(那覇)沖縄縣廳の所在地にして、人口三万六千餘、開港場の一なり。港は珊瑚礁を繞らし、波浪を防止すれども、水深からず。大船は港外に泊す。芭蕉布、紬、泡盛、漆器等を産す。

なばりがは(名張川)一名梁瀬川。三重縣伊賀國に在り。その源二あり。一は大和宇陀郡の東南に、一は同郡の南境に發し、名張の西南

にて會し、西北流して木津川に入る。長十二里。

なほなづ (直江津) 越後荒川の河口にあり。港は東西一町餘、南北三町許にして、遠淺なるを以て、船舶の碇泊に便ならざれども、他に長港なきが爲、新瀧と共に、北越の二大港として、定期船の寄港あり。鐵道の布設以來、百貨集散し、商業盛なり。

なほかた (直方) 福岡縣遠賀川の上流地なる筑豊炭山の中央にある一都會なり。

なんかいだら (南海道) 紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐の六國にして、和歌山縣(紀伊の大部)、徳島縣(阿波)、香川縣(讃岐)、愛媛縣(伊豫)、高知縣(土佐)の外、淡路は、兵庫縣に屬せり。

なんかいてつだらせん (南海鐵道線) 本鐵道は大阪市南區難波驛を起点として、大阪灣の沿岸に沿ひ、南に走り、和歌山市の北部なる、

和歌山北口驛を終点とせり。線路延長三十八哩七十六釐にして、この間に、十六の停車場を置く。本線路の天下茶屋驛よりは、天王寺に至り、關西鐵道に連絡する分岐線あり。

なんかふ (南岬) 臺灣島の最南端にある岬角にして、近海は、暗礁相連り、海流、亦、急駛せり。時に暴風の襲來することあり、燈臺の設ありて、近海を警戒せり。

なんきよく (南極) 地球の南北の直徑を地軸といひ、その北なるを北極といひ、南なるを南極と云ふ。

なんきよくせん (南極線) 地球の南極より、二十三度半の處に、一線を劃す。これを南極線といふ。この線より南極に至る間は、即ち、南寒帯なり。

なんせいにかふ (南西岬) 臺灣島の最南端なる南岬の西方に突出せる岬角にして、近海の航行頗る、危険なり。

なんたいさん (男休山) 下野にあり。日光火山彙中最高峻なる一峯にして、海拔八、二二〇尺に達せり。

なんてうきゆらし (南朝宮址) 大和吉野山中にあり。後醍醐天皇以下、五十餘年間、皇居の在りし處なり。

なんと (南都) 大和奈良をいふ。奈良の部を見よ。

なんひやりやり (南氷洋) 地球の南極四近に在る海洋なり。その區域は、南緯六十六度半にて圍まるる極圈以内なり。

なんぶ (南部) 岩手縣盛岡市以北、青森縣南境地方を稱す。牧畜の業、甚だ、盛んにして、南部馬の名、世に高く、約十萬餘頭を飼育せり。鑛業も亦盛んにして、東部釜石よりは、鐵鑛の産出甚だ夥し。

なんぶふじ (南部富士) 岩手山の別名にして、陸中の西北境にあり。海拔六、七〇〇尺。休

なんたいさんーならけんのかつこ

火山にして、山上、岩手神社あり。大己貴命を祀る。

なめりかは (滑川) 越中海岸にあり。魚津、新港、氷見等と共に、海産物を以て、有名なり。相摸國鎌倉町にある細流の名。

ならけん (奈良縣) 大和全國を管し、畿内の東南部を占め、縣廳は奈良にあり。

ならけんのかりつら (奈良縣の交通) 本縣は南部一半は山地にして、交通極めて、不便なれども、北部一半は道路相開け、鐵道も敷設せられて、交通自由なり。(鐵道の項参照)。道路は奈良を起点として、北に出で、京都に至るを京都路とす。大阪府へは暗峠越、龜瀬越、竹内峠越、龍田越等あり。暗峠越は奈良より河内の松原に至り、龜瀬越は龍田より、河内の國分に至る。龍田越は郡山より河内の神立に至る。竹内越は奈良より起り、河内の山田に至るを云ふ。伊賀越は奈良を起点として名

張に通ずるを云ふ。

ならけんのかりう (奈良縣の河流) 本縣中央多武峯一帯の山脈の南方を西流するものを吉野川といひ、吉野群山を挟みて、南流するもの東なるを北山川といひ、南なるを十津川といふ。共に紀伊の境に至り、相合して、熊野川となる。北方平野の水を集め、西境の溪谷を過ぎて、西流し、大阪府に入るものを、大和川といふ。又、名張川、三重縣より來り、東北隅を過ぎ、京都府に入り、木津川となる。

ならけんのさやうかい (奈良縣の境界) 北方京都府に、東方三重縣に、南方和歌山縣に、西方大阪府に界す。

ならけんのさんかく (奈良縣の山岳) 多武峯は畧、中央に聳れ、鎌足公を祀れる社ありて、有名なり。吉野山は吉野川の南岸に在り、南朝の遺跡と櫻花とを以て世に著はる。山上岳、大壘原山、釋迦岳、大日岳、地藏岳、玉置山

の中央多武峯山脈の南を流れて、地勢を南北の二部に分つ。南部は即ち吉野群山の蟠蜿する處にして、到る處悉く山岳にして、僅かに北山川、十津川の二流あるのみ。北部は山地あれども、概ね平野なり。

ならけんのでつたう (奈良縣の鐵道) 關西鐵道の幹線は、大阪府より本縣に來り、王子、法隆寺、郡山、奈良等を経て京都府に入る。別線は京都七條より起りて本縣に來り、奈良、柳本を経て櫻井に達す(舊奈良鐵道)。又、幹線の王子驛より分岐して南に走り、高田にて櫻井より來る線と會合して、尙、南に走り五條にて吉野河岸に沿ひ、和歌山市に達する線あり。舊紀和鐵道、南和鐵道これなり。

ならけんのちせい

等は、皆、南部吉野郡に屬する山岳なり。大阪府河内との間には、金剛山、二條山、信貴山、生駒山等屹立せり。

ならけんのさんげふ (奈良縣の産業) 農業は北部の水利に便なる平地に行はれ、傍ら製茶、養蠶、紡績織に従事す。南部には、森林業營まれ、松、杉、檜等の良材を産す。奈良は美術工藝盛にして、漆器、奈良晒、筆、墨を産す。

ならけんのさんみやく (奈良縣の山脈) 本縣の東境は鈴鹿山脈南走して、大壘原山に達す。西に金剛山脈あり。而して、縣内に蟠れる多武峯一帯の山脈によりて、この東西両山脈を連結せり。南中部の地は、紀伊山脈の最高部に於て、その吉野群山は、金峯山、釋迦岳等の高峯を起せり。又、東北の一隅に笠置山脈横はれり。

ならけんのちせい (奈良縣の地勢) 吉野川本縣

奈良に亞げる繁華の都會なり。五條は吉野川の沿岸にあり、紀伊に通ずる要衝に當れり。

ならけんのめいしよ (奈良縣の名勝) 吉野山は櫻花の名所として世に知らる。金峯山より吉野川岸に至るの間、悉く櫻樹相連れり。月瀬は伊賀の境にあり。名張川の溪間にして、その梅林は二州に跨る。花、山水を併せてその勝無雙と稱せらる。

ならけんのりんざん (奈良縣の林産) 南部山岳は森林鬱蒼として全山を蔽ひ、松、杉、檜の良材を産すること夥しく、殊に吉野附近の杉は、材質の優等なる、全國第一位を占むといふ。

ならけんのみち (奈良縣の位置) 京都府の南に連り、東三重縣に接し、南和歌山縣に、西大阪府に隣接す。

ならし (奈良市) 又、南都といふ。奈良朝の帝都たりしを以て風色自ら閑雅なり。奈良縣廳

の所在地にして、人口三万五千餘。東に春日山、若草山、手向山等あり。一帯の山麓は雅致ある公園にして、東大寺、正倉院、興福寺博物館等公園中に在り。筆、墨、人形等はこの市の名産なり。

なりしの(習志野) 關東平野の一部にして下總に在り。明治六年、陸軍演習の際、主上の命名し給ひし所にしてその名高し。

なりしのひんかく(奈良市の沿革) 元明天皇より桓武天皇の山城遷都に至るまで、七朝八十餘年間の帝都たりし地にして、又、南都の稱あり。故を以て社寺遺蹟頗る多し。

なりしのしやじとせき(奈良市の社寺古蹟) 春日神社は、市の東春日山麓にあり。武甕槌命、經津主命、天兒屋根命を祀る。神護景雲二年の創立にして、藤原氏の氏神たり。社畔の燈籠數千基、境内幽邃にして野鹿人に馴れ、景致自ら閑雅なり。東大寺は聖武天皇の朝に、

總國分寺として建立し給ひし所、茲に安置する大佛は、金銅の蓋舎那佛の坐像にして、高さ五丈三尺、參詣者多し。興福寺は藤原氏の菩提所にして、その隆盛時代には盛大なりしも、後次第に衰へて、今は僅かに一二の堂宇を存するのみ。正倉院は勅封の寶庫にして、東大寺附屬の庫なり。現今宮内省の管理に屬し、奈良朝時代の古器珍寶を藏する多し。聖武天皇崩し給ひし時、御遺言に依り一切の御物を、大佛に寄附し給ひしものなりといふ。

なりせん(奈良線) 奈良鐵道線は、關西鐵道に合併せり。
ならのたいふつ(奈良の大佛) 奈良東大寺に安置す。金銅の蓋舎那佛の坐像にして、高さ五丈三尺、而の長さ一丈六尺、廣さ九尺五寸あり。天平勝寶元年、聖武天皇の詔に依りて鑄造したるものなり。

なりた(成田) 下總印旛沼の東に在り。有名な

る成田不動あり。天慶の亂に朱雀天皇、僧寛朝に命じ、朝敵降伏の法を修せしめ給ひし所なりといふ。

なりたてつたうせん(成田鐵道線) 本鐵道は、下總國印旛郡佐倉町を起點として、香取郡佐原町を終點とす。別線は我孫子成田間の二十哩三十鎮なり。成田我孫子間には八驛を置けり。本線は延長二十四哩五十五鎮にして、中間に四驛を設置せり。

なるせがは(鳴瀬川) 陸前の中央にあり。西境に發源し、東流して野蒜港に注ぐ。

なるとかいけふ(鳴門海峡) 阿波の板野郡大毛山と、淡路の行者ヶ岬との間にあり。峽間岩礁多し、潮汐平滿の時、兩海の水平に一丈餘の差を生ずるを以て、海水渦流をなし、轟然雷の如し、航行極めて險惡なり。

なるみ(鳴海) 熱田(尾張)の南方一里許にあり昔は海岸にありて鳴海瀧と稱せしが、今は海

なりたてつたうせん——にじつちやう

岸を去る一里許にあり。鳴海瀧は有名なる産物なり。

に

はくわりさん(二荒山) 下野日光山にあり。この山、往昔二荒山と稱せしが、その字音相近きに由り、日光山と書するに至れりといふ。山中名勝多く、山水の秀美なる天下無双と稱せらる。日光山の部參照すべし。

はくわりじんじや(二荒神社) 下野日光山東照宮の西にあり。僧勝道の創建に係り、大己貴命を祀る。國幣中社なり。

はしねかは(西大川) 一に旭川といふ。源を美作の北方山間に發し、數多の支流を合して備前を過ぎ兒島灣に注ぐ。流域は備前平野にして、米産地として有名なり。

にしなりてつたうせん——につばしがは

にししがは (錦川) 岩國川の別名なり。源を周防の北方に發し、南流して海に注ぐ。下流に錦帯橋あり。

にしつちやう (二十廳) 臺灣は總督府の下に二十廳を置きてこれを治む。即ち、左の如し。臺北、基隆、宜蘭、深坑、桃子園、新竹、苗栗、臺中、彰化、南投、斗六、嘉義、鹽水港、臺南、蕃薯寮、鳳山、阿猴、恒春、臺東、澎湖。

にしなりてつたうせん (西成鐵道線) 本鐵道は大阪市梅田を起點とし、櫻島町、安治川口に至るものを云ふ。線路延長三哩五十二釐あり。前後五停車場を設置す。

にしのみや (西の宮) 兵庫縣攝津に在り。所謂灘地方にして、清酒の醸造を以て有名なり。人口凡そ一万四千あり。につから (日光) 下野男休山麓に在り。山中古木鬱蒼として茂り湖水あり、溪流あり、瀑布あり。

ま

りて自然の景致備はらざる所なく、東照宮の殿堂は規模宏大、建築壯麗、五彩燦然として人工の精美を極む。日光を見ずんば結構を云ふなかれとの諺あるに至る。

につくわりさん (日光山) 下野の西北に聳ゆ。最も高峻を極むるものを男休山 (海拔八、二〇尺) 赤雅山の二峯とす。處々舊火口及び硫氣噴孔あり。山中名勝多く、山水の秀絶なる天下無双と稱せらる。

につくわりさん (日光山) 日光山麓とは、栃木縣下野國西北に起伏する山岳の總稱なり。男休山、白根山、赤雅山等これなり。

につくわりせん (日光線) 本線は日本鐵道の幹線、上野青森間の一驛たる宇都宮驛 (下野國宇都宮市) を起點として幹線より分岐し、上野都賀郡日光町を終點とするものを云ふ。線路延長三十五哩、前後六停車場を設置す。

につばしがは (日橋川) 源を猪苗代湖に發し、

鶴沼川、品見川を合せ越後の界に入り、阿賀川となる。

にせりのりきゆう (二條の離宮) 京都市二條通の西方に二條城あり。現時、離宮となりて、二條の離宮と稱せらる。

にひがたけん (新潟縣) 北陸道の東北を占め、越後、佐渡の二國を管す。縣廳は新潟にあり。

にひがたけんのかいがし (新潟縣の海岸) 沿岸は風曲なく、良港に乏しく、新潟、柏崎直江津などあれども、皆、碇泊に便ならず。佐渡の沿海は冬季北風強くして、殆んど航海に堪へず。

にひがたけんのからつら (新潟縣の交通) 本縣の鐵道は、直江津新潟間の北越線と、直江津より長野縣に入り、關東地方に連絡する線とあり。

道路は (北國街道) は富山縣より來り、市振、青海、直江津、柏崎、新潟、新發田、村上等

にせりのりきゆう——にひがたけんのまやうかい

三三

を経て山形縣に入る。信濃路は直江津に起り高田關山を経て信濃の長野に至る。又、新潟より起り三條長岡を経て信濃に入るあり。清水越は上野に至るを得。その他岩代、羽前等に至る通路あり。新潟は汽船各地に往來す。

にひがたけんのかりう (新潟縣の河流) 信濃川信濃より來り、越後山脈と寒風山脈との間を蛇行して北流し、新潟港に注ぐ。その東に阿賀川あり。二川の流域は即ち越後平野なり。

荒川信濃より來り、高山を過ぎ直江津に至り海に注ぐ。にひがたけんのまころ (新潟縣の氣候) 本縣は西北海に面し、冬季大陸より寒風を受くるにあり、概して、寒氣強きも、對馬海流その沿岸を流るゝにより、稍、調利を受く。然れども冬期積雪非常に多く、數尺より丈餘に及ぶ。にひがたけんのまやうかい (新潟縣の境界) 長野縣の東北に連り、東北は山形縣、福島縣、

南は群馬縣、西は富山縣に接す、西北は一帯日本海に面す。

にひがたけんのさんかく(新潟縣の山岳)朝日山、飯豊山、御神樂岳、守門山、駒ヶ岳、割引山等は東部に屹立し、妙高山、焼山、米山、彌彦山等は、西南部に峙てり。その他、長野縣の境に、天水山、苗場山等あり。佐渡には北部に金北山あり。金の産出を以て古來有名なり。

にひがたけんのさんみやく(新潟縣の山脈)東南部には、越後山脈北より駛走するありて飯豊山、守門岳、駒ヶ岳、割引山等を起し、群馬の境には、三國山脈長野縣より來れるあり西部は富山縣との境に、飛驒山脈北走して日本海に没せるあり。寒風火山脈は寒風山より彌彦山に上陸し來り、米山、焼山を経て飯岳に連りて一帯の山地をなせり。

にひがたけんのせきゆう(新潟縣の石油)主要

なる産地は新發田、新潟、長岡、山雲崎、柏崎等附近一帯の地域にして、その産額多く、年額八十萬石を超過せりといふ。

にひがたけんのちせい(新潟縣の地勢)東南西の三方山岳を繞らし、殊に南方は峻嶺多くして、地勢自ら北に向つて傾斜し、河流、亦、皆、北流して日本海に注ぎ、下流々域に廣漠なる平野を形成せり。

にひがたけんのてつたう(新潟縣の鐵道)官設信越線は、長野縣より本縣に來り北に走り、直江津に達す。

北越鐵道は、越後國中頸城郡直江津に起りて東北に走り、長岡市を過ぎて、中蒲原郡新潟市を終点とす。線路延長八十四哩五十二鎖あり。この間に二十四の停車場を設置す。

本縣の鐵道は、この外に阿賀の川に沿うて來らんとする岩越線と、富山より直江津に來らんとする北陸線との未成線あり。

にひがたけんのとくわい(新潟縣の都會)新潟

市は信濃川の河口に位し、新潟縣廳の所在地にして、開港場の一たり。人口約六萬。北越有數の都會なれども、港灣は信濃川より吐出する土砂の爲に水淺く、北來の強風を避くること難し。上流地方に小汽船の往復あり。長岡市は北越線の要驛に當り、信濃川の通するありて、水陸の交通自在に商工の業發達し、新潟を凌駕せんとするの勢あり。人口二萬五千餘。附近石油の産出頗る多し。高田は荒川の西岸にあり、商業盛んにして、人口二萬三千餘。冬季積雪數丈、人家悉く埋めらるゝを以てその構造異様なり。小千谷は信濃川の西岸にあり。三國街道に近く、舟運の便ありて人口一萬餘。商業盛んなり。西方にある火井は俗に地獄谷と稱し、竹筒を挿みて點火し、燈火に代用するを得べし。この地方より越後縮皮び透綾を産す。柏崎はその近傍石油の産

多く、人口一萬餘にして繁華の都會なり。直江津は信越鐵道線に當り、荒川の口にあり。その港は狭く、且、淺けれども港灣に乏しき地方なれば、定期船の寄港もありて商業盛んなり。その他新發田には第十五旅團司令部あり。五泉は五泉平の名産を出し、三條は形附木綿を産す。

にひがたけんのへいや(新潟縣の平野)信濃川阿賀川等の流域は、所謂、越後平野にして、廣袤四十里に亘り、地味肥沃、米産多く、年額三百萬石に達し、全國中殆んど首位にあり又、近來石油の産出大に増加せり。

にひがたけんのぶつさん(新潟縣の物産)物産の主要なるものは、米及び石油にして、年産額米は三百萬石に達し、石油は八十萬石を超過せり。

にひがたけんのるち(新潟縣の位置)長野縣の東北に連り、南は群馬縣、西は富山縣、東北

は福島、山形両縣に接し、西北一帯日本海に面す。

にひがたし(新潟市)信濃川の河口左岸にありて、右岸の沼垂と相對す。天保年間、新潟奉行を置かれしに始まり、我邦五港の一と稱せられたれども、港灣は信濃川より流出する土砂の爲に水淺く、且、北風を防止するものなきを以て、風強きに際せば、船舶は纜を解いて佐渡の東港に逃れざるを得ず。さればその繁盛は到底他の四港に及ばず。新潟縣廳この地にありて人口約六萬。北越有数の都會なり。上流地方と小汽船の往來繁し。

にひがたへいや(津潟平野)信濃川、阿賀川等の流域一帯の廣漠たる平野にして、米穀の産額甚だ多し。

にひたかさみやく(新高山脈)臺灣山系に屬し、雪山山脈(シルビヤ山脈)の南に、少しく西に偏して南北に連亘す。新高山はその最

高峯にして、海拔一万三千尺、我國の最高地點たり。

にいたかやま(新高山)臺灣島の新高山脈中にあり。我邦第一の高峯にして、海拔一三、〇〇〇尺。四時白雪を戴く。この山は明治三十年今上天皇の命名し給ひし所にして、もとモリソン山と稱したり。

にほのらみ(鳴の海)琵琶湖の別名なり。同部を見よ。

にほんかい(日本海)我邦と朝鮮及び露領沿海州との間に挟まれたる一大海にして、西南は我邦と朝鮮間の海峽に終り、北は樺太と沿海州との海峽によりて、オホーツク海に通ず。

にほんかいめん(日本海面)我邦の日本海に面する方面は、弓形に灣曲せるを以て、これを太平洋面の弓形に擴張せるに(外帯又は表日本)對し、内帯又は裏日本と稱し、交錯せる火成岩地層より成り、著しく火山に富めり。

にほんかいりう(日本海流)日本群島の東西に海流あり。一は暖流にして、一は寒流なり。

暖流はこれを總稱して日本海流といひ、フィリピン群島の邊より臺灣の東に沿ひ、琉球列島の間を流れ九州の南に至り、分れて二派となる。本流は南側を進み、鹿島洋の邊より次第に陸地を遠かり、北アメリカの方に向て流る。その色藍黒なるを以て黒潮と名づく。支流は對馬海峽より日本海に入り、一部は津輕海峽を過ぎ、一部は宗谷海峽を経て共に消滅す。これを對馬海流と稱す。この暖流を受くる地方は溫暖なり。

にほんかんげふきんかり(日本勸業銀行)東京市麴町區に本店を設置す。

にほんきんかり(日本銀行)日本銀行は本店を東京市に設置し、全國に支店を配置せり。この銀行は特に日本政府の命を受けて、金貨、金塊を保管し、これに對して兌換券を發行し

にほんかいりうーにほんさんこうあん

正貨同様に流通せしむるの權利を有せり。

にほんさんさげい(日本三奇景)木曾の溪、耶馬溪、上野の妙義山、これを日本三奇景といふ。各條を見よ。

にほんさんきふりう(日本三急流)

富士川。甲斐より出で、駿河に流れ、駿河灣に注ぐ。

最上川。山形縣にあり日本海に注ぐ。

球摩川。熊本縣の南部にあり、八代海に注ぐ。

にほんさんけい(日本三景)陸前の松島、丹後の天橋立、安藝の嚴島をいふ。各その部を見よ。

にほんさんこうあん(日本三公園)水戸市の偕樂園、金澤市の兼六園、岡山市の後樂園をいふ。偕樂園は一に常磐公園といふ。徳川齊昭公の開きし所にして、北に筑波の翠巒を仰ぎ下に千波の碧漣を望み、風光甚だ佳なり。兼

六公園は、前田齊廣侯の經營せし所にして、東西五町、南北四町餘、園中松、杉、蕁然として茂り、池、沼、瀑布等の勝あり。後樂園は周圍一里餘、下に旭川の清流を眺め、仰ぎて鳥城の天守閣を望む。池田綱政侯の創設せる所にて、四時花の絶ゆることなし。

にほんさんだいらん（日本三大林）長野縣の木曾森林、奈良縣吉野の森林、和歌山縣高野森林これなり。

にほんなんぶのしよくぶつ（日本南部の植物）琉球、臺灣には半熱帯の植物多し。即ち、榕樹椰子樹、芭蕉、樟、臺灣赤松、竹等繁生し、海中には石藻の類多し。

にほんなんぶのどうぶつ（日本南部の動物）稍亞細亞の南部に似て、山猫、豹、水牛、大蝠、蝙蝠、飯匙荷の類棲息す。

にほんのいちびん（日本の郵便）明治四年に始めてこれを設けたる以來、その進歩甚だ速に

して、既に韓、清兩國へも線路を延長し、夙に万国郵便聯合に加入して、世界の各地大抵通信し得ざる所なし。

にほんのいちぢゆうわいじん（日本の移住外人）外國人の我邦に居留せるもの、總計一万三千七百餘人にて、最も多きは清國人の七千餘人、英國人の二千百人、合衆國人の一千六百人、獨逸人、佛蘭西人の各五六百人等とす。

にほんのうりやう（日本の雨量）我邦は四面海を繞りし、山脈中央を貫きて、海風を遮るるが故に一般に降雨多く、中にも六月九月は最も多し。而して太平洋に面する地方は夏季に雨多く、日本海に面する地方は冬季に雨雪多し。これ我邦は夏季南東の濕風を受け、その齎す所の濕氣は、中央の脊梁山脈に觸れて太平洋方面の地方に、雨を降らすこと多く、これに反し、日本海方面の地方は、既に濕氣の大部分を失ひたる風吹き來るを以て、降雨の

量少きなり。又、冬季大陸の中部、非常に冷却するときは、その冷氣太平洋に向ひて流動するを以て、我國は北西の凍風を受け、日本海上の濕氣は中央の脊梁山脈に觸れて、日本海方面の地方に雨雪を降らすこと多けれども、太平洋方面の地方は、濕氣の大部分を失ひたる風吹き來るを以て、雨雪の量少し。

全國中雨量の最も多きは臺灣の北部、九州の南東部、四國の南部及び紀伊半島、能島地方にして、少きは瀬戸内海沿岸、本州の中央部及び北東部、十州島の東部とす。

にほんのかいがん（日本の海岸）我邦は海岸線最も長く、特に太平洋岸は日本海岸に比して頗る出入に富み、従ひて其港灣多し。且、地形狹長にして幅最も廣き所とても、百里を超わざるが故に、海を距ること遠からずして運輸交通の便極めて大なり。

にほんのかいがんをんじけういく（日本の海軍

にほんのかいがん——にほんのかいこうじやう

軍事教育）海軍兵學校、海軍大學校、機關學校、軍醫學校等を設け、以て海軍々人に教育を施せり。

にほんのかいぢゆうわいじん（日本の海外移住民）海外に在留するもの凡そ十六萬人、その中亞米利加合衆國及び、その領地に十一萬人、韓國に二万九千一百餘人、英吉利及びその領地に五千七百人、清國に九千二百餘人を主とす。

にほんのかいこうじやう（日本の開港場）外國貿易は舊横濱、神戸、長崎、大阪、函館、新潟を主とせしが、條約改正の後、新に開きたるものと、臺灣の諸港とを合せて總計四十三ヶ所あり。即ち左の如し、横濱、神戸、大阪、長崎、新潟、夷、函館、青森、清水、武豊、四日市、糸崎、下關、門司、博多、唐津、口の津、三角、嚴原、住の江、佐須奈、鹿見、那覇、濱田、境、宮津、

敦賀、七尾、伏木、小樽、釧路、室蘭、基隆、淡水、安平、打狗、蔴港、後壠、塗葛窟、鹿港、東石港、東港、下湖口、如宮。

にほんのかいていでんしん（日本の海底電信）海底電線は主要なる諸島の間、に沈設せられ、特に大隅より臺灣に至るもの、如きは、その著しきものなり。又、外國に達する電線中、臺灣清國間は國有なれども、長崎と浦蘆斯德間、及び對馬と釜山間、長崎と上海間は外人の管理する所なり。又、近時、横濱と亞米利加合衆國との間に沈設せられたり。

にほんのかいりち（日本の海流）我日本群島の東西に海流あり。一は暖流にして一は寒流なり。暖流はこれを總稱して日本海流と云ひ、フィリピン群島の邊より、臺灣の東に沿ひ九州の南部に至り、更に南側を沿ひて鹿嶋洋に至るこれを黒潮といふ。黒潮は對馬海峽より日本海に入り、一部は津輕海峽を過ぎ、一部

は宗谷海峽を経て共に消滅す、これを對馬海流といふ。日本海流の部参照。

又、寒流はベーリング海と、オホーツク海とより來り三派あり。一は親潮と稱し、千島群島に沿うて流れ、十州と本州との東側を過ぎ鹿島洋の邊にて黒潮に逢ひて消滅す。一は樺太海流と稱し、樺太島の東岸に沿ひて南に流れ、宗谷海峽より日本海に入りて消滅す。一はライマン海流と稱し、間宮海峽を經、大陸の方に接して流れ、朝鮮海峽を出で、次第に消滅す。

にほんのかうつう（日本の交通）交通機關は維新後大に進歩し、道路は沿く國內に設けられ鐵道は延長既に五千哩に達し、電車鐵道、馬車鐵道處々に敷設せられ、水運は内地の河川沿岸の諸港船舶の往來あらざるなく、郵便電信はその線路を清、韓迄延長し、東京神戸間に長距離電話を設けられ、海底電線も主要な

る島嶼の間に設けられ、延て清、韓及び露領烏港及び合衆國に達せり。

にほんのかうとけういく（日本の高等教育）高等學校は東京、仙臺、京都、金澤、熊本、岡山、山口、鹿兒島に各一個を設け大學に入るべき豫備教育を施せり。帝國大學は東京、京都の兩大學に分かれ、東京帝國大學に法、理、醫、文、工、農の六分科あり。京都帝國大學に法、醫、理工、文の四分科あり。

にほんのきところ（日本の氣候）溫度、我國は南北千二百里に延長し、且、南部は暖流、北部は寒流の影響を受くるを以て、兩端の氣候に大差あるは勿論なれど四方、皆、海なるが故にその調和により甚だしき寒暑を生せず、且同一地方に於ては寒暑の激變少し。

雨量、我國は四面皆海にして、中央には山脈の駛走するあるが故に、一般に降雨多く、就中六月九月は最も多し。而して日本海に面す

にほんのかうとけういく——にほんのきしよらう

る方面は、冬季雨雪多く、太平洋方面は夏季に雨多し。

風位、冬期は北西風多く、夏期は南東風多し又、毎年九月頃には颶風起るを常とす、この風はフィリピン群島の南東に起りて、我國に襲來するものなり。

にほんのきしよらう（日本の氣象區）日本の氣象區は現今十區に分ち、西南より東北に至れり。左の如し。

- 第一區 西南諸島
- 第二區 南海西海の南部地方
- 第三區 瀬戸内海地方
- 第四區 九州北部山陰地方
- 第五區 東海地方
- 第六區 東山道西部地方
- 第七區 北陸地方
- 第八區 東山道東部地方
- 第九區 北海道西部地方

第十區 北海道東部地方

東京に中央氣象臺あり、地方に八十餘ヶ所の測候所を設け、各地の氣象はこれを中央氣象臺に通報し、中央氣象臺はこれにより各地の氣象警報を報告するものなり。

にほんのきむけういく(日本の義務教育)初等教育たる小學校に尋常高等の二科あり。その尋常科を義務教育とす。現時小學校の數殆んど三万に達し、學齡兒童千人に就き僅かに八人餘の不就學者あるに過ぎず。

にほんのきんかう(日本の銀行)全國の都會大抵これなきはなく、日本銀行、正金銀行、日本勸業銀行、農工銀行その他の普通銀行を始め、本支店の數四千六百餘に達せり。

にほんのきやうかい(日本の境界)北西は日本海とオホホック海とを隔て、露領シベリアに對し、西及び南西は日本海、黄海、東海を挟みて韓、清兩國と相對し、南端はパシ海峽を

隔て、フィリピン諸島に連り、東方は渺々たる太平洋にして、遙に亞米利加洲と相對す。にほんのきやうせいへつ(日本の行政別)行政上全國を三府四十三縣に分ち、別に北海道に道廳を置き、三區十六支廳に分ち、臺灣には總督府を置き二十廳に分てり。即ち

三 府

東京府 京都府 大阪府

四十三縣

神奈川縣(横浜市)、埼玉縣(浦和町)、千葉縣、茨城縣(水戸市)、栃木縣(宇都宮市)、群馬縣(前橋市)、福島縣、岩手縣(盛岡市)宮城縣(仙臺市)、青森縣、秋田縣、山形縣新潟縣、長野縣、山梨縣(甲府市)、静岡縣愛知縣(名古屋市)、岐阜縣、富山縣、石川縣(金澤市)、福井縣、滋賀縣(大津)、三重縣(津)、奈良縣、和歌山縣、兵庫縣(神戸市)岡山縣、廣島縣、山口縣、島根縣(松

江市)、鳥取縣、徳島縣、高知縣、愛媛縣(

松山市)、香川縣(高松市)、大分縣、福岡縣

佐賀縣、長崎縣、熊本縣、宮崎縣、鹿児島

縣、沖縄縣(那覇區)

北海道廳(札幌區)

三區 函館區 札幌區 小樽區

十六支廳 函館、檜山、釧路、岩内、小樽、

札幌、室蘭、空知、上川、増毛、宗谷、網

走、根室、釧路、河西、浦河

臺灣總督府(臺北)

二十廳 臺北、基隆、宜蘭、深坑、桃仔園、

新竹、苗栗、臺中、彰化、南投、斗六、嘉

義、臺南、臺南、蕃薯寮、鳳山、阿猴、

恒春、臺東、澎湖

にほんのくくわく(日本の區劃)天然の地勢に

基きて、畿内八道八十五國に區劃す。(但し臺

灣、樺太を省く)。この區劃は、今日の行政上

必要なければざる、歴史上、慣上今尙使用せら

にほんのくくわく

る。

畿内(五國) 山城、大和、河内、和泉、攝津

東海道(十五國) 伊賀、伊勢、志摩、尾張、

三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相模、武

藏、安房、上總、下總、常陸

東山道(十三國) 近江、美濃、飛驒、信濃、

上野、下野、磐城、岩代、陸前、陸中、陸

奥、羽前、羽後

北陸道(七國) 若狹、越前、加賀、能登、越

中、越後、佐渡

山陽道(八國) 播磨、美作、備前、備中、備

後、安藝、周防、長門

山陰道(八國) 丹波、丹後、但馬、因幡、伯

耆、出雲、石見、隱岐

南海道(六國) 紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊

豫、土佐

西海道(十一國) 筑前、筑後、豊前、豊後、

肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、壹岐、對

にほんのぐんかん——にほんのくわうけふ

馬(琉球)

北海道(十一國) 渡島、後志、石狩、天塩、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室、千島

臺灣、樺太。

にほんのぐんかん(日本の軍艦) 日露開戦の當時には、軍艦の數八十二艘、この排水量二十六萬五千噸にして、外に水雷艇數十艘ありしが、日露戦争の結果現今に於ては、軍艦の數約百隻の多きに達し、この排水量も三十萬噸以上に至れり。

にほんのぐんこう(日本の軍港) 横須賀、吳、佐世保、舞鶴の四港に鎮守府を置き、全國の海軍海面を分轄せり。

にほんのぐんじけういく(日本の軍事教育) 陸軍には幼年學校、陸軍士官學校、陸軍大學校、軍醫學校、獸醫學校、經理學校、軍樂學校等あり。海軍には海軍兵學校、海軍大學校、機

關學校、軍醫學校等ありて、軍人に特殊の教育を施せり。

にほんのぐわいこくぼりぬき(日本の外國貿易) 通商國は英吉利、佛蘭西、北米合衆國を始め總て二十三ヶ國あり。その中貿易價格の最も多きは、北米合衆國にして、清國これに次ぎ英國又、その次に位せり。貿易港は四十三港の多きあり。その中横濱、神戸の二港は貿易額の七割を占む。重要なる輸出品は生糸類、綿布類、絹布類、石炭、銅、米、茶、燐寸等にして、輸入品は綿糸類、砂糖、穀物、鐵その他の金屬、毛布、羊毛類、石油、綿布類、油糟、汽船車等なり。

にほんのくわうけふ(日本の鑛業) 鑛物中産額の多きは石炭にして、年額凡そ九百七十萬噸に及び、未だ歐米の石炭國に及ばざれども、亞細亞洲中の第一位を占め、全世界中の第九位を占む。次は銅にして、年額凡そ四千八百

萬斤、世界銅産國の第五位を占め多く外國に輸出す。鐵は最も必要なる鑛物なるも、年産額僅かに九百萬貫に過ぎず。現にその需用の八割は外國の輸入を受く。硫黄の年額は凡そ三千萬斤にして、世界中の第二位に當り、安質母尼の産額は第五位を占む。その他金、銀、鉛、石油、陶土、水晶、花崗石、大理石等の産もあるも、その額多からず。

にほんのくわうぶつ(日本の鑛物) 我國は概して鑛物豊にして種類多し、就中、石炭はその量最も多く、炭田の大なるは十州の南西部と九州の北西部とにあり。これに銅にして、その他鐵、硫黄、安質母尼、金、銀、鉛、石油、陶土、水晶、花崗石、大理石、石板石、砥石、硯材等あり。主として本土に産す。

にほんのけういく(日本の教育) 初等教育には小學校の設あり。尋常、高等の二科に分かれ尋常科を義務教育とす。現今小學校の數三萬

にほんのくわうぶつ——にほんのこうけふ

に達し、千人中僅かに八人餘の不就學兒童あるに過ぎず。中等教育には中學校、高等女學校、師範學校等各府縣にこれなきはなく中學校の如きは大抵一府縣に數校を設く。高等教育には東京、京都、仙臺、金澤、熊本、岡山、山口、鹿兒島に高等學校を設け、大學に入るの豫備をなし、東京、京都、福岡に大學を置けり。その他特殊教育としては、高等師範學校(東京、廣島)、高等商業學校(東京、神戸)、高等工業學校(東京、大阪)、商船學校、郵便電信學校、外國語學校、音樂學校、美術學校、各種私立大學(以上東京)、醫學專門學校(千葉、仙臺、岡山、金澤、長崎)、高等農林學校(盛岡)、高等工藝學校(京都)等あり。

にほんのこうけふ(日本の工業) 各種工業品中その最も多きは織物にして、年額一億三千萬圓に達し、その半は絹織物とす。京都の西陣を第一とし、桐生、福井、足利等、これに次ぐ

蠶糸は重要な輸出品にして、群馬、長野二縣の産最も多し。綿糸の製造は大阪、東京、岡山、三重等盛んにして、その材料たる綿花は印度より輸入し、燐寸は年産額九百萬圓、兵庫はその過半を産し、大阪、愛知、東京これに次ぎ、東洋諸國に輸出す。陶磁器は愛知、岐阜、佐賀を最多とし、漆器は和歌山の産多し。その他清酒は兵庫縣最も多く、醬油は千葉縣を多額とす。

にほんのこくたい (日本の國体) 我國は君主國にして、開闢以來二千五百有余年間、萬世一系の天皇、上にありてこれを統治し給へり。斯る國体は世界萬國絶てあらざる所なり。

にほんのさんさきやう (日本の三奇橋) 甲斐の猿橋(桂川)、越中の愛本の飛橋(黒部川)、周防の錦帯橋(岩國川)を稱す。

にほんのしちけう (日本の宗教) 現今行はる、宗教は神道、佛教、基督教の三とす。神道は

國民敬神の風に起因するものにして、現今十數派に分かれ、佛教は渡來後一千數百年を経過し、その間數多の名僧出でたるを以て、これを奉ずるもの多く、その宗派十二あり。基督教は往昔、稍、盛なりしも一時禁止せられて廢絶し、維新後その禁を解かれ、且、憲法に於て信仰の自由を認められしより、漸く各地に行はるゝの勢あり。

にほんのじんこう (日本の人口) 全國の人口凡そ五千萬余あり。これを總面積に配當すれば每方里凡そ一千八百三十余人にして、人口の稠密なるは世界中稀なる所とす。今各地方に就てこれを見るに、關東平野の東京を中心とせる四府縣は、每方里に三千二十人乃至一萬二千二百人あり。特に東京市の中央の如きは每方里十萬人以上を容る、畿内平野の大阪、京都二府は三千四百人乃至一萬二千にて、濃尾平野の愛知縣は一萬二千、讃岐平の香川縣

は六千六百人なり。又、人口稀薄なる地方は十州の一方里に百十四人、奥羽の岩手、青森二縣の七百三十人乃至一千人、九州の宮崎縣に於ける九百七十余人とす。これに由りて見れば概して平野、海岸、河畔等の交通に便なる處は、人口の稠密なるを知るべし。而して近年に於ける人口増加の割合は、年々凡そ六十萬人とす。

にほんのじんこうざうかのありあひ (日本の人口増加の割合) 最近の調査に依れば年々人口増加の割合は、凡そ六十萬人なりとす。

にほんのしちやうびふ (日本の商業) 内國の商業は東京、大阪を中心とし、各地の大都會は各地の中心をなす。外國貿易は横濱、神戸を中心とし、その他の四十ヶ所の開港場に於て行はる。近年交通の機關大に備はり、金融制度整ひ、商業會議所、商品陳列所、取引所等の商業上の機關設置せられ、保険制、亦、

行はれて、商業益々發達の氣運に向へり。

にほんのしゆぶく (日本の種族) 我國民の大部分は、蒙古種に屬する大和種族とす。その他アイヌ種族(北海道に住す)、支那種族(臺灣)あり。亦、蒙古種に屬す。唯、臺灣蕃族はマライ種に屬するのみ。

にほんのしよくぶつ (日本の植物) 中部即ち本土、四國、九州には温帶の植物多く、南海岸は黒松に富み、内地には櫛、柯樹、櫟、赤松、樺等を生じ、高地又は北方には檜、樺、赤楊等を生じ、海藻には黒菜等生長す。

北部即ち北海道には、半寒帶の植物多く、蝦夷松を生ず。擇捉島以北は偃松を生じ、海藻には昆布、裙帶菜の類發育す。

南部即ち琉球、臺灣には半熱帶の植物多く、榕樹、林投樹、芭蕉、樟、臺灣赤松、竹等繁生し、海藻には石藻の類多し。

にほんのしちやうけう (日本の初等教育)

南より、斜に東北に延びて千二百余里に亘り三個の彎曲を形成せり。北の彎曲は千島列島及び十州を含み、中の彎曲は本土、四國、九州の三大島を含み、南の彎曲は琉球列島及び臺灣諸島より成る。この三個の彎曲は主として樺太、崑崙の二大山系と、千島、富士、霧島の三大火山脈とより成るものなり。樺太山系は樺太島より十州島に入り、本土を縦貫して中央に達し、崑崙山系と相會す。崑崙山系は支那の崑崙山系の餘派を受けて、九州より二道となりて本土の南部を貫けり。この樺太崑崙山系の相會する處は、高山峻嶺相重なり本邦第一の高地をなし、山勢北に向ひて對曲す。その間を横斷するものを富士帶火山脈とす。富士山を主として、日本海より太平洋中に延び豆南諸島を形成す。千島帶火山脈は露領カムチアツカ半島より千島を貫き、十州島の中央に達する大火山脈なり。樺島帶火山脈

は霧島山を主とし、その脈琉球を経て臺灣に達す。臺灣は地勢上別に一區をなす、その中央分水嶺は東に偏して南北に亘り、北部は霧島帶火山脈の一部に當り、地勢甚だ錯綜せり斯く地勢狹長にして、分水山脈は各嶋の中央を貫けるを以て、河流は自ら長大ならず、平野も、亦、大なるものなし。されど海岸線非常に長く、世界中その比罕にして、實に七千四百余里に達し、半嶋、港灣に富む。その中最も長きは九州にして、短きは臺灣なりとす。にほんのちゆうとうけういぐ(日本の中等教育)各府縣には中學校、高等女學校、師範學校の設置あり。中にも中學校は一府縣大抵數個あり。

くば北方には檜、樺、赤楊等繁茂し、海藻には黒菜最もよく生長す。

にほんちゆうぶのどうぶつ(日本中部の動物)中部の山林には猿、狐、狸、貍、兎、熊、鹿、鷲、猪、鷹、啄木鳥、雉その他諸種の鳴禽類棲息し、川には鯉、鮎、鰻等を産す。又、對馬には特に山猫あり。小笠原嶋には大蝙蝠を産す。

にほんのつらしやうこく(日本の通商國)日本の條約國の項を見よ。

にほんのでりやくこく(日本の條約國)

亞細亞にありては 清、韓、暹羅、歐羅巴にありては 英吉利、佛蘭西、獨逸、奧大利匈牙利、以太利、西班牙、白耳義、和蘭、葡萄牙、瑞典、丁抹、瑞典諸國、希臘及び露西亞、亞米利加にありては

にほんちゆうぶのどうぶつ——にほんのてんさんぶつ

北米合衆國、墨西哥、巴西、秘露、アルヘンチナ。

亞非利加にありては

コンゴ自由國。

合計二十三國。

にほんのてつたう(日本の鐵道)鐵道は明治五年に東京、横濱間に敷設したるを創始とし、現今にては已に全國を貫通し、延長實に五千哩に達し、殆んどその敷設を見ざる地方なきに至れり。

にほんのてつたうせん(日本鐵道線)東京市上野に起り、陸奥の青森に至るものを云ふ。線路延長四百五十六哩七十一鎖あり。前後九十の驛を有す。別線は田端岩沼間、小山友部間、小山前橋間、大宮前橋間、赤羽品川間、宇都宮日光間とす。支線は岩切鹽竈間、尻内湊間なり。

にほんのてんさんぶつ(日本の天産物)我邦は

温熱二帯に跨り、北部は寒帯性の氣候を有するが故に植物の種類極めて多く、奇なるもの亦寡からず。即ち臺灣南部琉球には榕樹、椰子等の熱帯植物あり。北部北海道樺太には寒帯性の蝦夷松あり。中部は温帯なれば、松、杉、檜等の良材を始め、漆、桑等の有用植物に富む。

動物も、亦、種類甚だ多く、獵虎、臘肭臍、鯨等を始め、魚類の豊富なるは内外人の認むる所、殊に北海道、樺太の近海は世界有数の鯊魚帯と稱せらる。

鐵物も、亦、火山國なればその種類多く、石炭、銅及び建築石材最も豊富にして、金、石油これに次ぎ、その他、銀、鐵、硫黃、安質母尼等を産す。

にほんのてんしん（日本の電信）明治二年に始めて電信の開設ありしより、進歩甚だ速にして、今日にては、全國の要地にその設あらず。

高等工業學校あり。東京に商船學校、郵便電信學校、外國語學校、音樂學校、美術學校及び各私立大學あり。千葉、仙臺、岡山、金澤長崎に各醫學專門學校あり。その他札幌の農學校、盛岡の高等農林學校、京都の高等工藝學校、臺灣の國語學校等、その著しきものとす。

にほんののらぎふ——にほんのくさや

るなく、且、海底電信の設備ありて、海外諸國に通せり。又、線無電信をも使用せらるゝに至れり。

にほんのてんわ（日本の電話）明治十八年の創設にして、爾來その發達最も急速にして、近年重要なる都市に普く架設せられ、且、長距離間にこれを使用するに至れり。

にほんのどろぶつ（日本の動物）獸類には牛馬等の家畜を始め熊、豺、狼、猪、猿、兎等の野獸、臘肭臍、海豹等の海獸あり。鳥類には雞、鶩等の家禽の外、鷹、鷹、雉子、鶯雀、鳥等の野鳥あり。又、小蛇、龜、山椒魚の類あり。魚類に至りてはその種類最も多く、鮭、鮪、鰹、鮐、鱈、鰯、烏賊、鯛等その主要なるものなり。

にほんのとくしゆけう（日本の特種教育）東京、廣島に、各高等師範學校あり。東京、神戸に各高等商業學校あり。東京、大阪に各

く、冬季北西の風多し。これ亞細亞大陸の影響を受くるものにして、夏季大陸の中部大に熱せらるゝときは、太平洋上の空氣これに向ひて流動するが故に、我邦は南東の風を受けこれに反し、冬季大陸の中部非常に冷却するときは、その冷氣太平洋に向ひて流動するが故に、北西風を受くるものとす。又、毎年九月頃フイリピン群島の邊より襲來する颶風あり。この風は二百十日の厄日として、農家の恐るゝ所なり。

にほんのへいびき（日本の兵役）帝國の防備は陸軍海軍より成り、大元帥陛下の統率し給ふ所なり。帝國臣民にして、満十七歳より滿四十歳迄の男子は、悉く兵役に服するの義務を負ひ、これを常備、後備、補充、國民の四種に分ち服役せしむ。更に常備兵役を分ちて現役及び豫備とし、國民兵役を第一第二の二種とす。

三六一

にほんのへいびー(日本の兵備)陸軍は全國を十
二師管に分ち、各師管に一師團の兵を配し、
別に近衛師團ありて、禁闕守衛の任に當る。
臺灣は右の管區外にして、各師團より混成旅
團三個を駐屯せしめ、島地には、警備隊の設
ありて守備に任ず。又、海岸の要地には砲臺
ありて要塞砲兵を配置す。
海軍は全國の海岸、海面を四海軍に分ち、各
區に鎮守府を置き、數多の軍艦を分屬せしめ
てこれを管す。

にほんのへうじゆんじ(日本の標準時)地球は
二十四時間に一回轉、即ち經度三百六十度を
回轉するを以て、經度十五度につき時刻に一
時間の差あり。故に各地の時刻は異なるもの
なり。我邦は明治二十一年一月以後、英國の
グリニッチ天文臺の東經百三十五度の子午
線上に、太陽の南中する瞬時を以て、日本の
標準正午時と定められたり、この東經百三十

五度線は明石海峡を通過し、兵庫、和歌山の
西にあたり。西部標準時は東經百二十度線
にして、臺灣の西を通過す。この標準時に據
る地方は臺灣、澎湖列島及び先島列島等なり
百三十五度に據る標準時より、一時間遅し。
にほんのぼくちくげふ(日本の牧畜業)牧畜は
奥羽、中國、九州に盛にして、馬は奥羽地方
に多く、牛は中國地方に多く、九州は牛馬共
に多く、就中、鹿兒島を第一とす。臺灣にて
は、水牛を多く飼養す。現今牛馬共に西洋種を
輸入して、頗る体格の改良を計りつゝあり。

にほんのめんせき(日本の面積)全國の總面積
は凡そ二万七千六百二十方里(凡そ十六万一千
三百方哩)にして、その中本州は全面積の半
以上を占め、十州島は本州の三分の二、九州
島は十州の二分の一強に當り、臺灣は、稍、
小さく、四國は臺灣の二分の一なり。この他、
新領土樺太は一、八〇〇餘方里あり。

にほんのゆしゆつひん(日本の輸出品)輸出品
の重要なものは生糸類、綿布類、絹布類、
石炭、銅、米、茶、燐寸等なり。

にほんのゆにふひん(日本の輸入品)輸入品の
重要なものは綿糸類、砂糖、穀物、鐵その
他の金屬、毛布、羊毛類、石油、綿布類、油
槽等なり。

にほんのりくごんごんじけうい(日本の陸軍
軍事教育)幼年學校、陸軍士官學校、陸軍大
學校、軍醫學校、獸醫學校、經理學校、軍樂
學校等を設けて軍人に特殊の教育を施せり。

にほんのりんげふ(日本の林業)我國は山岳多
く、且、氣候樹木の生育に適するが故に山林
到る處にあり。殊に著名なるは陸奥、羽後、
上野、下野、信濃(木曾)、越中、伊豆(天城)
駿河、遠江、伊勢、大和(吉野)、紀伊(熊野)
及び日向にあり。就中、木曾の檜林、吉野及
び秋田北境の杉林は、日本の三大美林と稱せ

にほんのゆしゆつひんーにほんのをんど

らる。現今の林制は北海道、臺灣を除き全國
を十六大林区に分ちて、國有林の保護經營を
掌らしむ。

にほんのるち(日本の位置)我帝國は亞細亞州
の東方海中にある島國にして、北東より南西
に連り長さ凡そ一千二百里、北西は日本海と
オホーツク海とを隔て、露領シベリアに對し
西と南西とは日本海、黄海、東海を狭みて韓
清兩國と相望み、南端はバシ海峡を隔て、
フィリピン諸島あり。東方は一帶太平洋に面
し、遙に亞米利加洲に對す。

にほんのをんど(日本の温度)溫和なる氣候を
有して、年中の平均温度華氏五十四五度なり
されど地形狭長なれば、その兩端は頗る差異
あり。臺灣はその南端熱帯にあれども、涼風
の調和あるを以て甚だ暑からず。その最高温
度華氏九十五六度を出です。只、他の諸島に
比して夏季長きに亘るのみ。九州四國地方は

にほんほくぶのしよくぶつ——ぬたぶかふしへたけ

最高温度は臺灣地方と、暑、相同じけれども最低温度は低く、平均華氏五十九度にあり。本州は、太平洋面及び瀬戸内海面の地方は寒暑共に九州地方より、稍、低く、氣候宜しきを得、日本海面の地方は、稍、寒冷にして、中央高地は頗る寒冷なり。北海道は一般に冷寒にして、且、寒暑の差甚だ大なり。その東岸及び中央の高地は殊に甚だし。樺太は寒威甚だし。

にほんほくぶのしよくぶつ (日本北部の植物)

北部即ち北海道は、半寒帯の植物多く蝦夷松を生ず。又、擇捉島以北には偃松あり。海藻には昆布、裙帶菜の類多く成育す。

にほんほくぶのどうぶつ (日本北部の動物) 北部には海獺、膾肭臍、蝦夷鼯、蝦夷山雞を産し、その他黒、白の狐、赤熊及び白熊あり。海中には鯨、鱈、鰹、河氷には鮭、鱒多し。

にほんまつ (二本松) 岩代の都會にして、戊辰

の役に於ける激戦地なり。

にんわじ (仁和寺) 京都府葛野郡花園村にあり皇居に變災ありし際、行幸せられしこと多きを以て名を知らる。

によいりんぢり (如意輪堂) 大和吉野にありて後醍醐天皇の御廟所たり。楠正行辭世の一首を刻書せし處なり。

によどがは (仁淀川) 伊豫の山間に發し、土佐の中部を集め土佐灣に注ぐ。流程二十六里。

にらやま (韮山) 伊豆の北部にありて、後北條氏の舊蹟地なり。

にるはま (新居濱) 愛媛縣の海岸にありて、別子銅山の製鍊所あり。製鹽盛んなり。

ぬ

ぬたぶかふしへたけ (ヌタブカフシヘ岳) (石

狩岳) 北海道石狩國川上郡にあり。一名大雪山と云ふ。直立八千尺以上あり。

ぬのびきのたき (布引の瀧) 兵庫縣摩耶山麓の南端にあり、分かれて二流となる。雌瀑は高さ七丈半、雄瀑は高さ十五丈、共に巾二間あり。その狀共に白布を懸けたる如くにして、極めて壯觀なり。

ぬまづ (沼津) 駿河の東方海岸にあり。この邊の海岸、白砂青松相映じて風光頗る佳なり。氣候溫和なるを以て、都人の別荘を設くるもの多し。

ね

ねころ (根來) 紀伊國那賀郡に在る村なり。天

ぬのびきのたき——ねむろかいげふ

正十三年三月秀吉この地の僧徒を攻む。眞言宗新義派の本山たる根來寺あり。大治五年の創建なり。

ねざめのとこ (寢覚の床) 溪谷を組成せる花崗岩の水蝕作用を蒙りて、奇狀を呈せるものにして上松の南にあり。巨巖の如く白く、或は高く柱の如く、或は平坦盤の如く、大なるものは數十丈、小なるものにも一二丈を下らず、その形狀により屏風岩、硯岩、烏帽子岩、釜石、粗石、浦島釣舟石、腰掛石等あり

木曾の溪流これに激して岸を啣み、潭となり瀬となり、風光絶佳なり。

ねむろ (根室) 十州島中の一州にして、東根室海峡を隔て、國後島に對し、北西南の三方は北見釧路に界す。

ねむろかいげふ (根室海峡) 千島列島の國後島と根室とによりて成りたる海峡にして、その間僅に七里に過す。

ねむろこらう (根室港) 根室灣内にあり。人口一萬餘。十州島東岸第一の都會にして、函館を去ること二百八十九哩。水淺けれど、函館と千島との航路の要津にして、且、海産物の集散地たり。

ねむろわん (根室灣) 根室の東方に突出せる納沙布岬と、北方に突出せる野付岬とによりて擁せらる。

の

のうがつかう (農學校) 農業に關する學術、技能を授くる所にして、東京及び札幌に官立の農學校あり。各府縣には甲種及び乙種の農學校を設く。

のうしやむしやう (農商務省) 農、商、工、水産、林野、鑛山、發明、意匠、商標、地質

り。山骨露出して鋸齒の如し、故にこの名ありといふ。房州石を産す。

のじまざき (野島崎) 房總半島の最南端にして燈臺の設置あり。

のしやつおさき (納沙布岬) 根室の南部より東北に突出して、根室灣を擁す。

のしろ (能代) 能代川の吐口にあり。陸奥地方及び陸中鹿角郡との交通の要路に當り、商業繁盛にして、米及び鑛物を輸送す。

のしろがは (能代川) 源を陸中の山間より發し羽後に来り、大阿仁、小阿仁等の諸水を合せ西流して能代港に至り海に注ぐ。

のぞ (野田) 下總の名邑にして、江戸川の沿岸にあり。醬油の名産地なり。

のぞじやうし (野田城址) 愛知縣南設樂郡にあり。徳川氏の部將菅沼定盈の居城たり。武田信玄この城を攻め病を得て没せり。

のと (能登) 北陸道の一州にして、越中の北方

のじまざき—のべちわん

に關することを管理する官廳にして、その長官を農商務大臣と云ふ。東京市京橋區に設置す。

のうひかちびん (濃飛高原) 越中飛騨より越後信濃の境に亘り、一大高原を成せる一大連脈にして、東方に御岳、乗鞍岳、硫黄岳、立山等の諸火山を噴起し、これと並行して鎗ヶ岳の連脈あり。

のうひへいや (濃尾平野) 木曾川及びその支流の流域地にして、尾張、美濃の二國に跨り、地味極めて肥沃、灌溉甚だ便利なり。されど降雨連日なれば、河水汎濫して水害を來すことあれど、沃土を洗滌するの利ありといふ。近年巨額の費を投じて、改修工事を施せり。

のうひへいやのじんこらう (濃尾平野の人口) 平均一方里毎に一万二千の人口あり。關東平野畿内平野と、もに、我國稠密の所なり。

のこざりやま (鋸山) 安房の北西上總の境にあ

より日本海中に突出して半島をなし、石川縣の管轄に關す。

のとさんみやく (能登山脈) 一名高洲山脈。能登火山脈は佐渡の金北山より西に走り、能登半島の高洲山、寶立山に來り、それより隱岐の島後、島前に至りて止む。

のとじま (能登島) 能登半島七尾灣の口に横はり、灣口を二分せり。

のとはんたう (能登半島) 越中加賀の境より日本海中に突出し、遙に佐渡島と相對せり。

のべち (野邊地) 青森縣にある名邑にして、野邊地灣に臨めり。

のべちこらう (野邊地港) 陸奥の野邊地灣内にありて良港の名あり。

のべちわん (野邊地灣) 陸奥の北端、津輕半島と斗南半島とによりて擁せられたる陸奥灣には、南方中央に夏泊崎あり。この崎以東の海灣を野邊地灣といひ、内に野邊地の良港あり。

のへをか(延岡)宮崎縣の都邑にして五箇瀬川の口にあり。椎茸及び紙を産す。
 のほの(能褒野)伊勢の鈴鹿郡にあり。日本武尊東征の歸途薙去し給ひし地なり。
 のまさき(野間崎)薩摩半島の南部より西方に突出せる岬角なり。
 のみじま(能美島)安藝江田島に連れり。周囲凡そ十五里餘あり。
 のむぎたちび(野麥峠)乗鞍岳の南にありて、信濃より飛驒に出づる阪路なり。道路の困難なること言ふべからず。
 のものぎき(野母崎)長崎市の南より西南に突出したる岬角なり。
 のりくらがだけ(乗鞍岳)立山火山脈中の高峯にして、信濃、飛驒の國境に聳け、高さ二〇、〇〇〇尺餘あり。

一ノ本ノ一

は

はらき(伯耆)山陰道の一國にして、鳥取縣の管轄に屬し、北方一帶日本海に面し、西は出雲に、南は備中、美作に界す。
 ばうこかい(澎湖海)澎湖列島の三大島相擁して形成せる海にして、良好なる碇泊處をなせり。
 ばうこくたう(澎湖群島)臺灣島の西方に散在せる數十の島嶼にして、その中最も大なるは澎湖、漁翁、白沙の三島にして相鼎立して内に一良港を抱く、媽宮港これなり。島内丘陵相連り、丘上秃にして、植物の生育に適せず、されど支那海の咽喉を扼せるを以て、軍事上重要な地たり。
 ばうこくたうのさんぶつ(澎湖群島の産物)

地味悪しくして、農産極めて少く、少量の甘蔗、落花生等あるのみ。その他魚族、家畜等あり。

ばうこたうのぬんかく(澎湖の沿革)この島は明朝の末に鄭成功これを占領し、清佛事件の時、クルーバーこれを占領し、日清戦役には終に我比志崎枝隊の占領に歸したり。

ばうしうれき(房州沖)房總半島の東方海上にして、黒潮の衝に當り航行危険と稱せらる。

ばうちりさんみやく(房總山脈)房總半島の南部、安房上總の國境に蟠まれる山脈にして、高山なけれども鋸山、鹿野山等は名高し。

ばうちりてつたりせん(房總鐵道線)本鐵道は千葉縣下總の千葉に起りて、畷、東南に走り安房國夷隅郡大原町を終點とするものなり。大網町より分岐して東金町に至る支線あり。線路延長三十九哩三十二鎖あり、十四驛を置く。

ばうこたうのぬんかくーばうぬ

ばうちりはんたう(房總半島)東京灣の東方を包み、北東より南西に突出すること二十餘里東岸に大東崎あり。最南端に野島岬あり。西方に洲崎あり。

はらだい(砲臺)國家の防備上、海岸の要所に砲臺の設置ありて、要塞砲兵を配せり。例へば東京灣、横須賀軍港、紀淡海峽、吳軍港下關海峽、對馬淺海灣、舞鶴軍港の如きこれなり。

はうづがは(保津川)京都府山城國の西部を流る、桂川の上流の稱なり。一に大堰川と云ふ源を丹波國北桑田郡の東境に發し、北桑田、船井、南桑田の三郡を屈曲流過して山城に入り、清瀧川を合し嵐山の麓を過ぎ、久世郡淀町に至りて淀川に入る。

はらふくじたりび(保福寺峠)信濃國千曲川と犀川との中間にあり、旅人の難處なり。
 はらる(方位)方位を定むるには、地面上に直

立せる一竿を建て、正午にその影の指す方を以て正北とし、これに反するを南とし、この影に直交する一線は、東西を指すものと知るべし。

はかたこう (博多港) 福岡市の一部にして、博多湾内にあり。西北に面して志摩、志賀の二半島これを抱く、碇泊の便利よく開港場の一なり。往昔支那、朝鮮との交通盛んなり。

はかたわん (博多湾) 筑前北岸の海湾にして、西方志摩半島、北方海の中道によりて擁せらる。内に博多港あり。

ぼかん (馬關) 長門下關の別名なり。下關の部を見よ。

はぎ (萩) 長門に在りて日本海に面し、阿武川に跨り、人口二萬に近し。山口との間壁道を以て車馬を通ず。毛利氏の舊城地なれども、交通不便の爲、その繁榮漸次山口に奪はれつゝあり。夏密柑を産出す。

はくさたり (白沙島) 澎湖列島中の三大島の一なり。

はくさん (白山) 一に越白嶺、又、しらやまといふ。加賀、越中、飛騨の三國に跨り、四時白雪を賦く。北陸第一の名山にして、中央の高峯を御前岳といふ。海拔八千九百尺。山上大己貴命を祀る。参詣者多し。又、山中に五大湖あり。火口湖に屬す。

はくさんくわさんみやく (白山火山脈) 石川県加賀國白山より起りて西に走り、大日岳、青葉山、大岡山、カンナベ山、大山、三瓶山等の火山を噴出し、山陰道、石見國に至りて止む、この白山帯火山脈は、現今活火山なく悉く熄火山なり。

はぐろじんじや (羽黒神社) 羽前羽黒山の頂上に祀れる神社なり。夏秋の候白衣の行者参詣するもの多しと云ふ。

はぐろやま (羽黒山) 羽前の三山の一にして、

月山の北に控ゆ。山上に羽黒神社あり。はくさきはちまんぐろ (箱崎八幡宮) 博多町を去ること東北十八町にあり。神功皇后及び玉依姫を祀る。

はこたてく (函館區) 北海道渡島にありて、人口凡そ九萬餘。支廳の所在地にして北海道の咽喉を扼し、市街繁盛なり。

はこたてこう (函館港) 函館湾内にあり。臥牛山海中に突出し、一條の砂洲これを連ねて港内巴形をなせるを以て一に巴港の名あり。安政六年の開港にして、港内水深く、碇泊に便なり。海産物、石炭、硫黄等を輸出し、米、茶、諸種の製造品を輸入す。

はこたてわん (函館灣) 渡島半島の南端にあり東に恵山岬、西に白神港突出してこれを擁す灣内函館港あり。

はこねさんる (箱根山葉) 相模、駿河の國境に蟠結し、その脈延きて伊豆に跨り、分岐して

はこねきはちまんぐろーはこねやま

數峯となる。東海道第一の難處と稱せられ昇降八里、山中に温泉多し。現今都人士の入浴避暑するもの頗る多し。

はこねしちたり (箱根七湯) 湯本、塔の澤、宮の下、堂ヶ島、底倉、木賀及び蘆の湯これなり。氣候冷なるを以て、夏日浴客特に多し。

はこねじんじや (箱根神社) 山中の湖邊にあり天平寶字元年の創立にして瓊々杵尊、彦火々見尊、木華咲耶姫を合祀す。

はこねのせきあと (箱根の關址) 箱根驛の西方にありて、今僅かに斷壁を見るのみ。驛は湖東に位す。

はこねやま (箱根山) 一に管根山、又、函嶺山に作る。相模國足柄下郡の西南に位する諸山の總稱にして、伊豆國田方郡の北境に跨る駒ヶ岳、二子山の數峯あり。東海道に當り一大險所となす。小田原より登行四里三十町三十三間、山上に芦の湖山趾に温泉七あり。箱根

らる。

はままつ(濱松) 濱名湖の東三里(遠江)にあり
東海道鐵道及び信濃、駿河三街道の要衝に當
り、市街繁盛なり。曾て徳川家康の居城たり
し地にして、城址は町北にありて、市街を瞰
す。

はんかくてつたりせん(阪鶴鐵道線) 本鐵道線
は攝津の神崎に起り、丹波の福知山を経て丹
後の舞鶴に達する計劃にして、私設線は福知
山まで七十一哩二十三鎖敷設せられたり、こ
の間に前後二十五の停車場を有せり。福知山
より丹後の新舞鶴まで、官設の鐵道敷設せら
れたり。現今同會社の借用中なれば、阪鶴線
は神崎より舞鶴まで開通したるものなり。
はんた(半田) 尾張知多半島の東岸にあり。酒
醬油、酢の製造盛んなり。
ぼんたいざん(磐梯山) 一名會津富士と稱す。
猪苗代湖の北(岩代)に聳てて海拔五、六三〇

尺。明治二十一年七月俄然爆發し、泥土砂石
を降らし、被害六里四方に及び、家屋田圃を
埋没し、人畜の死傷夥しく、實に慘狀を極め
たり。

はんたう(半島) 陸地が一部を除くの外、海水
に圍繞せられたるを半島といふ。

はんたざんざん(半田銀山) 福島の北三里磐城
の境にあり。銀の産出夥しきを以て知らる。
地質は第三期層、花崗岩、石英粗面岩より成
る。脈脈は一條なれども、下部は分れて三條
を成せり。

ぼんたんでつたりせん(播但鐵道線) 本鐵道は
山陽鐵道に合併せり。播磨の飾磨より目下但
馬の和田山に至れり。

はんたやじ(般若寺) 奈良市にあり。護良親王
の難を、大般若經の唐櫃に避け給ひし所なり。
はやすひせき(速吸瀬戸) 伊豫の佐田岬と、豊
後の佐賀關との間に於て、潮流急なるを以て

速吸の瀬戸と名づけらる。

はやちね(早池峯) 北上山脈中の最高峯にして
陸中の東方に聳ゆ。海拔六、六〇〇尺あり。
はやとものせと(早柄の瀬戸) 下關海峽の東に
當り。潮流疾きこと矢の如し。

ぼらるしり(幌筵) 千島列島中の北部にありて
占守島の南に横れり。

はりま(播磨) 山陽道の一州にして攝津の西に
連り、兵庫縣に屬し、南方一帯海を控へ、南
は備前、美作に、北は因幡、但馬に接す。

はりまなだ(播磨灘) 播磨の南方一帯の海上に
して、瀬戸内海の一部に屬す。

はりまのしせん(播磨の四川) 國の東方にあり
て、最も大なるものを加古川といひ、その西
にありて姫路を過ぐるものを市川といひ、そ
の西方に揖保川、千種川あり。

はるなやま(榛名山) 上野高崎の北西にあり。
海拔二、八〇〇尺あり。山上に火口湖あり、

はやちね——ひうがなだ

榛名山といふ。湖邊風色佳なり。嚴冬の候製
氷場に供せらる。山下に榛名神社あり。祠前
に奇巖多し。

ひ

ひいがは(斐伊川) 出雲第一の大川にして、一
に出雲大川といふ。船通山に發源し、三刀屋
川、赤川等を合せて下流數派に分れ、矢道湖
に注ぐ。水源地なる船通山は、所謂箴の川上
にして、素盞鳴尊が叢雲寶劍を得給ひし地な
り。

ひらが(日向) 宮崎縣の管域にして、九州の東
部を占め日向灘に面し、西南大隅薩摩に接し
西は肥後、北は豊後に界す。

ひうがなだ(日向灘) 日向の東方海上一帶の沖
を云ふ。出入少く良港乏し。

ひらがのしせん(日向の四川)大淀川、一の瀬川、美々津川、五箇瀬川にして、共に源を西方の山間に發し、東流して日向灘に注ぐ。

ひうちたけ(燧岳)岩代の南境に聳じ、海拔七、六〇〇尺。帝釋山脈中の高峯なり。

ひうちたけ(燧灘)一に備後灘と稱す。備後の南方の海上にして、讃岐の箱崎と、伊豫の梶取崎と東西相對してこれを擁す。

ひびいさん(比叡山)山城の東境に聳ゆる峻嶺にして近江に跨がる。海拔二、七八九尺。一に都富士の稱ありて、古來歴史上の事蹟甚だ多き所なり。

ひがしねほかは(東大川)一に吉井川といふ。源を美作の山中に發し、數多の支流を合せ備前に入り兒島灣に注ぐ。上流を津山川と稱す。ひがしやま(東山)比叡山の支脈にして、京都市の東に横はり、祇園、清水、智恩院、黒谷眞如堂、銀閣寺等の神社佛閣その中に在り。

ひがしやまをんせん(東山温泉)福島縣若松市の東方にあり。北會津郡東山村宇湯本に屬せり。泉質塩類泉にして、無色澄明殆んど臭氣なし。

ひかはこうゑん(氷川公園)埼玉縣大宮にありて幽邃なる公園なり。

ひかはじんじや(氷川神社)埼玉縣大宮なる氷川公園内に祀れる有名なる神社なり。

ひくた(引田)讃岐の東海岸にありて、醬油、砂糖の産出あり。

ひこ(肥後)九州の中部に位し、四方筑紫海、八代灣に臨み、南方薩摩、日向に界し、東及び北は日向、豊後、筑後に界す。熊本縣の管地なり。

ひこさん(英彦山)豊前と筑前との國境に屹立し、海拔三千三百六十尺あり。頂上に天忍穗耳尊を祀れり。休火山に屬せるを以て山中奇勝多し。

ひこしま(彦島)下關海峡に横れる小嶋にして長門國豐浦郡に屬す。下關より二町西南にあり。周圍六里餘あり。島中一村を成す。

ひこね(彦根)琵琶湖の東岸に位し、井伊氏の舊城地たり。市街繁盛にして、その彦根公園は城址にありて、湖上の風光一眸にあり。

ひごへいや(肥後平野)熊本縣肥後國西北部にある平野にして、菊池川、白川、緑川等の流域なり。肥後米を産し、又、粟、麥等の産に富む。熊本市はこの平野の中央に發達せし都會なり。

ひさいてつちらせん(尾西鐵道線)本鐵道線は愛知縣尾張國海西郡彌富村を起點として、畧北に走り、中島郡一宮町にある新一宮驛を終點とするものなり。線路延長十六哩、この間に六驛を置く。彌富驛は關西鐵道に連絡し、新一宮驛は東海道線に接續するなり。

ひしやもんたけ(昆沙門岳)岐阜縣美濃國郡上

ひこしま—ひたか

郡の西北に位し、越前大野郡に跨る。直立四千六百尺あり。

ひじゆつがつから(美術學校)東京市下谷區上野にある官立學校なり。美術家を養成する所なり。

ひぜん(肥前)九州の西北部より西南に半島をなして突出し、筑前、筑後に連り、佐賀縣と長崎縣とに分屬す。

ひぜん(備前)山陽道の一國にして、瀬戸内海に濱し、西方備中に、北方美作に、東方播磨に界す。

ひぜんはんたう(肥前半島)肥前の西南部海中に突出せる部分にして、南端更に分れて島原半島、彼杵半島等をなす。

ひた(飛騨)東山道の一州にして信濃、美濃、越前、加賀、越中の諸國に界す。岐阜縣の管域なり。

ひたか(日高)十州島中の一州にして、南西は

太平洋に面し、西北東の三面は膽振、石狩、十勝に圍まる。

ひだかさんみやく (日高山脈) 十州島の中央より襟裳崎に走る山脈にして、樺太山系に屬すこの山脈と東北山脈と合して、蝦夷山脈と稱せり。脈中に神威山、芽室山等の高峯あり。

ひだかは (飛驒川) 一名益田川といふ。美濃國に在り。源を飛驒の益田郡の東北隅、乗鞍岳の大池に發し、小坂川を合せ本川の名を得、南流して馬瀬川、加子母川を合し、終に木曾川に會す、長さ九里。

ひださんみやく (飛驒山脈) 飛驒、信濃兩國の境を南北に走る山脈にして、その脈中に本邦屈指の高山少からず。著名なる山岳は御岳 (一〇、五一一) 乗鞍岳 (一〇、四四八) 霧岳 (九、三七〇) 鎗ヶ岳 (一〇、一九七) 大蓮華山 (九、六八二) 立山 (九、六八七) 等なり。

ひたち (常陸) 東海道の一州にして、茨城縣の

管轄に屬し、東方一帯太平洋に面し、南及び西の一部は下總、武藏に、北方磐城に界し、西の一部下野に接す。

ひぢかは (荒川) 一に比志川、又、比地川に作る。伊豫國喜多郡にあり。源を麥切坂に發し西流して下相川と云ひ、魚成川、野井川、船戸川、野村川、狩野川等の支流を合し大洲、長濱を過ぎて海に入る、長さ十里あり。

ひつちう (備中) 山陽道の一國にして瀬戸内海に濱し、西は備後に、北は伯耆に、東は美作備前に界し、岡山縣に屬す。

ひとよし (人吉) 熊本縣の南部にありて、鹿兒島、宮崎兩縣に通ずる要路に當り、もと相良氏の城下にして、附近に焼酎を産す。所謂球磨焼酎これなり。

ひなん (卑南) 臺灣島臺東廳下の一港、水深十三仞、東西十五町、南北十町、東南向す。卑南蕃は、臺東廳の直轄にして八蕃社の一、

十六小社あり。

ひなんけい (卑南溪) 臺灣島の太平洋斜面にある河にして、臺東廳下の南部を流れ、卑南を過ぎて海に注ぐ。

ひのがは (日野川) 福井縣越前國に在り。源を三國嶽に發し、西北に流れて足羽川と相會して安居川となり、又、北流して九頭龍川を合す。流程二十五里。鳥取縣伯耆國日野郡の西南隅に發し、小原川、石見川、根雨川等を入れ、日本海の美保灣に注ぐ。鳥取縣第一の長流にして長十七里あり。滋賀縣近江國蒲生郡に發源し琵琶湖に入る。

ひのかは (鵜の川) 一に斐伊川といふ。斐伊川の部を見よ。

ひはこ (琵琶湖) 一に嶋の海、志賀の海、又、淡海といふ。形琵琶に似たるを以て、琵琶湖といふ。東西五里、南北十六里、周囲六十里面積八十方里。我國第一の大湖にして、四周

ひなんけいーひびら

の諸川、皆、これに注ぎ、瀬多川となりて、これを流出す。湖中に奥の島、沖の島、竹生島、多景嶋等散在し、風光極めて佳なり。湖上には汽船の往來ありて、沿岸各地と交通運輸の便を開き、又、漁業の利ありて、鯉、鮒を産す。

ひはこるする (琵琶湖疏水) 湖邊三井寺の下より京都市鴨川の東に至る。この間六千七百七間交通運輸の便を開き、且、水力を利用して電氣を興し、以て機械運轉の用に供せんがために明治十八年六月工を起し、同二十三年四月竣工せり。その間實に四年八月、百十九萬圓を費し、人夫四萬人を要せしといふ。

ひびきなだ (響灘) 馬關の西方に當れる一帯の海上にして、日本海の一部なり。

ひびやこるるん (日比谷公園) 東京市の中央にある公園なり。

ひびら (日平) 日向五箇瀬川中流の北にあり。

銅の産出多し。この地附近地勢險峻にして耕耘に適せず、人跡稀なりしが、今より二百三十年前、銅山の発見ありしより、人口頓に増加せり。

ひぶりじま(日振島)伊豫の西方海上にあり。藤原純友の據りて叛きし所なり。

ひみ(氷見)越中富山灣内にありて、良好なる碇泊場なり。

ひめかは(姫川)越後の西部を流る、川なり。

ひめがみやま(姫神山)北上山中の一峯にして一名玉頭山と云ふ。陸中の殿手郡の中央稍々東に位せり。直立三千五百八十五尺。

ひめぢし(姫路市)播磨にありて山陽線、播但線の交叉點に當り、人口約三萬三千。市街は市川に臨み、頗る繁華にして革細工の名産あり。第十師團司令部の所在地とす。

ひんて(備後)山陽道中部に位せる一國にして南方瀬戸内海に面し、西方安藝、石見に、北

方出雲、伯耆に、東方備中に界す。

ひやうとけん(兵庫縣)攝津の大部、丹波の一小部、播磨、但馬、淡路を管し、縣廳は神戸市にあり。

ひやうとけんのかいがん(兵庫縣の海岸)北は日本海に濱するも著しき風曲なし。南は内海に濱し中央に明石海峡あり。その東は須磨浦にして舞子須磨は風景頗る佳なり。神戸は大阪灣の西北に位し、港内兩灣をなす。東灣は神戸港にして、西灣は兵庫港なり。神戸以東の海濱一帯を灘地方と云ふ。播磨の南は播磨灘に濱し、鹽の産地なり。

ひやうとけんのかうつう(兵庫縣の交通)鐵道の項參照。中國街道は大阪より來り、海岸に畧、並行して神戸、姫路等を経て岡山縣に入る。丹波路は大阪より起りて、神崎、伊丹、三田等を経て丹波古市に至る。播磨の姫路を起點として、生野地方に至る但馬路あり。美

作の土井に至る美作路あり。丹波に入る道路二條あり。

神戸港よりは内外諸國へ汽船の往來あり。

ひやうとけんのかりう(兵庫縣の河流)中央を分水界とし南北に流る。その南流するものは武庫川、加古川、揖保川にして、北流するものは朝來川なり。

ひやうとけんのさやうかい(兵庫縣の境界)東は京都府、大阪府に、西は鳥取、岡山二縣に接し、北は日本海、南は瀬戸内海及び大阪灣に臨む。

ひやうとけんのさんかく(兵庫縣の山岳)神戸市の東北には六甲山、摩耶山等あれども、山勢高峻ならず、鴨越はその脈中にある。史上有名なり。播磨には笠形山、雪彦山、五峯山法華山、書寫山等あり。備前の境には舟坂山あり。但馬には生野銀山、神銅山、來日山、山王山等あり。

ひやうとけんのさんげふ(兵庫縣の産業)神戸市の東方西の宮附近は、所謂灘地方にして、清酒の醸造盛んに、伊丹地方と共に年額五十

六萬石に達し全國中第一位を占む。瀬戸内海沿岸の地方は、製鹽盛んにしてその赤穂の鹽は殊に有名なり。但馬地方は牧牛盛んにして豊岡附近よりは柳行李を産し、龍野は醬油を以て名高く、又、神戸の燐寸は年産額大凡六百萬圓に近し。その他生野よりは金、銀を産す。

ひやうとけんのさんみやく(兵庫縣の山脈)本縣の山脈は管内の、畧、中央部を西より東に走る中國山脈あり。中國山脈の北には白山帯火山脈の東西に走るあり。

ひやうとけんのちせい(兵庫縣の地勢)本縣の中央は、中國山脈の連亘するありて土地高く北部は山岳重り、南部地方は低平なり。隨ひて河流は中央を分水界となして南北に流る。

ひやうとけんのつたう (兵庫縣の鐵道)

山陽鐵道は神戸を起点として西に走り、岡山縣に入り、別線は姫路より但馬の和田山に達し、又、姫路より飾磨に至る線あり。(舊播但鐵道)。

東海道鐵道は大阪府より本縣に來り、神戸市を終點とす。

阪鶴鐵道は東海道線神崎驛より起り、本縣に來り神崎、伊丹、寶塚、三田、柏原等を経て京都府下丹波の福知山へ向へり。

ひやうとけんのといふ (兵庫縣の郡邑)

神戸市は兵庫縣廳の所在地にして神戸、兵庫の二部より成り、人口二十八萬。大阪灣の咽喉に當り、東西交通の要衝を占め、且、港は水深く波穩なるが故に、その繁盛横濱に次ぎ開港場中の第二位を占む。西宮は神戸の東に方り、人口一萬四千。清酒の醸造盛んなり。姫路は

山陽、播但兩鐵道線の會合する所にして、市街繁盛に、第十師團司令部あり。明石は人口二萬餘。その海濱は風光明媚にして、遊覽の客多し。赤穂は姫路を去ること九里、製塩を以て名高く、人口八千餘あり。有名なる四十七士の出でし地なり。但馬の生野は中國山脈中にありて、人口一萬八千餘。古來金銀の産出を以て有名なり。豐岡は朝來川に臨み、柳行李の産出を以て有名なり。洲本は淡路の東岸にあり、島中第一繁華の地なり。

ひやうとけんのへいや (兵庫縣の平野)

加古川の流域一帯の地は、土地肥沃にして良米を産す、所謂播磨平野これなり。その他武庫川、朝來川の流域にも、亦、平野あり。

ひやうとけんのあち (兵庫縣の位置)

京都府及び大阪府の西に連りて、南に、大阪灣及び瀬戸内海を控へ、北は日本海に臨み、西は鳥取岡山の二縣に接す。

ひやうところ (兵庫港)

神戸港の西に連り、和田岬その西に突出して、これを擁し、水深く波穩かなる良港なり。

ひやうとらいつん (平等院)

山城宇治町の北方にあり。源三位賴政の最後を遂げし古刹なり。

ひやうとらいつん (屏風山)

筑後高良山の東に亘る一帯の連峯にして、正平の昔、菊池武光が征西將軍懷良親王を奉じて、筑後全國を平定せし所なり。

ひよしじんじや (日吉神社)

福岡縣久留米市に在る郷社。大山咋命を祀る。

ひよどりこね (鶴越)

攝津武庫山脈中の一峯にして、一の谷の戦に源義經の逆落しにせし所なり。

ひらいら (平磯)

常陸の那珂郡の町なり。人口六千八百。漁業盛なり。西方高原眺望甚だ佳なり。

ひやうところーひれふりやま

水戸烈公建碑せり。

ひらいづみ (平泉) 陸中國にあり。藤原秀衡父子三世の治府たりし所にして、有名なる中尊寺あり。

ひらかたところ (平瀧港)

常陸の北部磐城の境にあり。人口二千四百。灣は東西二町半、南北三町半、水深一仟二尺。

ひらど (平戸)

肥前平戸島中の一都會にして、人口一萬二千。始めて和蘭人と互市を開きし所にして、松平氏の舊城下たり。近海は漁獵盛なり。

ひらとじま (平戸島)

肥前の海上にあり。平戸の瀬戸を隔て、北松浦半島に對す。その間僅かに六町餘、島の大き周圍四十三里餘。

ひるがとじま (蛭ヶ小島)

伊豆韭山の近傍にありて、源賴朝の流されし所なり。

ひれふりやま (領布振山)

一名鏡山。肥前國東松浦郡の中央、北部松浦灣の南岸に位す。こ

ひろさきは——ひろしまけんのおんがく

三四

の山はもと七面山と云ひしが、神功皇后征韓のとき、寶鏡を天に捧げ戦勝を祈らせ、その鏡をこの山に安置し給ひし所なりと云ふ。
ひろさきは(弘前川)一に岩木川といふ。源を陸奥の南境より發し、諸水を併せて北流し十三瀉に注ぐ。流程三十九里餘。

ひろさきし(弘前市)岩木川に臨み、人口三萬二千餘。青森縣下第一の都會なり。第八師團司令部ありて、織物、津輕塗、木通細工等を産出す。

ひろしまけん(廣島縣)備後、安藝の二國を管し、縣廳は廣島市にあり。

ひろしまけんのかいがん(廣島縣の海岸)沿岸風曲多く、宇品、吳、尾の道の良港あり。近海は即ち安藝灘にして、江田島、倉橋島、嚴島等の島嶼多し。

ひろしまけんのかちつち(廣島縣の交通)山陽鐵道は岡山縣より本縣に來り、福山、尾の道

廣島等を経て西に走り山口縣に入る。支線は海田市より吳に至るものと、廣島より宇品に至るものとあり。宇品、尾の道、鞆、糸崎の諸港は各地に汽船の往來あり。中國街道は岡山縣備中の南岸より本縣に入り、畷、山陽鐵道と並行して西に走り山口縣に入る。石見路は廣嶋を起點として北に走り、石見の市木に至る。出雲路は福山より出雲の阿井に至る。
ひろしまけんのおんがく(廣島縣の境界)北は嶋根縣と鳥取縣の一部とに接し、東は岡山縣、西は山口縣に連り、南は瀬戸内海に臨む。
ひろしまけんのおんがく(廣島縣の山岳)本縣には北境を西より東に走る中國山脈あり。三國山は伯耆、出雲、備後の境と、伯耆、石見備後の境の二ヶ所にあり。美古登山、御神山は備後に在り、鷹巢山、刈屋山、白木山、武田山、大峯等は安藝に在り、その他、安藝には吳市の東北に灰ヶ峯、野呂山あり。嚴嶋に

は彌山高く聳たり。

ひろしまけんのおんがく(廣島縣の産業)沿岸は製鹽盛んにして、その産額七十二萬石に及び、又、備後地方は壘表、花筵の製作甚だ盛にして、その中心は尾の道、福山なりとす。

ひろしまけんのおんがく(廣島縣の地勢)中國山系の主脈、縣内の東西に連亘して地勢を二部に分てり、その北部は、江川の流域にして、南部は瀬戸内海に面する地方なり。域内山岳多くして、平地は極めて少し。

ひろしまけんのおんがく(廣島縣の都會)廣嶋市は人口約十二萬。太田川に臨み中國第一の都會にして廣嶋縣廳あり。第五師團司令部あり。控訴院あり。又、明治二十七八年戦役の時大本營を移されたる地なり。往古は五ヶ庄と稱し、一寒村に過ぎざりしに、毛利氏居城を相せし以來、頓に繁榮を來して今日の盛況をなせり。

ひろしまけんのおんがく——ひろしまわん

三五

宇品は廣嶋の南にありて廣嶋灣に臨む、宇品嶋西方に横はり、水深くして山陽風指の要津なり。吳は人口二萬一千。第二鎮守府の設置以來頓に繁華の地となりて、市制を布くに至れり。港の前面に鳥小島あり。西と南に江田嶋と倉橋嶋とを控へたり。嚴嶋町は嚴嶋にありて嚴嶋神社あり。社殿壯麗なるは人の知る所。尾の道は、海陸運の便に富みて、商業盛なり。糸崎は良港にして、近時開港場となりし以來、日々繁盛に赴きつゝあり。

ひろしまけんのおんがく(廣島縣の位地)岡山縣の西、山口縣の東に連り、瀬戸内海を南にし、北方嶋根縣と鳥取縣とに接す。

ひろしまし(廣嶋市)廣嶋縣廳の所在地にして太田川に臨み、人口十二萬。中國第一繁盛の地なり。

ひろしまわん(廣嶋灣)安藝の南方一帯の海上にして嚴嶋、江田嶋その口を扼し、灣内に吳

ふ

ふ(府) 府は縣と共に行政區劃にして、府知事ありてこれを管治す。東京府、京都府、大阪府これなり。

ふらぬこ(楓連湖) 根室の海岸にありて周圍十五里。北海道第二の大湖なり。

ふたふたか(笛吹川) 甲斐の西北境の山間より發源し、西南流して國の中央に於て、釜無川と相會し、富士川となりて駿河に入る。

ふさかく(富貴角) 壺灣嶋の最北端に在りて、岬嶺燈臺の設置あり。

ふさやどろくわ(吹屋銅鐵) 岡山縣高梁の北西にあり。備中國川上郡に屬する吹屋町の附近にして、銅産地なり。

ふくね(福江) 五嶋列嶋中の漁港にして、近海は鯨、鰯の漁獲を以て名高し。

ふくしま(福島) 福島縣廳の所在地にして、阿武隈川の南岸に位し、人口二萬餘。土地高燥にして、交通の要地に當れり。

ふくしまけん(福島縣) 岩代全部及び磐城の大部分を管し、面積廣大なれども人口稀少なり。縣廳は福島に在り。

ふくしまけんのかつわ(福島縣の交通) 鐵道の項參照。濱街道は茨城縣より本縣に來り、北に走りて宮城縣に入る。奥羽街道は栃木縣より來り、北に走り宮城縣に入る。白石より分岐して山形縣に入るものを羽前路とす。越後津川路は白川より、長沼若松を経て越後の津川に至る。上野路は若松を起点として西南に走り、上野の戸倉に至るものなり。

ふくしまけんのかこ(福島縣の河川) 猪苗代湖は磐梯山の南にありて東西五里、南北三里半

周圍十六里餘。湖中に翁嶋あり。近年湖上に汽船の往復をなして運輸交通の便に供せり。

湖水は流れて日橋川となり、鶴沼川、只見川と相會し、越後に入りて阿賀の川となり、阿武隈川は旭岳及び甲子山より發し、白河を過ぎ北流して須川、松川、摺上川、度瀬川を合せ陸中に入り海に注ぐ。

ふくしまけんのかつわ(福島縣の境界) 南は栃木、茨城兩縣に連り、西は新潟縣に、北は山形、宮城二縣に接し、東は太平洋に臨む。

ふくしまけんのかこ(福島縣の山岳) 本縣の東部には阿武隈山脈南北に走れり、脈中に靈山、五十人山、矢大臣山、關伽井岳等の高峯あり。中央には分水山脈、那須帶火山脈の南北に貫くあり。藏王山、吾妻山、磐梯山、安達太郎山、會津布引山等屹立せり。西部に出羽脈走り、飯豊山、朝日岳、駒岳等あり。

ふくしまけんのかせ(福島縣の地勢) 縣内山

ふくしまけんのかつわ(福島縣の地勢) 縣内山

福りて繁華昔日の如くならず、會津塗、會津焼は有名なる産物なり。白河は奥州街道の要地にして、人口一萬四千。商業盛なり。戊辰の役に激戦ありし所なり。郡山は陸羽街道の一驛にして生糸を産し、商業、亦、盛なり。岩越鐵道線はこの地に於て、日本鐵道線に會合し、益、形勝の地を占め福島を壓するの勢あり。平は海岸地方の都會にして、常磐鐵道線に當り石炭の産出多し。葭、磐城平と稱せし所なり。その他三春は馬の名産地にして、中村は相馬焼を出す。

ふくしまけんのおうさん (福島縣の農産) 阿武隈川の流域地たる福島、郡山の平野及び會津の盆地は地味肥沃にして、米の産額多く、養蠶、牧畜、亦、盛にして、繭の産額二十万石蠶糸十六萬貫に及び、長野、群馬二縣に亞げり。牧畜は現時種馬を改良して、良種を出すに至れり、總數九萬頭に上れりといふ。

ふくしまけんのおつさん (福島縣の物産) 米穀、繭、生糸の産出奥羽に冠たり。馬も、亦、有名なり。その他會津塗、相馬焼等あり。ふくしまけんのおいや (福島縣の平野) 阿武隈川の流域に福島、郡山の平野あり。猪苗代湖の周圍に會津の盆地あり。又、東海岸に平地ありて常陸の海濱に及ぶ。

ふくしまけんのおち (福島縣の位置) 奥羽地方の最南部に位し、北方山形、宮城の二縣に接し、東は太平洋に面し、南は茨城、栃木の両縣に、西は新潟縣に界す。

ふくしんはふるん (覆審法院) 壺海の司法裁判所にして、地方法院の上級に位す。

ふくちやま (福知山) 丹波に在り。由良川に沿ひ、陸路鐵道の通過ありて交通至便、稍、繁華の都邑にして人口凡そ八千あり。

ふくやま (福山) 波島半島の西兩岸にありて、もと松前と稱し、松前氏の城地たりし所なり

人口一萬七千餘。その繁盛昔時に及ばずといふ。

ふくやま (福山) 備後の都邑にして、山陽鐵道線路に當り、綿を以て有名なり。

ふくやま (福山港) 北海道渡島にある港なり。もと松前と稱す。人口六千七百。港は東西十四町、南北十町、水深七仞。冬季海風暴く碇泊に便ならず、前面に辨天嶋あり。附近は鯨の好漁場なり。

ふくら (福良) 淡路島の西南海岸にありて、四國に渡る要津なり。

ふくわい (府會) 府の財政その他重要な事務を審議決定する所にして、人民より選舉せられたる議員を以て組織す。

ふくろけん (福井縣) 越前若狹の二國を管し、縣廳は福井市にあり。

ふくろけんのかちつち (福井縣の交通) 北陸線鐵道は滋賀縣より本縣に入り、敦賀、武生を

ふくやま——ふくろけんのおうさん

經、畧、北國街道に沿ひて福井に來り、東北走して石川縣に入る。敦賀は開港場の一にして船舶常に輻輳し、北海道と大阪との間に立ちて商品を媒介す。若狹には小波を起點として丹波、丹波、近江、越前等に至る街道あり。

ふくろけんのかいがん (福井縣の海岸) 若狹及びその近傍は海岸の風山出入多く、敦賀灣を始め小波、高濱等の良港少からず、北方に至らば出入極めて少し。

ふくろけんのかりう (福井縣の河流) 九頭龍川足羽川共に南境より發源し、北流して相會し日野川となり、日本海に注ぐ。

ふくろけんのおさやちかい (福井縣の境界) 東北石川縣に、東及び南は長野縣、滋賀縣、京都府に接し、西北は日本海に面せり。

ふくろけんのおんがく (福井縣の山岳) 本縣には岐阜縣の境に大日岳、毘沙門岳、屏風岳、權現山、三國岳等あり。滋賀縣との境には板

ふくまけんのちせい——ふくまけん

取峠、三國山、三十三間山等あり。日野川の上流地方には日野岳屹立せり。

ふくまけんのちせい(福井縣の地勢) 東南部は飛濃高原に接せるを以て土地高く、山岳多く九頭龍川の流域は、平野をなせども、その他は海岸の僅少部に低地あるのみ。

ふくまけんのでつぢり(福井縣の鐵道) 本縣の鐵道は官設北陸線にして、近江米原驛より東海道線に分岐して北に走り、本縣に來り、敦賀、武生、福井、丸岡等を経て、畷、東北に走り石川縣に入る。

ふくまけんのとくわい(福井縣の都會) 福井市は人口約四萬二千。福井縣廳の所在地にして商工業、共に盛なり。羽二重、紬及び奉書の産出有名なり。もと北の莊と稱したりしが、家康の子、秀康の地に封せられて福井と改めたり。敦賀は敦賀灣頭に在りて、山岳三面を圍み港内水深く、波濤にして將來有望なる

部を管し、縣廳は福岡に在り。

ふくまけんのかいがん(福岡縣の海岸) 瀬戸内海に面する沿岸は良港に乏しく、門司港以西頗る出入多く、海岸奇態を呈せる洞海あり若松港その口に在り。西南海岸には糸嶋半嶋突出して博多灣を擁せり。

ふくまけんのかいざん(福岡縣の海産) 沿岸は海産物に富み、鯛、鱈、烏賊等の産額多く一ヶ年百三十萬圓に上れり。又、近來韓國沿岸に遠洋漁業を試むるもの多し。

ふくまけんのかちつり(福岡縣の交通) 鐵道線は鐵道の項を見よ。九州街道は門司より起りて小倉、黒崎、山家、久留米等を経て熊本縣に入る。

長崎路は福岡市を起點として佐賀縣に入る。唐津路は若松より起りて、福岡前原を経て唐津に至る。

豊後路は小倉を起點として中津を経て、豊後

ふくまけんのかいがん——ふくまけんのかちつり

貿易港なり。小濱は若狹第一の都會にして、若狹塗の産を以て名高し。

ふくまけんのおつぎん(福井縣の物産) 絹布、絹糸、奉書、鳥の子は本縣の名産なり。就中絹布の産額一ヶ年に千四百八十萬圓に達し、その大部は羽二重なりとす。

ふくまけんのへいや(福井縣の平野) 縣内山岳多くして、平野極めて少し、只、九頭龍川の流域は、稍、廣き平野をなし越前米の産地たり。

ふくまけんのあち(福井縣の位置) 石川縣の西南に隣り、東及び南は長野縣、滋賀縣、京都府に連り、西北は日本海に面す。

ふくまけん(福井市) 福井縣廳の所在地にして人口約四萬二千。繁盛金澤に次ぐの大都なり。商工業共に盛にして、殊に羽二重の産出を以て有名なり。

ふくまけん(福岡縣) 筑前筑後及び豊前の大

立石に至る。

博多港は開港場にして、各地と汽船の往來あり。

ふくまけんのかりち(福岡縣の河流) 遠賀川源を英彦山及び古處山に發し、北流して響灘に注ぐ。直方の上なる桑野まで舟掛を通すべく石炭の運輸に少からぬ利便を興ふ、筑後川一に千歳川といふ。源を豊後の小國山に發し、諸水を集めて筑後川となり海に注ぐ。流域大ならざれども灌溉の利多く、下流二十五里の間舟掛を通すべし、その他矢部川筑後の東境山間の水を集めて西流するあり。

ふくまけんのかちつり(福岡縣の境界) 西北支海灘、響灘に面し、東北は大分縣及び瀬戸内に面し、西南は佐賀縣、有明海、熊本縣に連る。

ふくまけんのかちつり(福岡縣の礦産) 遠賀川上流一帯は筑豊炭山と稱し、石炭の産出

ふくをかげんのさんかく——ふくをかげんのちせい

夥しく、全國産額の六割を占む。遠賀、鞍手、嘉穂、田川四郡の地はその主要産地にして、百四十餘坑に及び、就中、鞍手の新入、嘉穂の鮫田、田川の赤地最も有名なり。その他三池炭山の産出、亦、少からず。

ふくをかげんのさんかく(福岡縣の山岳)本縣の山岳は大分縣の境に英彦山あり。北部に福智山あり。脊振山、天拜山は西南にあり。雷山は佐賀縣の境に聳じ、南部に釋迦岳あり。

ふくをかげんのさんびふ(福岡縣の産業)筑豊炭田(遠賀川上流の地)、三池炭山(三池郡及び熊本縣玉名郡に跨る)よりは石炭の産出多し。筑後川の流域なる筑紫平野は、我國有名なる農産地にして米、榎、藍、茶能く産し、八女、山門、三洲の地は清酒の醸造盛なり。又、沿岸地方は海産物に富み、鯛、鱈、烏賊の産額多し。近來韓國沿岸に漁業を營むもの多し。

ふくをかげんのさんみやく(福岡縣の山脈)本縣の山脈は、崑崙山系に屬する筑紫山脈西南より東北に走り、一旦馬關海峽に陥落して、中國山脈に續くものなり。

ふくをかげんのせきたん(福岡縣の石炭)筑豊炭山は遠賀上流一帯の地にして、遠賀、鞍手、嘉穂、田川四郡の地は主要なる産地なり。一ヶ年總額二十五六億斤に達し、全國産額の五分の三を占む。就中、鞍手の新入、嘉穂の鮫田、田川の赤地等尤も有名なり。又、三池炭山は三池郡及び熊本縣玉名郡に跨り、産額十三億斤に及び。

ふくをかげんのちせい(福岡縣の地勢)本縣の地勢は自ら四區に分ち、即ちその一は玄海灘斜面區域にして、東は三郡山脈より、南は背振山脈に至り、福岡市を中心として地勢西に向ひて傾斜せり。二は遠賀川の流域にして、東は福智山脈、西は三郡山脈を以て限る。三

は周防灘斜面區域にして、西福智山脈より南英彦山脈に至る一帯の周防灘に向へる地方なり。他の一は筑後川、矢部川の流域にして、北三郡山脈より、東英彦山脈を限りとし、中に水繩山脈連れり。

ふくをかげんのでつたう(福岡縣の鐵道)九州鐵道は門司を起點として小倉、折尾、鳥栖、久留米を経て熊本縣に入る幹線あり。別線は小倉より行橋を経て、豊前の宇佐に至るものと、行橋より川崎に至るものと、これに屬する香春夏吉間、後藤寺宮床間の二支線あり。その他筑前若松に起り、折尾にて幹線と交叉し、直方、小竹、飯塚を経て大隈に至る別線と、これに屬する直方伊田間、小竹幸袋間、飯塚長尾間の三支線あり。

ふくをかげんのとくわい(福岡縣の都會)門司市は北州の最北端に位し、關門海峽を隔て、下關に對し人口四萬餘。開港場の一にして、

ふくをかげんのでつたう——ふくをかげんのうさん

市街繁盛に、石炭、米、花菱等を輸出し、綿、諸器械等を輸入す。この地は南に石炭の産地を控へて、海陸交通の要衝を占むるが故に繁榮日に加はりて、貿易の勢、長崎を凌駕せんとせり。小倉市は人口二萬五千余。第十二師團司令部の所在地なり。若松は人口一萬六千。筑豊石炭の輸出多く繁盛なる港なり。福岡市は海岸にありて、那珂川市内を貫流す東を博多といひ西を福岡と稱す。人口七萬。福岡縣廳、醫科大學等ありて開港場の一たり博多織はこの市の名産なり。久留米は人口三萬二千。筑後川に臨み、久留米緋の産出に名あり。太宰府は往古九州二嶋を管し、外交を司りし所にして、太宰神社ありて菅原道真を祀る。

ふくをかげんのうさん(福岡縣の農産)筑紫平野は土地肥沃にして農産物多く、米、榎、藍、茶は主要なる産物なり。

ふくをかけんのへいやーふけんくわんかつ

ふくをかけんのへいや (福岡縣の平野) 北部に福岡附近一帯の平野あり。その東に遠賀川流域の平野あり。南部に筑後川、矢部川の流域地なる平野あり。

ふくをかけんのち (福岡縣の位地) 九州島の北部に位し、西北に玄海灘、響灘を控へ、東北は大分縣及び瀬戸内海を隔て、四國、中國に對し、西南は佐賀縣、有明海、熊本縣に連る。

ふくをかかし (福岡市) 福岡灣に臨み、那珂河市中を貫流す、川東を博多といひ、川西を福岡といふ。福岡縣廳の所在地にして開港場の一たり。又、醫科大學の設置ありて、有名なる博多織を産す。

ふけんくわんかつ (府縣管轄) 北海道、樺太及び臺灣を除きて、三府四十三縣に分ち、各部に府縣廳を置けり。又、北海道には道廳を置き臺灣には總督府を設け、樺太には民政署あり

今、府縣管轄の大畧を掲げん。

府縣名	市區名	管轄
東京府	東京	武藏の内八郡、伊豆の内大島外七島
京都府	京都	山城八郡、丹波の内五郡、丹後五郡
大阪府	大阪、堺	攝津の内四郡、河内三郡、和泉二郡
神奈川縣	横濱	武藏の内三郡、相模八郡
兵庫縣	神戸、姫路	攝津の内三郡、播磨十三郡、但馬五郡、丹波の内二郡、淡路二郡
長崎縣	長崎	肥前の内六郡、壹岐一郡、對馬二郡
新潟縣	新潟、長岡	越後十五郡、佐渡一郡
埼玉縣		武藏の内五郡
千葉縣		安房一郡、上總五郡、下總の内六郡

茨城縣	水戸	常陸十一郡、下總の内三郡
群馬縣	前橋、高崎	上野十一郡
栃木縣	宇都宮	下野八郡
奈良縣	奈良	大和十郡
三重縣	津、四日市、宇治山田	伊賀二郡、伊勢九郡、志摩一郡、紀伊の内二郡
愛知縣	名古屋、豊橋	尾張十四郡、三河五郡
静岡縣	静岡	伊豆の内二郡、駿河五郡、遠江六郡
山梨縣	甲府	甲斐九郡
滋賀縣	大津	近江十二郡
岐阜縣	岐阜	美濃十五郡、飛騨三郡
長野縣	長野	信濃十六郡
宮城縣	仙臺	陸前の内十三郡、磐城の内三郡

ふけんくわんかつ

広島縣	尾道、廣島、吳	備後九郡、安藝七郡
山口縣	下關	周防六郡、長門五郡
和歌山縣	和歌山	紀伊の内七郡
徳島縣	徳島	阿波十郡
香川縣	高松、丸龜	讃岐七郡
愛媛縣	松山	伊豫十二郡
高知縣	高知	土佐七郡
福岡縣	福岡、久留米、門司、小倉	筑前九郡、筑後六郡
大分縣		豊前の内四郡
佐賀縣	佐賀	豊前の内二郡、豊後十郡
熊本縣	熊本	肥前の内八郡
宮崎縣		肥後十二郡
鹿児島縣	鹿児島	日向八郡
沖縄縣	那覇區、首里區	大隅五郡、薩摩七郡
		琉球五郡

ふけんせい(府縣稅)府縣の政費に充つるものにして、府縣の人民より納むる所なり。
 ふじかは(富士川)本邦三急流の一にして、信濃より來る無釜川と、甲斐より發する笛吹川及び荒川を集めて、甲斐の中央に相會し、赤石山脈の東側を過ぎ、駿河の中央を南流し田子浦に注ぐ。
 ふしきこう(伏木港)越中庄川の口に位し、開港場の一にして人口七千余。米穀の輸出多く船舶の出入多きこと、日本海沿岸中の第一位に在り。
 ふじざん(富士山)甲斐駿河の二州に跨り、海拔一二、四六〇尺。山形圓錐狀をなし、眞個火山の好標本なり。山嶺には内院と稱し一里許の舊噴火口あり。八峯これを繞りて並立す山姿清秀にして、四時白雪を戴き、山上淺間神社ありて木華咲耶姬を祀る。夏時登山するもの多く、觀望甚だ開豁、日出口没の景の如

きは筆紙の盡し難き所なり。山麓は裾野と稱し一望際なく野草繁茂す。この山延暦十九年始めて噴火し、爾來七回、寶永四年、又、爆發して山腹に一峯を生ぜり。これを寶永山といふ。

ふじたいくわさんみやく(富士帶火山脈)我國第一の大火山脈にして、富士山を中心とし、甲信二州を通じ越後に入り、妙高山、焼山を起し、南は箱根足柄の諸峯となり、海に入りて豆南諸島となれり。

ふじのすろの(富士の裾野)富士山麓一帯にして一望際なく、綠草翠樹繁茂せり。

ふじのひとあな(富士の火穴)富士山の西麓にあり。人工によりて作りたるものと、熔岩の噴出にして、自然に成生せしものとあり。登山者の休憩する穴なり。

ふじはちち(富士八湖)蘆の湖、富士沼、山中湖、川口湖、西湖、精進湖、本栖湖、四尾蓮

ふじたいくわさんみやく——ふやう

湖これなり。何れも山麓にあり。太古駿河灣は甲斐地方に灣入し、甲斐の北方より流る、河流は直に海に流入せしが、富士山の噴出によりて流口を遮られ、富士の北麓を繞りて半月形の湖水を蓄きしが、その後噴出物に遮られて分離し、今日の形となすに至れりといふ。

ふじはちち(富士八峯)富士山頂には内院と稱し、周圍一里餘、深さ一町餘の舊噴火口を存し、火口壁は秀で、八峯となる劍峯、雷岳、釋迦割岳、白乘岳、藥師岳、伊豆岳、成就岳、淺間岳これなり、即ち芙蓉峯の名ある所以なり。

ふしき(伏見)淀川に臨み人口二萬餘。舊時大阪との間、所謂淀川の三十石船の往來ありて交通を助けしが、今は汽船の往復あり。稻荷神社は四方よりの參詣者絶えず。
 ふじやう(府城)臺灣臺北府城は、劉銘傳の築きたる所にして、周圍、皆、石壁を繞らし要

害堅固なり。石壁高さ三間巾二間半。四方に樓門を設く。

ふせうみ(布施海)富山灣の別名にして、能登半島と越中沿岸とによりて擁せられ、日本海沿岸に於ける大彎曲なり。内に氷見、伏木、新港等の良港あり。

ふせん(豊前)九州の北部にある一州にして、東北は周防灘に面し、東及び南は豊後と接し、西南より西方に亘りて筑前に擁せらる。その大部は福岡縣に、その餘は大分縣に屬す。

ふたごやま(雙子山)豊後國東半島に聳ゆる焔火山にして、阿蘇帶火山脈に屬す。直立三千尺。その脈東西二峯に分る。

ふたみのちうら(二見浦)海濱白砂青松相連り、路究る所に二個の巨巖屹立す、夫婦岩といふ。色蒼黒にして、相距る三間許り、大なるものは大き三丈、小なるものは一丈餘。大巖頭に華表を建て、大注連繩を以て阿巖を連ぬ。風

光甚だ佳にして來遊者多し。

ふぢしまじんじや(藤島神社)越前福井市の西郊に在り。延元三年新田義貞の戦死したる地にして、明治五年朝廷その遺勳を賞し、社を建て、これを祀り、別格官幣大社に列せり。

ふぢとのわたし(藤戸の渡)備前の兒島半島は往昔は一の島にして、本地との間は舟楫を通ずるを得たり。藤戸の渡はこの島に至る通路なりしなり。佐々木盛綱この渡しを渡りて、兒島に城を構へたる平行盛を敗りたり。

ふちゆう(府中)静岡市の舊名なり。静岡市の部を見よ。

ふつけう(佛教)本邦に渡來してより既に一千三百五十年、國民の大部は信徒に屬し、我國の文明と離るべからざる關係を有す。十二宗四十餘派ありて、寺院の數七万に及ぶ。

ふつのす(富津の洲)浦賀海峽の東岸にありて、海中に突出すること一里餘。相摸の觀音崎

と相對して東京灣の咽喉たり。砲臺及び燈臺の設置あり。

ふなうけこう(船浮港)八重山諸島中の西表島(入表島)にありて良港の稱あり。

ふながはこう(船川港)羽後の男鹿半島にあり。冬季の碇泊に適する良港なり。

ふなさかたりび(舟阪峠)播磨備前の境にありて、山陽道第一の天險と稱せらる。後醍醐天皇隱岐に播遷し給ふとき、兒島高德この地に據りて車駕を迎へんとしたる所なり。

ふなのへさん(船上山)せんじやうせんと同じふなばし(船橋)下總國東葛飾郡の町なり。人口一万二千百餘あり。東京銚子間の鐵道停車場あり。

ふはのせきし(不破の關趾)大垣町の西方近江の境にあり。近傍一帶は即ち關ヶ原にして、有名なる古戰場なり。

ふんくわわん(噴火灣)一に内浦灣といふ。波

ふなうけこう——へいみん

島半島の惠山岬と、膽振の繪柄岬とによりて擁せらる。

ふんこ(豊後)九州の東北に位し、豊前の東南を包み、東北瀬戸内海を隔て、中國四國に對し、南方日向肥後に、西方筑後に界し、大分縣の管地にして、縣廳は大分にあり。

ふんごすゐぢやう(豊後水道)伊豫と九州島との海峽にして、瀬戸内海の外洋に通ずる所なり。ふるいち(古市)河内國にありて、河内木綿の産地なり。



へいびん(平原)土地の低くして平かなる部分の名稱なり。

へいみん(平民)我國民の華族、士族に對する稱呼なり。

へいめんづ (平面圖) 地上の物体を平面に描寫せし圖なり。地圖は即ち、平面圖にして、山岳も盆地も一様に現せり。

べらりつ (苗栗) 臺灣北部山中の都邑にして、後隴溪の上流にあり。樟腦の産出夥しきを以て有名なり。

へくらじま (袖倉島) 能登の屬島にして、周圍凡そ一里餘あり。

べつしどろざん (別子銅山) 別子銅山は伊豫にあり。地質は綠泥角閃片石、石叢絹雲母片岩等の太古紀の構成より成り、鑛床は扁豆狀にて厚さ四五尺乃至三十尺、長さ三千五百尺に達し、鑛石は黃銅礦、黃鐵礦にして、銅の産額年七百餘万斤に及ぶといふ。

べつぶ (別府) 豊後に在りて宇佐を距る十五里有名なる温泉場にして、前は大分灣を控へ、後は鶴見岳を負ひ、四方の浴客多し。温泉は無色炭酸泉なり。

へなしぎき (總作岬) 陸奥の西南にありて日本海中に突出せり。

ほ

ほうねいざん (寶永山) 寶永四年、富士山爆發して山腹に一峯を生ぜり。これを寶永山といふ。

ほうざん (鳳山) 臺灣臺南の東南に在る都邑にして、四周に土壁を繞らす。人口六千六百餘あり。

ほうでう (北條) 伊豆田方郡に在りて、北條氏の舊跡たり。安房の南部の名邑にして、館山灣に臨めり。

ほうらいじ (鳳來寺) 三河鳳來山の麓にあり。推古天皇の時の建立にして眞言、天台二宗の古刹なり。

ほらよかいけふ (豊豫海峡) 伊豫と豊後との間の海峡をいふ。

ほくかいだり (北海道) 渡島、後志、石狩、天鹽、北見、釧路、十勝、釧路、根室、千島の十一國に分たる。北海道廳は石狩札幌にあり。下に十六支廳三區を置きて統治す。

ほくかいだりちほう (北海道地方) 北海道炭礦鐵道線) 本鐵道は北州後志の小樽、手宮驛を起點とし、釧路の室蘭に終るものを云ふ中間に二十六の驛を置く。線路延長百三十三哩三十釐。別に岩見澤歌志内間、追分夕張間嶺内幾春別間の三支線あり。その他砂川歌志内間、幌内幌太間の二側線を有す。線路延長二百六哩あり。明治廿九年十月一日鐵道作業局の管轄に屬せり。

ほくかいだりちほう (北海道地方) 渡島、後志、石狩、天鹽、北見、釧路、十勝、釧路、根室及び千島列島とを併せたる地方にして、

北海道廳これを總管し、その下に十六支廳三區あり。

ほくかいだりちほうのらりやら (北海道地方の雨量) 中央山地より西南海岸に亘りて、多く東北岸に少く概して、夏より秋にかけて降雨あり。冬より春にかけて少し、故に、寒地の割合に降雪多からず。

ほくかいだりちほうのかいがん (北海道地方の海岸) 渡島半島の東西には、惠山岬と白神岬と相對して函館灣を抱き、その東北方に噴火灣(又火山灣)あり。圓形をなし十四個の火山を以て圍繞せらる。蓋し陥落によりて生ぜしものなり。これより東、襟裳岬に至るの間は一帶砂磧の濱にして弓形をなし、良港に乏しその東北沿岸、亦、砂磧弓形の海濱なり。斯く襟裳岬の西側の海濱同形をなせるは、襟裳岬の突出あると、河流より吐出する土砂の激浪に打ち寄せらるゝが爲なり。東北岸は納沙

布岬、知床岬相對して突出し根室灣を擁す。これより宗谷岬に至るの間、弓形の砂濱地にして、海岸には淡水を湛へたる湖澤多し。宗谷岬は樺太の能取岬と相對して、宗谷海峽をなせり。以南、亦、弓形の砂濱を形成して其港に乏し、西南に至れば半島状をなして地勢上の方面と其趣を異にし小樽、江差等の良港あり。要するに本島の沿岸は、砂丘的海岸と硬岩性の海岸とより成り、良港乏しく海岸として價值なきものに屬す。

ほくかいだうちほうのきやうかい—(北海道地方の交通) 鐵道の項参照。本地方は近年の開拓に係るを以て、内地は叢林野を蔽ひ寥々として人家を見ざる所多けれども、亦、新設の道路少からず。私設の鐵道には炭鑛鐵道、北海道鐵道あり。官設も天鹽十勝線の外に釧路湖方面より標茶に至る鐵道あり。未成線には名寄より宗谷に至るものと、落合より十勝の帯廣に

至るものなるも、遠からず敷設せらるゝに至るべし。函館、小樽、室蘭、釧路は開港場に内外諸國と交通自在なり。

根室より各地への航路
釧路厚岸港へ七十九哩。函館へ二百八十九哩。國島の泊村へ二十八哩。擇捉島の紗那へ百四十七哩。

ほくかいだうちほうのきやうかい—(北海道地方の岬角) 東、根室半島の兩端に納沙布岬、知床岬あり。西、渡島半島の兩端に白神岬、惠山岬あり。北に宗谷岬あり。南に襟裳岬あり。ほくかいだうちほうのきやうかい—(北海道地方の氣候) 東岸は親潮これを洗ひ、西岸は暖流の支流これを洗ふを以て、氣候は南北よりも東西に於て差異を生じ、西岸は暖にして東岸は寒冷なり。又、上川地方に於ては極寒零下三十度に降れども、札幌地方は零下二十三度にして、一般に春光融和の候と稱すべきは、六

七月頃にして夏季甚だ短し。要するに本島の氣候は世人の想像するが如くに寒冷ならず。千島は寒流の影響を受けて寒く、積雪深しと雖も人の住居に適せざるにあらず。風は一般に西南風多く、冬季日本海よりする寒風虚日なし。雨は東北岸に少くして、西南岸より中央山地に亘りて多し。

ほくかいだうちほうのきやうかい—(北海道地方の境界) 西及び西北は日本海に、東北はオホソク海に面し、南方一帯太平洋に連り、西端は本州と津輕海峽を隔て、相對す。

ほくかいだうちほうのきやうかい—(北海道地方の行政) 北海道廳ありてこれを總管し、その下に三區十六支廳を設けて全道を治む。而して自治制代議政の如きは、その制度内地と同じからず。

ほくかいだうちほうのきやうかい—(北海道地方の境界) 渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽

振、日高、十勝、釧路、根室、千島これなり。

ほくかいだうちほうのきやうかい—(北海道地方の礦産) 石炭の産出多く、その煤田を分ちて石狩、天鹽、釧路の三煤田とす。石狩煤田は東西六里、南北三十里、北は空知炭坑より、南は鴨鶴川炭坑に達す。天鹽煤田は本道石炭の大富源地にして宗谷岬以南、天鹽川流域の山野一圓なり。釧路煤田は本道中最も廣しと雖も、品質は他に劣れり。又、砂金は利別砂金地を第一とし、三股川の下流二里の間も頗る多く、近頃枝幸に豊多なる砂金地發見せられたり。硫黃の産出、亦、多く、釧路の跡佐登を第一とし、雌阿寒、惠山、岩尾、知床より産す。産額全國の二分の一を占む。

ほくかいだうちほうのきやうかい—(北海道地方の湖沼) 東部の猿轡湖(周圍二十里)、網走湖、楓連湖、釧路湖、西部の支笏湖、洞爺湖を主なるものとす。

ほくかいだうちほうのくわうせん（北海道地方の礦泉）本道は火山多く、従て礦泉の數三十余个あれども、山間僻遠の地に散在せる故にその名の著はれたるもの少し、就中硫黄泉に屬する渡島の恵山島、炭酸泉に屬する河汲湯を始めとし、硫黄泉に屬する後志の雷電湯、膽振の登別嶋等は世の知る所なり。

ほくかいだうちほうのさんみやく（北海道地方の山岳）東北山脈には宗谷岳、天鹽岳あり。日高山脈中には竿呂岳、芽室山、神威岳等並に増毛山脈には増毛山あり。千島帯火山脈には牛耳岳、斜里岳、雌阿寒山、雄阿寒山、マタアカウシツベ山、オプタテシケ山等あり。西部にては後志山脈中にマツカリヌプリ山、恵庭山、樽前山、白老山、有珠岳等並に、渡嶋山脈中には駒ヶ岳、遊樂部岳、大川岳、恵山等の諸山屹立し、千軒山脈中には千軒山、知内山等あり。

ほくかいだうちほうのさんみやく（北海道地方の産業）本道の産業は未だ十分發達の域に達せざれども、天産物は頗る富豐なり。中には水産物は最も重要にして、沿海到る處鱒、鮭、鱒、昆布等の利夥しく、礦物には石狩の石炭、渡島、北見の砂金、千島の硫黄等は世に著はれ、蝦夷松、落葉松等の喬木到る處に繁茂し、牧場、亦、大規模のものありて、馬、牛、豚を産す。農業も、稍、進歩して大小豆、麥、馬鈴薯等を出し、近年稻作の業非常なる勢を以て進歩しつつあり。

ほくかいだうちほうのさんみやく（北海道地方の山脈）本島の諸山脈は殆んど十字形に交叉せり。即ち北州山脈は樺太より起り、本島の北端宗谷岬に上り、南東に走り天鹽、北見の國境を経て東北山脈となり、一支脈を西に出して、増毛山脈なる小山脈をなす。本脈は尙も南走して島の中央に到り、千島帯火山脈と

相交はりて高峻なる諸嶺を起し、進んで日高十勝の境に連りて日高山脈となり、襟裳岬に至りて海に没す。千島帯火山脈は露領カムチヤツカより起り、千島の三十二列島を起し、本島に入りて知多岬に起り、西走して雄阿寒雌阿寒の火山となり、島の中央に於て北州山脈に交叉す。これより、稍、南に折れて西に走り石狩、膽振、後志の國境附近に於て後志山脈となり、進んで渡島山脈となりて津輕海峽に没す。

ほくかいだうちほうのじんこう（北海道地方の人口）本道の人口僅かに八十四万餘にして、平均一方里に凡そ百十四人を容るゝに過ぎず近來の調査に依れば、毎年増加する人員は平均一万内外なりと云ふ。

ほくかいだうちほうのじんしゆ（北海道地方の人口）我邦固有の人口の外、アイヌ種凡そ一万七千餘人にして日高、膽振の二國に多し。

ほくかいだうちほうのすゐさん（北海道地方の水産）水産極めて多く、世界三大漁場の一に數へられ年額五千万圓に達す。その主要なるものは鱒、鮭、鱈、昆布、鱒、鱒、鮑等に於て土民の十分の七はこれに従事せり。

ほくかいだうちほうのせきたん（北海道地方の石炭）産出頗る巨額に達し、煤田は分ちて三とす。石狩煤田は東西六里、南北三十里、北は空知炭坑より南は鴨鶴川炭坑に達す。天鹽煤田は本道石炭の大富源地にして、宗谷岬以南、天鹽川流域一帯の山野にして、釧路煤田は本道中最も盛しと雖も品質は劣れり。總産額毎年六十五万噸に達す。

ほくかいだうちほうのたんざん（北海道の炭山）炭山の重なるものは夕張炭山、幌内炭山、空知山等にして、夕張より出づるものは炭質堅緻にして、粉碎することなく、空知より出づるものも、亦、良好なり。

ほくかいだうちほうのちせい（北海道地方の地勢）山岳重疊してその脈十字形に交叉し、石狩岳、畧、その中央に聳れ、四個の三角形を作りて四方に傾斜し、河流も、亦、四方に分流す。山脈の間廣大なる平野をなし、長河との間を漕流せり。

ほくかいだうちほうのちせい（北海道地方の鐵道）

北海道鐵道は函館より起り小樽に至る、線路延長百五十八哩七十七鐵あり、この間に三五の驛を置く。

炭礦鐵道は後志の小樽手宮驛を起點として、釧路の室蘭に終るを幹線とし、中間に二十六驛を置く、延長百廿三哩あり。別に岩見澤、志内間、追分夕張間及び岩見澤、幌内、幾春別間の三支線と、その他に砂川、歌志内間、幌内、太幌、太間の二側線を有す。延長二百六哩六十鐵あり。明治廿九年十月官業に屬す。

に便なり。晩春鯨の漁期に至らば、漁者四方より集るといふ。札幌は、石狩平野の西部にありて豊平川に跨り、人口五万余。道廳、支廳、農學校等あり。明治二年の開拓に係り、近傍の農業頗る發達せり。小樽は開港場の一にして、石狩平野の關門に當り、水陸の便に富めるを以て市況日に盛んに、人口七万余あり。室蘭は噴火灣の東部にありて、人口七千餘。開港場の一にして良好なる碇泊場を有す。岩見澤は鐵道四通し、附近は沃野遠く連りて物産豐なり。旭川は上川平野の中央にありて石狩川に臨み、街衢廣闊、規模宏壯にして市況盛んに交通機關整備し、附近の農村數里に亘りて物貨集散の中心地たり。第七師團司令部の所在地なり。稚内は新開の地にして人口五千餘。逐年増殖の勢あり。枝幸は枝幸山の東麓にあり。人口五千餘。近傍砂金の産ありて頗る繁華なり。

官線は砂川より旭川を経て天塩の名寄に至るものと、旭川より分岐して落合に至るものとあり。百五十三哩。又、釧路より十勝帯廣に至る十勝線あり。八十哩十六鐵。標茶より釧路湖方面に至る線あり。

ほくかいだうちほうのとくわい（北海道地方の都會）函館は北海道出入の咽喉に當り、支廳の所在地にして古き開港場たり。人口凡そ九万餘。市街繁盛なり。港は臥牛山海中に突出して一條の砂洲これを連ねて、巴形をなせるを以て、又、巴港の名あり。五稜廓は函館の北一里許にあり、五稜形の城廓あるを以て名づく。製氷地として有名にして、維新の際榎本武揚、大島圭介等の據りし所なり。福山は渡島の西南岸にあり、もと松前と稱す。人口一万七千、今は舊時の盛なしといふ。江差は半島の西岸にありて、人口一万四千。西岸屈指の地なり。港は前に嶋島ありて水深く碇泊

ほくかいだうちほうのちせい（北海道地方の農産）農産物中産額多きは豆、馬鈴薯、麥等にして、麥は年額三十六萬石に達し、牧畜業亦、盛にして馬七萬五千頭、牛七千餘頭を飼養し、これ等の事業日に盛大に赴きつゝあり。

ほくかいだうちほうのちせい（北海道地方の風土）本道は我邦の最北部にあれども、寒氣は世人の想像するが如く強からず、一月の平均溫度零下六度二にして、海岸は寒暑共に溫和なり。雪は十月又は十一月より降り始め、四

月に消ゆ。されど千島は寒流の爲、氣候寒冽なり。原野は開拓すべきもの一百万町歩ありと雖も、現今の開墾地は二十四万餘町歩に過ぎず。人口僅かに八十四萬。平均每方里に百十四人のみ、年々一萬人内外の増殖ありといふ。アイヌ人は日高、釧路の二國に多く、その數凡そ一万七千餘人あり。

ほくかいだうちほうのふるる (北海道地方の風位) 概して西北風多く、殊に冬季日本海より來る寒風甚だしく、殆んど虚日なしといふ。

ほくかいだうちほうのへいや (北海道地方の平野) 平野の大なるものは石狩平野、天鹽平野、十勝平野なり、これを北海道の三大平野といふ。石狩平野は石狩川の流域にして、南西海岸より愛別地方に至る、長さ三十七里、巾五里餘。農業地域五億七千八百萬坪あり。下流の地は肥沃なれども、卑濕に過ぐるものあり上流の地は砂礫露出して乾燥に失する所あり

されど重要なる地域にして住民多く、將來有望の地なり。天鹽平野は天鹽川の流域にして丘陵状をなす。十勝平野は十勝川その中央を貫流し、東南に向つて開ける最も廣潤なる平野なり。

ほくかいだうちほうのふるち (北海道地方の位置) 北海道は我邦の東北部にありて、北海道本島(又十州島)と千島とより成り、本島は津輕海峡を隔て、本州に對し、西及び西北は日本海に、東北はオホーツク海に面し、南方一帯太平洋に連る。

ほくかいだうちほうのをんど (北海道地方の溫度) 本道は我邦の最北に位し、緯度高く氣候寒冷なりと雖も、内地人の想像するが如く甚しからず、而して西岸に暖流の支流あり、東岸は寒流なる親潮これを洗ふを以て、溫度の差は南よりも東西に於て生じ、東北寒冷にして西岸溫暖なり。上川地方に於て極寒零下三

十度、札幌に於て零下二十三度にして、冬季長く夏期短し、六七月に至りて、春光融和の候を見るといふ。

ほくかいだうちほうのつづらせん (北海道鐵道線) 北海道は渡島函館港を起點として西北に向ひ内浦灣の岸に沿うて走り、紋別附近に於て東北に轉じ、後志國小樽港を終點とするものなり。線路延長百五十八哩七十七釐あり。半島部の交通に便す。中間には三十五の停車場を設置す。

ほくかいだうちほうのぬんかく (北海道の沿革) この地は古の蝦夷の地にして、幾多の變遷を経て現時の情態を呈するに至れり。抑、太古の世にありては、アイヌ種即ち蝦夷人の住域が北洲島は勿論、内地の大半に亘りしは種々の遺蹟に徴して明なり。然るに日本武尊、武内宿禰の巡撫を經、河部比羅夫の討伐を受け、政所を後志に設けしより王化日に弘まりて、ア

ほくかいだうちほうのつづらせん——ほくくりくせん

アイヌは漸次北退せしが、内地の多事なるに當りてや、邊境を顧みるの遠なかりしを以て、彌崎氏松前氏等が、渡島に據りて全島を管理せしに過ぎざりき。寛政の末、幕府は東蝦夷を直轄となし、文化四年松前奉行を置き全島を管せしめたり。維新の際、函館府及び藩を設けしむ、明治二年北州千島を北海道と稱し開拓使を置きて管せしむ。八年樺太を露國に譲り、十五年開拓使を廢し三縣を置きしが、十九年道廳を設けたり。

ほくぐんはんたう (北郡半島) 又、斗南半島といふ。陸奥の東北に突出し、一條の地頭を以て本州に連る。半島の高山に恐山あり。ほくひやちやち (北氷洋) 北氷洋は歐亞大陸の北にある海洋にして、周歲殆んど結氷せり。その區域は北極圈(北緯六十六度半)を以て境となす。

ほくりくせん (北陸線) 官設北陸線は東海道鐵

道の米原驛より分岐して、湖東を北に走り、長濱、柳ヶ瀬を経て福井縣に入り、敦賀、福井を過ぎて石川縣に入り、大聖寺、金澤を経て富山縣の富山市を終點とするものなり。線路延長百五十二哩六十八鎖あり。中間には三十二の停車場を設く。

ほくりくちほう(北陸道)若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡の七國にして、福井縣石川縣、富山縣、新潟縣の四縣を包含す。

ほくりくちほう(北陸地方)北陸道一帯にして新潟、富山、石川、福井の四縣あり。

ほくりくちほうのりやう(北陸地方の雨量)本邦中雨量最も多き部に屬し、特に加賀、能登の地は甚だしく、越中、越前、越後これに次ぐ。冬季積雪深くして、時々汽車の進行を停むといふ。これ全く西北風の日本海上を吹き來るもの多量の水蒸氣を齎らし(陰雲となりて)東北より西南に横はれる山脈に遮られ

て雪となりて降下するなり。

ほくりくちほうのきやう(北陸地方の海岸)本地方は日本海沿岸中風曲多き部分にして、中にも若狹灣は出入犬牙の如く、東端に敦賀港あり。これより能登に至る海岸は出入乏しく、砂丘及び瀉多し。能登半島の綠崎附近は岩礁多く、航行危険にして、燈臺の設あり南すれば七尾灣ありて能登島横はり、富山灣(布施海)には著名の港數ヶ所あり。越後の海岸は風浪の爲に沙丘をなし新潟、柏崎、直江津等あるも碇泊に便ならず。佐渡は東西に夷、眞野の二灣あり。

ほくりくちほうのきざん(北陸地方の海産)沿海よりは烏賊、鯛、鯖、鮭、鱈等を産す。ほくりくちほうのりやう(北陸地方の交通)鐵道は滋賀縣より來り、畧、北陸街道に沿ひて富山に達する官有北陸線と、長野縣より直江津に達する信越線の外に、直江津より起り

て新潟に至る北越鐵道あり。越中には伏木より起りて北陸線と交叉して、城端に至る中越鐵道あり。能登の七尾港に至る七尾鐵道あり敦賀、七尾、伏木、新潟は開港場にして、各地に至る汽船の便あり。佐渡の夷港は新潟と定期の汽船往來し、海底電信も設けられたり。ほくりくちほうのき(北陸地方の瀉)沿岸には瀉と稱し、周圍一里乃至六里に達する瀉水にして、海を去ること遠からざるもの甚だ多し。これ風又は流水の作用により、砂を海濱に堆積して、所謂砂丘を作り、これに由りて河口を遮り、砂丘の後方に河水を湛は湖沼をなせしものならんといふ。その著名なるものは越前の北瀉(周圍五里餘)、加賀の河北瀉(周圍六里餘)、柴山瀉(周圍三里餘)、能登の邑智瀉(周圍三里餘)、越中の放生津瀉、氷見瀉、越後の福島瀉、鏡瀉、田瀉、大瀉、等なり。

ほくりくちほうのき(北陸地方の氣候)冬季寒冽なる北西風吹き荒れども、對馬暖流の影響を受くるが故に、太平洋沿岸地方(東海道地方)に比し大差なし。雨量は本邦中最も多き部に屬し、殊に加賀、能登を甚だしとす。ほくりくちほうのきやう(北陸地方の境界)西北は日本海に面し、東南は東山道の諸國に連り、西南、僅かに山陰道の丹波、丹後に界す。

ほくりくちほうのき(北陸地方の境威)ほくりくちほうのきやう(北陸地方の境威)

若狭、越前、加賀、能登、越中、越後、佐波の七國にして、新潟縣、富山縣、石川縣、福井縣の四縣に分つ。

ほくりくちはらのこうわん（北陸地方の港灣）

新潟港（越後）、七尾港（能登）、富山灣（越中）伏木港（同上）、若狭灣（若狭）、敦賀港（越前）等を主なるものとす。

ほくりくちはらのこせう（北陸地方の湖沼）ほくりくちはらのかた（北陸地方の潟）の條を見よ。

ほくりくちはらのさんかく（北陸地方の山岳）

新潟縣には鷹巣山、烏帽子岳、御神樂岳、粟ヶ岳、駒形山、大明神山、割引山の諸山東部に聳に、彌彦山、米山、妙高山、燒山等西南に屹立せり。富山縣には大逆華山、立山、大日ヶ岳、藥師岳は東部に聳に、西部に石動山、俱利伽羅峠、醫王山あり。石川縣には白山、大日岳、寶達山等あり。福井縣には岐阜縣の

境に毘沙門岳、屏風岳、權現山、日野岳、十三間山、三國山等あり。

ほくりくちはらのさんびふ（北陸地方の産業）

福井縣は羽二重業を主なる業とす。石川縣は農業行はれ、米麥の産多し。蠶業も、亦、行はれ、織物業は福井に次げり。製陶業、漆器業も盛なり。富山縣は農業を主とし、水産林産業これに次ぐ。富山市の賣藥、高岡市の銅器製造も有名なり。新潟縣は農業を第一とし石油採取業、織物業も盛なり。越後縮、絹縮を産す。

ほくりくちはらのさんぶつ（北陸地方の産物）

米穀、石油、漆器、銅器、陶器、金銀、絹織物、象眼細工、奉書紙、賣藥等なり。

ほくりくちはらのさんみやく（北陸地方の山脈）

南東境には出羽、三國の二山脈連亘す。出羽山脈は山勢險なれども、阿賀川の横斷する所は、稍、交通に便なり。富士帯火山脈は信濃

より越後に入りて妙高山、燒山を起し、飛騨山脈は信濃、越中、越後の境に聳に、脈中に立山の活火山あり。越中、加賀、越前の境は山岳重疊し、諸川の横斷する所は交通に便なり。越中、能登の境に寶達山脈あり、その南端は即ち俱利伽羅峠なり。

ほくりくちはらのじんこう（北陸地方の人口）

人口の密度は東海諸國と、畧、相同じくして一方里に、凡そ二千三百余人を容るゝ割合なり。

ほくりくちはらのちせい（北陸地方の地勢）

東及び南は山脈連亘し、北は日本海の方に向ひて傾斜するが故に、河流は大抵北流し、平野は概して海岸に多し。

ほくりくちはらのてつだう（北陸地方の鐵道）

北陸鐵道線は、近江の米原驛より分岐して北に走り、本地方を東北に貫き、現今は富山市に終る。延長百五十二哩六十八鎮あり。

七尾鐵道は、加賀の津幡驛より北陸線に分岐して、能登の七尾港に至る、三十三哩七十五鎮あり。

北越鐵道は、越後の直江津に起り、信濃川の下流地方にある沼垂に至る、八十四哩二十四鎮なり。

中越鐵道は越中の伏木より城端に至る、二十三哩なり。

ほくりくちはらのとくわい（北陸地方の都會）

越後には新潟を主とし高田、直江津、柏崎、長岡、小千谷等あり。佐波に相川、夷あり。

越中には富山、高岡、伏木あり。加賀には金澤、小松、大聖寺等あり。越前には福井、敦賀。若狭には小濱あり。

ほくりくちはらのふうど（北陸地方の風土）

冬は北西風烈しく、日本海の航海殆んど絶ゆることあれども、沿岸の地は對馬暖流のため北東海地方に比して甚だ寒からず。夏季は雨少

ほくりくちはらのふうか——ほくろつてつたうせん

なくして冬季雪多く、全国中この地の右に出づるものなし、殊に越後に於ては往々汽車の進行を妨ぐる事あり。諸川の流域は耕地開け、人口も、亦、多く一方里に凡そ二千三百餘人の割合なり。人口一萬以上の都會二十餘ありて道路よく開け、鐵道の敷設漸く成り、交通運輸の便益々増進せん。

ほくりくちはらのふるる（北陸地方の風位）冬季は西若くは北西の寒風吹きて寒威厳しく、雨量として多からしむ。

ほくりくちはらのへいや（北陸地方の平野）平野は海岸に近き諸川の流域にあり。即ち信濃川、阿賀川、荒川、神通川、庄川、日野川の流域にあるものを大とす、中にも信濃川、阿賀川の流域は廣漠なる平野にして、長さ四十里に亘り、地味肥沃にして有名なる米産地なり。

ほくりくちはらのゆきなほまりゆう（北陸地方

三四

の雪多き理由）地勢と風位とがその原因をなすものにして、冬季の西北風は寒烈なるシベリア地方より來り、その日本海を経るに際して、多量の水蒸氣を含み凝結して陰雲となりて陸に達し、東北より西南に連亘せる山脈の爲に遮られて、雪となりて降下するに因るものなり。

ほくりくちはらのあち（北陸地方の位置）本地方は東山道と相表裏して、東北より西南に延び、西北一帯日本海に面し、西南僅かに山陰道の丹波、丹後に界す。

ほくりくちはらのをんど（北陸地方の温度）本地方は南に山を貫ひ、北海に面するが故に寒氣酷烈なるが如きも、對馬暖流のため、調和されて、沿岸は東海地方に比して大なる差なし。而して夏季短くして暑氣強し。

ほくろつてつたうせん（北越鐵道線）本鐵道は新潟縣越後國中頸城郡直江津港を起点として

ぼたんしや（牡丹社）臺灣恒春の北方山中にある蕃族の部落にして、性兇暴、曾て我漂民を慘殺せしことあり。

ほつぎよくせん（北極線）地球の北極より二十三度半の處に劃せる一線にして、この線より北極に至るの間は即ち寒帶なり。

ほふりうじ（法隆寺）舊名を斑鳩寺といふ。南都七大寺の一にして、聖德太子の建立にかり、我邦最古の建築物の一なり。金堂、講堂五重塔等、尙、存し、その佛像繪畫は國寶となれるもの多し。

ほほまをか（嶽間丘）一に國見岳といふ。大和橿原宮址近傍にあり。神武天皇巡幸の際この山に上りて、國勢を望見し給ひし處なり。

ほんごう（本宮）紀伊熊野川の河畔にある名邑なり。

ほんしち（本州）我邦五大島中の最大なるものにして、面積一萬四千五百七十一方里、即ち

三四

畧、海岸に並行して東北に走り、柏崎に至りて東に轉じ、長岡三條等の市を経て信濃川の河口に位する、中蒲原郡沼垂町大字沼垂を終點とするものなり。線路延長八十四哩五十二鎖あり。この間に二十四の停車場を設置せり。

ほしのをか（星の岡）伊豫松山の南一里に在り元弘年間土居通増、得能通綱等長門探題北條時直を破りし所なり。

ほじゆうへいぬき（補充兵役）その年所要の現役兵員に超過する者の中に就き、所要の人員これに服し、年限は陸軍にありては十二年四ヶ月、海軍にありては一ヶ年とす。

ほろくらくわりざん（細倉嶺山）銀鉛山。宮城縣陸前國栗原郡鶯澤村にあり。盛岡監督所の管する所なり。

ほろしまこら（細島港）宮崎縣唯一の港灣にして、縣下の物産多くこの處より各地に輸送せらる。

ほしのをか——ほんしち

ほんしよしとせん——まぐかりぬぷりさん

總面積の半以上を占めたり。

ほんしよしとせん(本初子午線)現今經度を算するには、萬國協議の上英吉利領地ロンドン府中のグリニチを通る經度線を、本初子午線即ち基本と定め、これより東經幾度西經幾度と算定す。

ほんのうじ(本能寺)京都市寺町通り姉小路の北にあり。明智光秀がその主信長を弑したる所なり。

ほりしや(堀里社)臺灣西部地方の一都邑にして、樟腦の産地として知らる。

ほろないたんざん(幌内炭山)石狩にあり。地質は第三紀層に屬し、夾煤層、粘土、砂岩等より成り、一大鞍状をなし、二十層あれども採掘し得べきは五層に過ぎず。

ま

ま

三頁

まあとん(媽宮)澎湖島にあり。港内珊瑚礁多きも水深きを以て大船を泊するに足る。要港及び澎湖島廳あり。

まいばら(米原)近江の湖東にあり。東海北陸兩鐵道線の分岐点に當れり。

まうかり(牡押)臺北市の西南にありて舊街とも稱す。商業繁盛の地にして巨商多し。

まかど(馬門)陸奥野邊地の北にあり。戊辰の役に津輕兵と南部兵と激戦したる地なり。

まきむく(碓氷)大和國磯城郡にあり。垂仁、景行兩帝の宮址あり。

まぐかりぬぷりさん(マクカリヌプリ山)又、後方羊蹄山と云ふ。海拔六、五〇〇尺。曠振の西境に峙ち山址遠く四國に跨る。山姿秀美

なるを以て蝦夷富士の名あり。往昔阿部比羅夫の政所を置きし地なりといふ。

まきのがはら(牧野ヶ原)大井川の下流灌漑地にして南方遠く御前崎に及び、米穀の良産地なり。

ますげところ(増毛港)天壇南部の海岸にあり。小樽との間に汽船の往復あり。されど良港と稱するを得ず。

ますだがは(増田川)飛騨第一の大河にして源を乗鞍岳に發し、飛騨高原の水を集めて南流し美濃に入りて飛騨川となり、木曾川に合す。流程二十八里。

まつぬし(松江市)島根縣廳の所在地にして宍道湖に臨み、馬場瀬戸に跨りて市街をなし、北を末次、南を白鷺といふ。橋ありてこれに架し以て両市街を連ぬ。橋上の風光頗る佳にして、東は伯耆の大山を望み、西は湖水を隔て、遠く三瓶山を雲烟の中に望む。橋下船を

まきのがはら——まつまへじやう

通じて宍道湖と中海とを連絡せり。この地は三百年前堀尾吉晴の築城せし所にして、市街も、亦、當時開きしものなりと云ふ。現今人口三萬四千餘ありて、附近より出雲焼を出す。まつさか(松阪)伊勢に在り。參宮鐵道線に當り、縮木綿を産す。

まつしま(松島)陸前松嶋灣内にあり。三百有餘の群島點々散在し、老松その上に繁茂し、千態萬狀の奇景言ふべからず。殊に雄島の洞門、籠島、璣ヶ崎の魚生巢の如きは最も奇なりと稱せらる。その他宮戸、桂澤、象ヶ鼻、岩青、春磯、經島、福浦、焼島等絶景なり。

まつまへ(松前)渡島半島の西南岸にあり。松前氏の城下たり。現今福山と稱し、人口一萬七千餘。當時の建築、今、尙、存すれども市街復舊時の盛なしといふ。

まつまへじやう(松前城)一に福山城と云ふ。慶長年間松前氏の築きし所なり。維新の際松

三頁

前氏この城に據りて徳川氏の脱兵を防ぎし所なり。

まつもと(松本) 信濃松本平の中心を占め、人口三萬余。製糸の業盛んにして商業、亦、賑へり。往昔國府のありし地なり。

まつもととまひら(松本平) 信濃北部の平地にして千曲川の流域に當れり。

まつやまし(松山市) 愛媛縣廳の所在地にして伊豫鐵道の中心地たり。人口三萬五千余。縣内第一の都會とす。

まつうらはんたり(松浦半島) 肥前の北部海中に突出せる半島にして、東なるを東松浦半島といひ、西なるを北松浦半島といふ。

まの(真野) 佐渡島相川の南東にありて順徳天皇を祀れる真野宮あり。

まのぐら(真野宮) 順徳天皇を祀れるものにして、佐渡島相川の南東に在り。

まのわん(真野灣) 佐渡島の西岸に彎入せる所

なり。

まひこ(舞子) 播磨の南海岸にして、南は明石海峡を隔て、淡路島に對し、東は須磨浦に連り、西は明石浦に接し、白砂青松風光明媚なる海濱なり。

まひづる(舞鶴) 丹後にありて舊田邊と稱す。明治初年舞鶴と改稱す。人口一萬。由良川の口にありて第四鎮守府の所在地なり。

まひづるわん(舞鶴灣) 興謝海の一部にして宮津灣の東南に當り、灣内に舞鶴港あり。

まべちがは(馬淵川) 源を陸中に發し、諸水を集めて陸奥に入り八戸港に注ぐ。

まへばし(前橋市) 群馬縣廳の所在地にして人口三萬五千。養蠶製糸の業盛にして市況殷盛なり。往昔麻橋と稱せしが、酒井氏こゝに封せられてこの稱に改めたり。

まやさん(摩耶山) 攝津の西部にあり。山頂には赤松則村の城址ありて名高く、南麓には布

引の瀧ありて頗る壯觀なり。

まるかめこう(丸龜港) 讃岐海岸の中央にあり港小にして船舶の出入に便ならざる爲、交通漸く多度津に移らんとせり。

まるがめし(丸龜市) 讃岐海岸の中央に位し、人口二萬三千余。舊金刀比羅神宮參詣者の上陸地なりしも、港灣狭小にして舟の出入不便なるため、近時多度津に移らんとせり。

まをか(真岡) 下野小山の東北にあり。有名な木綿織を産す。

み

みいけ(三池) 三池炭山は、福岡縣三池郡及び熊本縣玉名郡に跨り、年産額十三億斤。大卒田を市場として各地に輸送す。

みうらはんたり(三浦半島) 相模の東南海中に

まるかめこう——みかはわん

突出し、東京灣(品川灣)と相模灘とを分てり。

みかぐらだけ(御神樂嶽) 岩代の西北境に聳ゆみかさやま(三笠山) 奈良市の東に在り。昔、阿部仲磨が故郷の月を忍びたる所なり。

みかながはら(三方ヶ原) 濃松の西北に在る平野にして、古は引馬野と稱す。武田信玄が徳川家康を敗りし古戰場なり。

みかたこ(三方湖) 相通する三湖より成る。中央を水月湖と稱し、周圍二里余。他の二湖はその南北にありて、大さ、亦、各二里餘。

みかは(三河) 東海道にありて愛知縣に屬し、南太平洋に面し、西及び北は尾張信濃に界し東方遠江に接す。

みかはのさんせん(三河の三川) 矢矧川は國の西部を、豊川は東部を流れて共に衣ヶ浦に注ぐ。太平川は矢矧川に合す。

みかはわん(三河灣) 三河の瀨美半島と、尾張の知多半島とによりて擁せられ、伊良胡岬、

みかみやま——みすみこう

師崎その口を扼す。瀨内二部に分れ、東を渥美灣と云ひ、西を知多灣といふ。

みかみやま(三上山) 近江の東部の平野の南東に峙つ。山高からざれども形富士に似たるを以て近江富士の名あり。

みくはこう(三國港) 越前九頭龍川の河口にあり。敦賀港との間に汽船の往復あり。

みくはさんみやく(三國山脈) 本山脈は群馬縣の西北にあたり、新潟、長野兩縣の境を東北より西南に走れり。脈中に古場山、白根山、吾妻山等あり。

みくはたらび(三國峠) 美濃、伊勢、近江の三國境に聳ゆる山にして、多藝山その麓に連る。上野國利根郡の西北境にあり、信濃高井郡に亘る。その他、全國を通じて數多あり。今、枚舉に遺あらず。

みくはやま(三國山) 因幡の西南部にありて伯耆、美作に跨る。その他に中國山脈

中三國山二あり。

みくらがはな(美倉ヶ鼻) 羽後の八郎瀨の東北岸なる鹿渡村にありて、湖上の風光を賞するに最もよき所にして、陛下東北御巡幸の際御駐蹕あらせ給ひし所なり。

みさかさみやく(御阪山脈) 山梨縣の南部に蟠れる山脈なり。

みさき(三崎) 三浦半島の南端にありて、東京帝國大學の臨海實驗所あり。

みさき(岬) 陸地の一部海中に突出せる部分にして又、崎、さいふ。

みしま(三島) 伊豆にあり。人口一萬。東海道五十三驛中の有名なるものにして、古の國府の地なり。官幣大社三島神社あり。

みしまじんじや(三島神社) 伊豆の三島にあり官幣大社なり。大山祇神を祭る。創建年月未詳、本國の一宮なり。

みすみこう(三角港) 肥前宇土半島の西端にあり

り。港小なれども、灣内水深し。開港場にして肥後米の輸出盛なり。

みせん(彌山) 吉野群山中最も高峻なるものにして、海拔六千七百尺あり。

みたけしんぢう(御嶽新道) 甲斐甲府の北にある勝區なり。

みたじり(三田尻) 周防國第一の良港にして、中國航海の汽船常に寄港し、人口三千餘あり。

みたるむら(三田井村) 日向五箇瀨川の上流に在り。天孫降臨の靈地と稱せらる。

みちのく(陸奥) 今の磐城、岩代、陸前、陸中陸奥を總稱したる舊稱。

みついでし(三石) 備前の東南にありて、播磨の境に近し。蠟石を産す。

みつがはま(三津濱) 伊豫の海岸にありて、人口約一萬。東西航行の汽船の寄港地にして、市街頗る繁華なり。

みづさは(水澤) 岩手縣に在りて、臨時緯度觀

みせん——みさてつたうせん

測所あり。近傍に勝澤城址あり。田村將軍の雄圖を想はしむ。

みづしまなだ(水島灘) 備中の南方一帯の海上を云ふ。瀬戸内海の一部なり。

みつみねざん(三峯山) 武蔵の西部に位し頂上に三峯神社あるによりその名を知らる。

みとこらゑん(水戸公園) 水戸市にあり。徳川齊昭侯の設けし所なり。日本三公園の一。

みとし(水戸市) 茨城縣廳の所在地にして那珂川に臨み、人口三萬餘。市街甚だ殷盛なり。

もと徳川氏の居城たりし地にして弘道館、常磐公園、常磐神社等あり。

みとせん(水戸線) 水戸鐵道線を見よ。

みとてつたうせん(水戸鐵道線) 本鐵道は茨城縣下常陸國水戸市を起点として、畧、北に走り、同國久慈郡太田町を終点とするものなり

みなと——みなみとりしま

線路延長十二哩十一鎖あり。中間に五驛を置く。

みなと(漢)那珂川の口に在りて水戸を距ること三里、汽船によりて水戸市と相通す。人口一萬餘。漁業盛なり。

みなと(港)海水の陸地に滲入して、船舶の碇泊に便なる處をいふ。

みなとがは(漢川)神戸市中を流れて海に入る川甚だ小なれども、楠公戦没の地として有名なり。

みなとがはじんじや(漢川神社)神戸市湊川の東北にあり。楠正成を祀る。別格官幣社なり。社頭に水戸光圀卿の建設せられたる碑あり。

みなみくわいさせん(南回歸線)地球赤道の南北各二十三度半に當りて一線を劃す。南に在るは即ち南回歸線といひ、北なるを北回歸線といふ。この兩線の間は即ち熱帯地方なり。

みなみとりしま(南島島)南島島は小笠原島より

り正東約六百五十哩、北緯二十四度十七分、東經百五十四度一分に位し、日本帝國の極南東にあり。島の形二等邊三角形をなし、周囲約一里、珊瑚礁より成り土地最も低く、最高点とても三三呎に過ぎず。かくの如く豆大なる絶海の孤島なれども、左の如き重要あり。一、將來に於ける遠洋漁業の中心地となり、且、海底電線、無線電線の中繼所となるに好位置にあり。

二、財源として鳥類最も多く、信天翁、黒燕、袋鳥、オサ鳥、白燕、尾長鳥多く、これを捕獲剥製して西洋婦人の帽子を飾るため、歐米諸國に輸出し、その價高きを以て利益多し。斯の如き嶋なれば、明治二十二年アメリカの帆船長ロスヒル本嶋に來り、鳥毛及び鳥糞に着眼し、更に三十五年七月二名の化學者、植物學者と共に來島し、依て所屬問題に就き日米兩政府間に交渉を重ね、日本より軍艦笠置

高千穂を派遣したることあり。然れども日本は明治三十一年七月、東京府告示を以て小笠原島の所屬を定めたるより、我所有權あることを確實なれば、アメリカ船も手を引きて去れり。

みねやま(峯山)丹波の山間にあり。宮津の西北に當る。地僻遠なれども、近傍丹後縮緬の産出を以て表はる。

みの(美濃)東山道の一州にして、西は近江、伊勢に連り、南は尾張、三河に接し、東は信濃、北は飛騨、越前に界す。岐阜縣の管轄地にして、縣廳は岐阜市にあり。

みのねさん(箕面山)攝津の北境にあり。山勢箕の形に似たるを以て名づく。山は紅葉の景に富む。瀑布あり、高さ十六丈。

みののさんせん(美濃の三川)揖斐川は源を越前の境に發し、南流して大垣を過ぎ、木曾川に會す。長良川は大日岳に發し、岐阜の北方

みねやま——みへけんのかいばん

を過ぎて木曾川に入る。益田川は源を乗鞍岳に發し、南下して飛騨川となり、木曾川に合す。

みのぶさん(身延山)甲府の南方九里餘に聳ゆる山麓の久遠寺は、日蓮上人の開創せし所にして伽藍壯大なり。

みはらやま(三原山)伊豆大島の島中に峙ちたる噴火山なり。

みはる(三春)磐城に在り。郡山の東方三里半に當り、馬車鐵道ありて相通す。良馬の産を以て有名なり。

みへけん(三重縣)伊賀、伊勢、志摩の三國及び紀伊の一部を管す。縣廳は津市にあり。

みへけんのかいばん(三重縣の海岸)伊勢灣に臨める沿岸は出入に富みて良港多く、志摩半島の沿岸は、出入最も甚だしく、良港あれども岩礁多くして、碇泊危険なり。熊野灘に面する沿岸、亦、出入あれども良港乏し。

みへけんのかいさん——みへけんのてつだう

みへけんのかいさん(三重縣の海産) 南部海岸は、漁業最も盛にして、産物の主要なるものは、真珠、伊勢蝦、鱈、海參等とす。

みへけんのかうつう(三重縣の交通) 關西鐵道は愛知縣より本縣に入り桑名、四日市、龜山上野を経て京都府に入る。參宮鐵道は津より松阪を経て山田に至る。關西の津線は龜山より津に來り、參宮鐵道に連絡せり。東海道は近江土山驛より鈴鹿山を越えて本縣に來り、龜山、四日市、桑名を経て愛知縣に入る。伊勢街道は四日市より起り神戸、津、松阪を経て宇治山田に至る。

四日市より各地へ汽船の往來あり。
みへけんのかりち(三重縣の河流) 河流の主なるもの北に掛斐川、鈴鹿川あり。中部に雲出川、榑田川ありて灌溉の利多く、西南に新宮川ありて熊野灘に入る。又、伊賀地方に名張川あり、京都府に入る。

三

みへけんのきやうかい(三重縣の境界) 西は奈良縣に、北は京都、滋賀、岐阜、愛知の一府三縣に接し、東は伊勢灣、南は熊野灘に臨むり。

みへけんのさんげふ(三重縣の産業) 南部の海岸は漁業盛にして、真珠、伊勢蝦等の産多く伊勢灣沿岸は農産發達し、米、茶、菜種等を出し、伊賀地方、亦、其質の米を産す。

みへけんのさんみやく(三重縣の山脈) 西境に鈴鹿山脈横はり、南部は紀伊山脈西より來り東に走りて志摩半島をなし、渥美半島に向へり。

みへけんのちせい(三重縣の地勢) 地勢西は高く東に向ひて傾斜せり、從て河流は多く東流して伊勢灣に注ぎ、沿岸一帯平地を形成せり。
みへけんのおつち(三重縣の鐵道)

關西鐵道は京都府山城の南部より、本縣伊賀に來り、柘植にて草津より來る支線と會し、

東に走り伊勢の龜山、四日市、桑名を経て愛知縣に入る。別線は龜山驛より分岐して津に至り、參宮鐵道に連絡す。

參宮鐵道は伊勢の津市を起点として東南に走り、會度郡山田町を終点とす。線路延長二十六哩あり。十一驛を設く。

みへけんのおいふ(三重縣の都邑) 桑名は掛斐川の河口に位し、人口一萬八千餘。水陸の運輸に富み、米穀の集散繁く、古來その定期取引盛に行はれ、方今、全國有数の取引所ありて商業頗る盛なり。舊時、東海道の旅客この地より、對岸愛知縣の熱田に渡航せし所なり四日市は伊勢海に臨み人口三萬。海陸の運送便利にして開港場の一たり。萬古焼を産し、又、綿糸の産多し。津は一に安濃津といふ。三重縣廳の所在地にして、阿漕浦に臨み、人口三萬三千餘。津織子等の産あり。宇治山田は宇治と山田とを合せたる一市にして、人口

みへけんのおいふ——みへけんのおいしよら

三萬餘。宮川の沿岸にあり。宇治に内宮、山田に外宮ありて、參詣の旅客常にこの地に充つ。鳥羽は伊勢灣の口にある良港にして、太平洋岸風指の繁昌地なり。

みへけんのおらさん(三重縣の農産) 伊勢灣沿岸の平地は農業盛にして、米、茶、菜種等の産多く(年産額米は百三十萬石、菜種は九百萬石、茶四十四萬貫) 又、伊賀地方よりも其質の米を産す。

みへけんのおいしよら(三重縣の名勝)

二見ヶ浦。宇治山田市を距る北二里許海岸を隔て、二岩水中に屹立す。大は二十九尺にして、小は十二尺なり。相距ると二十尺。岩色蒼瀾にして碧波相映じ、その景甚だ佳なり。

阿漕ヶ浦。伊勢海西方の一部にして、白砂青松相映じ風光明媚なり。
朝熊山。二見浦の南一里に聳れてその風景を

三

添ふ。山上の風光頗る豁如、遙かに尾、參、遠の三州諸峯及び富士山を遠望するを得。

みへけんのるち (三重縣の位置) 奈良縣の東に連りて東方伊勢灣に面し、南方熊野灘に臨み北方京都、滋賀、岐阜、愛知の一府三縣に接す。

みほのせき (美保の關) 島根半島の東端地蔵岬の西方に在り。美保灣を抱きて風光に富む。後醍醐天皇隱岐より還幸し給ひし時、御駐蹕ありし所なり。

みほのまつはら (三保の松原) 駿河の清水港の南方より海中に突出せること一里餘の長洲にして、白沙青松の佳景あり。

みまさか (美作) 山陽道の一州にして備前の南に連り、東は播磨、北は因幡、伯耆、西は備中に界し、岡山縣の管する所なり。

みみかは (耳川) 一に美々津川といふ。日向にあり。流程二十八里。

みみつがは (美々津川) 日向にあり。大友義鎮が島津義久の兵と戦ひし地なり。耳川參照。

みやがは (宮川) 伊勢にあり。國の西境より發源し、東流して伊勢灣に入る。

みやぎけん (宮城縣) 陸前の大部を、磐城の一部を管す。縣廳は仙臺市にあり。

みやぎけんのかりう (宮城縣の交通) 鐵道參照。

陸奥街道は福嶋縣より來り、濱海道と岩沼にて相會し、北に走り岩手縣に入る。この兩街道に沿うて日本鐵道青森に向へり。

羽前路笹谷越は、仙臺より起りて西に走り、羽前の關澤に達す。その他銀山越、二口越の二道はその北にありて、羽前に至るを得べし。茨濱は良港にして横濱函館へ汽船の便あり。

みやぎけんのかりう (宮城縣の河流) 北上川は陸中の北境岩手山より發源し、磐石川、狹ヶ石川、和賀川、衣川、磐井川等の諸水を集め石

の巻港に至り仙臺灣に注ぐ。河口に近くして一支流あり、追波川といふ。東北流して太平洋に注ぐ。本川は平野の間を流るゝが故に、河床の傾斜緩にして水流徐かなり。灌溉、舟運に便なり。石の巻一の關間は常に小蒸汽の往來あり、我邦屈指の良河なり。阿武隈川、亦、磐城より來り、荒濱に至りて太平洋に注ぐ。兩岸平野開けて灌溉運輸の便、亦、頗る大なり。その他名取川、廣瀬川あり、東流して太平洋に注ぐ。

みやぎけんのきやうかい (宮城縣の境界) 西南は福島縣に、西は山形縣に、北は岩手縣に接し、東方一帯太平洋に面す。

みやぎけんのさんびふ (宮城縣の産業) 農業盛んにして米穀の産多く、牛馬の産、亦多し。海岸の地は漁利に富み、仙臺鮎は世に知らるる工藥品には仙臺平、八ッ橋織、埋木細工等を出す。

みやぎけんのさんみやく (宮城縣の山脈) 西方は山形縣の境界には那須火山脈蜿蜒し、東方には北上、阿武の兩山脈横はれり。

みやぎけんのちせい (宮城縣の地勢) 西境には奥羽分水山脈峙ち、東は北上、阿武隈兩山脈の餘波あれども、中央部は一帯平野にして、北上、阿武隈の二大川及びその支流の、その間を灌溉するありて、地味肥沃なり。

みやぎけんのてつたう (宮城縣の鐵道) 本縣の鐵道は、日本鐵道の奥州線及び濱海道線ともに、福島縣より來りて岩沼に相會し、北に走り仙臺を経て岩手縣に入る。仙臺市の北邊にある岩切驛より支線分岐して東北に走り、盤

釜に達す。

みやぎけんのといふ (宮城縣の都邑) 仙臺市は人口九萬餘。奥州第一の都會にして奥州線の鐵路に當り、宮城縣廳、控訴院、第二高等學校、醫學專門學校、第二師團司令部等あり。

みやぎけんのかいりや—みやぎけんのかいり

伊達氏六十二萬石の舊城地にして、市街は百貨集散商業盛なり。仙臺平、八ッ橋織、埋木細工等を産す。石の巻は北上川の河口にあり人口一萬八千。市街井然、商業繁盛なり。萩の濱は東岸第一の良港にして横濱、函館との間交通繁し。

みやぎけんのへいや (宮城縣の平野) 本縣の中央部は仙臺を中心として、廣漠たる平野にして諸川灌流し、地味肥沃なり。所謂仙臺平野にして古の宮城野なり。古來鈴虫、松虫を以て名高く、歌人文士の詠に上るもの頗る多し。

みやぎけんのち (宮城縣の位置) 宮城縣は福島縣の東北に位し、東は太平洋に面し、西は山形縣に、北は岩手縣に隣す。

みやぎの (宮城野) 所謂仙臺平野にして、古來秋草に名高く、鈴虫、松虫を以て聞ゆ。歌人文士の詠頗る多し。

みやこ (宮古) 陸中の中部にありて、東海岸の

要港なり。

みやこがは (宮古川) 陸中にありて兜明神山に發源し、東流して宮古港に注ぐ。

みやこぐんえり (宮古群島) 沖繩縣に屬し、先島群島中に在り。

みやこのじやう (都の城) 宮崎縣内第一の都會にして大淀川の上流にあり。鹿兒島縣との通路に當り、人口一萬三千餘。高千穂の宮跡なり。神武天皇の御降誕地なりと傳へらる。

みやぎ (宮崎) 宮崎縣廳の所在地にして、大淀川の左岸にあり。もと寂寥の地なりしも、縣廳の所在地となりしより、漸次繁榮に赴きつゝあり。人口凡そ一萬。宮崎宮あり。官幣大社にして神武天皇を祀れり。

みやぎけん (宮崎縣) 日向全國を管す。面積大なれども、人口五十萬に過ぎず。

みやぎけんのかいり (宮崎縣の海岸) 海岸は平直にして出入少く、良港に乏し、僅かに

細島港あるのみ。

みやぎけんのかうつち (宮崎縣の交通) 本縣は未だ鐵道の敷設なし。海岸は良港に乏しく僅に細島、油津の二港あるのみ。汽船は大坂鹿兒島へ交通の便あり。道路は宮崎を起点として大隅に至るもの二條あり。宮崎より肥後の人吉に至る肥後路と、延岡より肥後の馬見原に至るものとあり。又、宮崎より豊後に至る海道あり。

みやぎけんのかりち (宮崎縣の河流) 五箇瀬川は阿蘇山より發源し、北方祖母岳よりする諸水を集めて延岡の右を過ぎ、日向灘に注ぐ大淀川は霧島山に發し、宮崎を過ぎ日向灘に入る。九州東南部の大河にして、その流域山間に平地を形成せり。美々津川 (一に耳川といふ) は流程二十八里。島津義久の兵と大友義鎮の兵と激戦せし所なり。

みやぎけんのかうつち—みやぎけんのかいり

は大分縣、西は熊本縣、南は鹿兒島縣に界し東一帯日向灘に連る。

みやぎけんのかいり (宮崎縣の山岳) 西に九州南部山脈あり。祖母ヶ岳、國見山、市房山、白髮山等屹立せり。就中市房山は直立六千尺あり。九州の最高峯なり。南部に小松山脈あり。小松山、鰐塚山等あり。西南に霧島山、高千穂峯等あり。前者は霧島帶火山脈の盟主にして、後者と共に霧島帶火山なり。

みやぎけんのかいり (宮崎縣の産業) 森林は暖帶南部に屬し林相頗る美なり。杉、櫟、樺等繁茂し、産額毎年百五十萬圓に達し、尙造林の設計中にありといふ。牧畜、亦、盛にしてその飼養する所、牛馬合せて十萬頭に及ぶ。その他白砂糖の産出頗る多し。

みやぎけんのかいり (宮崎縣の山脈) 西方熊本縣との境には、九州南部山脈連りて市房、國見等の峻嶽峙ち、北方大分縣の境に祖

母岳の山脈横はり、南鹿兒島との境に霧島山
聳はて、三面山岳を以て圍繞せり。

みやざきけんのじんこころ (宮崎縣の人口) 人口
の密度は頗る稀疎にして、平均一方里九百七
十餘人とす。

みやざきけんのちせい (宮崎縣の地勢) 西南北
の三面は山岳重疊せるが故に、土地従て高く
東方海面に向ひて傾斜し、平地は極めて少く
して、只、海岸と諸大河の流域に僅に農産地
あるのみ。

みやざきけんのとくあい (宮崎縣の都會) 都城
は大淀川の上流にあり。縣内第一の都會にし
て、人口一萬三千餘。鹿兒島縣との通路に當
り、高千穂の宮の舊跡なり。神武天皇の御誕
地なりと傳へらる。宮崎は大淀川の左岸にあ
りて宮崎縣廳の所在地なり。人口約一萬。も
と寥寂たる土地なりしも、縣廳の所在地とな
りし以來、漸く繁盛に赴きつゝあり。官幣大

社宮崎宮あり、神武天皇を祀る。日平は五箇
瀬川の中流にあり。地勢險峻、人跡未到の地
なりしが、二百三十年前銅山の發見ありしよ
り、漸く人煙を増加するに至れり。五箇瀬川
口に延岡あり。椎茸、紙の産地なり。細島は
縣内唯一の港灣にして、本縣の物産多くこの
處より各地に輸送せらる。

みやざきけんのへいや (宮崎縣の平野) 縣内山
岳多く、平野極めて少し、只、海岸及び諸大
河の流域に、僅かなる平地あるのみ。

みやざきけんのほくちく (宮崎縣の牧畜) 牧畜
盛大にして牛二萬四千九百六十二頭、馬七萬
三千八百三十六頭を飼育す。

みやざきけんのりんさん (宮崎縣の林産) 森林
は暖帯南部に屬するを以て林相頗る美なり。
その主なるものは松、杉、樺、櫟、樅等にし
て總産額百五十萬圓に上り、尙、造林の設計
中なりといふ。

みやざきけんのるち (宮崎縣の位置) 熊本縣の
東部に連り、北は大分縣に、南は鹿兒島縣に
接し、東一帯日向灣に面す。

みやざきのみや (宮崎の宮) 日向宮崎に在り。
官幣大社にして神武天皇を祀る。詣者常に絶
えず。

みやじま (宮島) 嚴島の別名なり。嚴島の部を
見よ。

みやづ (宮津) 開港場の一にして人口九千。山
陰道屈指の良港にして港内水深く、碇泊極め
て便なり。

みやづわん (宮津灣) 丹後與謝半島の東岸に灣
入せる内海にして、與謝海の一部内なり。灣
内に天橋立あり。

みよし (三次) 備後にありて安藝の境に近く、
深霧を以て知らる。

みよしがは (三次川) 備後中部の山間より發し
北流して石見に入り、江川の源をなす。

みやざきけんのおち——むかうじま

みるでら (三井寺) 近江國大津市の西に在り。

園城寺の別名なり。天武天皇の時代の建立に
して南部五山の一なり。源平時代には僧兵の
威頗る盛なりき。天台宗寺門派の本山たり。

弘文帝の子、大友與多王創建、長良山園城寺と
稱せり。寺域七萬五千坪餘あり。二王門、本
堂、唐院、大講堂、金堂、青龍院、熊野社、
勸學院、法輪院その他中院、北院、南院合し
て四十三坊等の堂舎あり。本尊は如意輪觀音
にして、西國三十三所第十四番の札所なり。
三井寺は近江八景の一に列し、風景の絶佳な
るを以て世に名著はる。

む

むかうじま (向島) 一に墨堤といふ。隅田川の
東岸にして、數里の堤上櫻樹連り、花時雜沓

を極む。兩岸に待乳山、淺草寺、梅若、白髭等の名勝あり。

むかふさん(武甲山) 武蔵の秩父山羣中の一峯なり。海拔四千三百二十三尺。

むこがは(武庫川) 兵庫縣攝津國有馬郡の北境小野村に發し、南流して青野川と云ふ。三田を経て東南に流れ卑瀬川と稱す。生瀬に至り生瀬川と云ひ、武庫郡に入り本名を得。大阪灣に注ぐ。

むこさん(武庫山) 一に六甲山と云ふ。攝津の西南に聳れ、海拔三千餘尺。鐵拐ヶ峯、鶴起等、皆、この脈中に在り。

むさし(武蔵) 東海道の一國にして、東南は東京灣に臨み、東は下總に、北は上野に、西及び西南は信濃、甲斐、相模に接し、東京府、神奈川縣、埼玉縣の一府二縣に分屬せり。

むさしの(武蔵野) 關東平野の一部にして秩父山以東、東京灣に至る間をいふ。往昔は寥寂

たる原野にして、只、蘆荻の繁茂に任せたりしが、太田道灌その東隅に居城を構へしより徳川氏覇府を開くに至り、方今人口繁く、村里連りて寸地を餘さず。

むらまつ(村松) 新潟縣に在りて、三條の北東に當れる都邑なり。

むつさんみやく(陸奥山脈) 本山脈は青森縣の下北半島より起り、一旦陸奥灣に没して更に起りて、奥羽地方の中央を南北に縦貫して分水嶺をなす。故に分水山脈の名あり。樺太山系に屬す。

むつわん(陸奥灣) 本州の最北端にして、津輕半島と斗南半島と相對してこれを擁す。灣内の西部を青森灣といひ、東部を野邊地灣といひ、中央の夏泊崎これが境をなせり。

むや(撫養) 阿波にあり。徳島の北に當り人口一万八千。要津にして、齋田嶺の集散地なり。むらかみ(村上) 新潟縣にありて新發田の北に

當れる都邑なり。

むろとぎき(室戸岬) 土佐の東に突出し、西方巖岬岬と相對して土佐灣を抱く。

め

めあかんぢけ(雌阿寒岳) 釧路の北方に峙ち、圓錐狀をなせる山岳にして、海拔四千七百餘尺。四時硫烟を吐けり。

めりかうざん(妙高山) 越後の西南信濃の境にあり。山の東北に赤倉、燕の二温泉あり。

めりきざん(妙義山) 上野の西南に峙つ。薄噴火山が、風雨の浸蝕を受けて成りしものにして、海拔三千八百四十尺あり。山中奇峯怪嶽聳立して異態を極め白雲、金洞、金雞の三峯は最も高きものなり。山頂妙義神社ありて日本武尊を祀る。又、第一石門、第二石門、第

むつさん——むがみ

三石門等の奇勝あり。日本三奇景の一たり。めうこくじ(妙國寺) 和泉堺市にあり。法華宗にして、永祿年間の創建に係る。庭内に蘇鐵あり。海内無比の巨株にして名高し。

めこうち(馬公港) 一に媽宮に作る。澎湖嶋にある瓦泊にして、風波靜穩なるため夏秋の候、支那船の風浪を茲に避くるも多し。澎湖廳ありて開港場たり。

も

めむろぢけ(芽室岳) 日高十勝の國境に聳ゆ。海拔五千八百餘尺、日高山脈中の峻嶺なり。

もろこのひ(蒙古の碑) 福岡縣筑前國博多公園の附近に建設す。元寇紀念の爲に建てたるものなり。

流域に位し、人口三万八千。山形縣廳の所在地にして銅、鐵器、黒柿細工、炭斗梅を産す。もがみかは(最上川)羽後の南境に發源し、北流して米澤、山形の両平野を過ぎ、酒田港に至りて日本海に注ぐ。兩岸處々に絶壁をなし我邦最急流の一なれども、中流以下舟楫の便少からず。

もがみちはら(最上地方)最上川中流一帯の地にして、羽前中部の平野なり。

もがみへいや(最上平野)又、米澤平野と云ふ羽前中部にある最上川の流域地にして、米穀蠶桑に富む。

もじこ(門司港)九州の極北にあり。長門の下關と相對し、その間五町餘に過ぎず。早柄瀬戸即ちこれなり。

もじし(門司市)人口四万餘。開港場の一にして、下關とは僅かに一葦海水を隔つるに過ぎざるが故に、本州と九州との交通の要衝に當

り、且、九州鐵道の起點たるのみならず、南方石炭の大産地を控へ、海には東西往來の汽船必ず關門海峡を通過するが故に、市街の殷盛駁々として發達し、開港以來十年に滿たざるも、その貿易は長崎港を凌駕せんとするの勢あるに至れり。

もじざりいし(文字摺石)岩代福島町の東方岡山村の觀音寺に在り。石の長さ一丈一尺六寸巾六尺九寸、その面欹仄せり、曾て石上に草花を載せ、布を打ちて模様を作りたるものなりといふ。

ものべがは(物部川)阿波の境に發源し、土佐の東部を南流して土佐灣に注ぐ。

ももやま(桃山)伏見の東方にありて豊太閤の薨城址なり。今は廢墟となりて桃樹多く、花時甚だ佳なり。

もんぶしやう(文部省)文部省は教育、學藝に關する事務を管理する官廳にして、その長官

を文部大臣と云ふ。東京市麴町區に設置せらる。

もり(森)渡島五稜廓の北にある要津なり。

もりよしやま(森吉山)羽後の中央にあり。海拔四千八百尺餘あり。

もりをかし(盛岡市)岩手縣廳の所在地にして人口三万三千餘。商業隆盛にして紬、縮、鐵瓶、林檎等の産多し。

もろさき(師崎)尾張知多半島の南端にして、渥美半島の伊良湖崎と相對し、三河灣の口をなす。

もろらん(室蘭)膽振の南海岸にある開港場にして、人口七千餘。石炭の輸出多し。

もろらんこう(室蘭港)噴火灣の東部に於て更に一小灣をなし、港内水深く大船を泊するを得べし。本港は特別輸出港にして水深五仞、東西一里十一町、南北一里、西向、四時風浪の害なく海底錨瓜に適す。附近は鱈の好漁場

もり——やうらうのたま

や

なり。

やいづ(焼津)靜岡の西にあり。日本武尊東征の時、叢雲の寶劍を振ひ草を薙ぎて、賊の火攻を拒ぎ給ひし所なり。

やうらうさん(養老山)美濃の西南に聳ゆ、山中養老の瀧あり。

やうらうのたま(養老の瀧)美濃の養老山中にあり。直下七丈、巾二間、傳へ云ふ美濃に孝子あり、家貧にして父酒を嗜むも、これを進むる能はず、一日山中に入りこの瀧の水を汲みて、父に進めけるに美酒なりきと、元正天皇これを聞き給ひ、山中に行幸してこの名を興へられしといふ。夏は遊客多く、春花秋葉共に佳なり。

やくしだけ(薬師岳)越中の南方に聳ゆる高山なり。乗鞍火山脈に属す。

やくしま(屋久島)大隅に属し、種子ヶ島の西にありて周囲十六里餘。北岸に一湊港あり。

やくちのわたし(矢口の渡)武蔵多摩川の下流(六郷川)の河口を距る二里にあり。新田義興の誘殺せられし所なり。

やくやま(焼山)陸奥斗南半島の中央に聳ゆ。恐山と共に火山なり。越後の西部に屹立せる山岳にして休火山なり。

やぎんはんたり(彌山半島)島根縣出雲國北部に於て、東に突出する半島なり、その東端を地蔵鼻と云ふ。

やしほ(屋島)讃岐五剣山の西麓、海に迫りたる所なり。山姿屋宇に似たるを以てこの名ありと、有名なる源平の古戰場なり。

やす(野洲)琵琶湖の東にあり。東海道鐵道線に當り、湖上漁船ありて水陸の交通に富める

地なり。

やすくにじんじや(靖國神社)東京市麴町區富士見町にあり。別格官幣社。維新前後王事に勤め、殉難者及び陸海軍の戦死者を祀る、東山招魂社これなり。

やろこね(八十越)越後、岩代の國境にありて有名なる峻路なり。

やたいじんやま(矢大臣山)阿武隈山脈中の高峯にして、福島縣磐城國相馬郡の西部に在りその脈は西に延びて岩代國に亘れり。

やたてたりげ(矢立峠)羽後の北境に聳ゆ、青森縣に通ずる唯一の通路なり。

やつがだけ(八ヶ岳)甲斐の北、信濃の境に聳ゆ。富士帶火山脈の熄火山なり。直立九千百十六尺あり。

やつしろ(八代)肥後にあり。球摩川の河口に當り。人口一万餘。人吉まで舟楫の便あり。やつしろかい(八代海)肥後宇土半島以南の海

上にして、一種の小虫ありて秋夜燐光を海面に放つ。世にこれを不知火といふ。肥後の國名これに基くといふ。

やつしろのみや(八代の宮)肥後八代にあり。征西將軍愷良親王を祀れり。

やながせ(柳ヶ瀬)近江國伊香郡片岡村にあり北陸線の驛を置く。天正十一年柴田勝家、佐久間盛政をしてこゝに陣せしむ。

やながは(柳河)筑後矢部川の下流に在り。立花氏十二万石の舊城地にして、久留米に次げる都會なり。

やなるづはんたり(柳井津半島)周防の東南部に突出せる半島なり。傍に大島横はれり。

やはきがは(矢作川)三河の西部を流れ衣ヶ浦に注ぐ。流程三十二里。

やほけい(耶馬溪)豊前山國川の上流にして長溪數里に亘り、兩岸の奇石怪巖は、流水これを浸蝕して、愈、景勝を添ふ。本邦三奇景のやつしろのみやーやひこやま

一なり。やはたはま(八幡濱)愛媛縣の西岸にある港にして、九州へ渡る要津なり。

やはたせいてつじよ(八幡製鐵所)筑前若松港の對岸にあり。規模宏大にして人目を驚かすに足る。

やはすやま(矢筈山)伊豫、土佐の國境に聳ゆる高峯なり。讃岐國大川郡の南端にあり。

やへがだけ(八重ヶ岳)大隅の屬島屋久島の中央に聳ゆ、海拔六千三十餘尺あり。杉の良材硯等を産す。

やへやまぐんたり(八重山群島)沖縄縣先島群島中にありて石垣島、西表島等最も大なり。

やひこじんじや(彌彦神社)新潟縣越後國西蒲原郡彌彦山の南に在る著名の神社なり。

やひこやま(彌彦山)越後國の日本海岸に近く聳ゆる熄火山にして、寒風火山脈に屬せり。

やまが (山鹿) 肥後の北部にある郡邑にして、温泉場あり。

やまがたけん (山形縣) 羽前一圓 (二市十郡) と羽後一郡を管し、縣廳は羽前國山形市に置く。やまがたけんのかりつり (山形縣の交通) 官設奥羽線は本縣を南北に貫き全通せり。道路は米澤市を起點として、福島縣に至る若松路あり。山形より羽前に至る笹谷越、鶴岡に達する六十里越、秋田縣に出る羽後街道等あり。

やまがたけんのかりう (山形縣の河川) 最上川は縣の南境大日岳に發源し、上流を松川と稱し、小黒川、鬼面川等を併せ、杉山に至りて最上川と稱す。幾多の細流を合して新庄の南より西流し、酒田港より日本海に注ぐ。流程六十里。上流は兩岸處々絶壁をなして、河床峻峻、水勢極めて猛烈にして、日本三急流の一と稱す。濁さ十三町に達する所あり。實に山形縣の大動脈にして、鐵道未だ開通せざり

し頃は、鳥海火山脈以東の平野に産する米穀も、皆、この河流によりて運搬せられ、吐口に在る酒田港に集り、流域幾方の住民の需要品も、亦、酒田よりこの川の便によりて集散せられたり。

やまがたけんのきやうかい (山形縣の境界) 東は宮城縣と脊を合せ、西は新潟縣に續き一部日本海に面す。南は福島縣に接し、北は秋田縣に隣す。

やまがたけんのさんかく (山形縣の山岳) 東境は那須火山脈北より南に走りて三峯山、藏王山等を起せり。これと並行して北より南に來れる鳥海火山脈は、北境にその盟主たる鳥海山を起して中部に入り、月山を起せり。朝日嶽、飯豊山の諸山もこれより南に連り、新潟縣の境を限り、福島縣の西北に達せり。

やまがたけんのさんみやく (山形縣の山脈) 那須火山脈は東境を北より南に走り、これと並

行して縣の中央部を南北に走れる鳥海火山脈あり。鳥海山はその盟主たり。

やまがたけんのちせい (山形縣の地勢) 本縣は群山連亘せるより、山地と平地との割合七と三との如し。南境より最上川の流るゝも、中流に於て鳥海山脈の横れるを以て、地勢自ら二つに分れ、各一の平野をつくる。即ち一は最上地方にして最上川の中流地方なり。一は庄内地方にしてその下流庄内地方なり。

やまがたけんのでつたう (山形縣の鐵道) 鐵道奥羽線は秋田縣より來り、本縣を縦貫し板谷峠の大隧道を過ぎて、福島縣に通せり。

やまがたけんのとくわい (山形縣の都會) 山形市は人口三万三千餘を有し、縣廳所在地にして縣下第一の都會なり。

米澤市は人口三万二千餘、人家櫛比市街繁盛山形に次げり。養蠶及び機業甚だ盛なり。酒田は人口二万餘。最上川口にあり。船舶の

やまがたけんのかい——やまがたし

碇泊には便ならざるも、最上川流域地方の咽喉たり。且、日本海航行の船舶の寄泊する所にして、百貨の集散盛に商業活潑なり。

鶴ヶ岡は人口二万を有し、庄内平野の中央に位し、商工、稍、盛なり。新庄も、亦、殷賑の都會なり。人口一万二千あり。

やまがたけんのぶつきん (山形縣の物産) 五穀蠶種、生糸、絲織等を産し、殊に薄荷の産は我國第一とす。

やまがたけんのあち (山形縣の位置) 秋田縣の南に位し、東は宮城縣に接し、南は福島に連り、西は新潟縣に續き一部海に面す。

やまがたし (山形市) もと最上と稱せし地にして、人口三万三千餘を有し、山形縣廳、地方裁判所の所在地にして、縣下第一の都會なり。東方笹谷峠を越えて、仙臺市に通ずる道路あり。

やまぐち(山口)人口一万七千餘。大内氏の居城たりし時は繁盛なる都會なりしも、その後衰微し毛利氏この地に牙城を置くに及び、再び繁榮に赴き、山口縣廳及び高等商業學校あり。

やまぐちけん(山口縣)周防、長門の二國を管す。

やまぐちけんのかいがん(山口縣の海岸)沿岸は出入多く、室津半島その東南に突出して、周防灘と安藝灘とを分ち、西に徳山、三田尻等の港灣ありて下關に至る。この近海は瀬戸内海中、最も島嶼少き所なり。下關と九州の間は僅かに五町餘にして、早柄海峡と稱し潮勢甚だ急なり。下關より川尻崎に至る沿岸は古代岩混亂して、出入繁く嶋嶼多し。南瀬戸内海に面する地は、製鹽業の盛なること本邦第二に位す。

やまぐちけんのかうつち(山口縣の交通)山陽

鹽業の盛なること本邦第二とす。産額百萬石價百十萬圓に上れり。漁業甚だ盛にして鯛、鰹等の産額多し。漁業の全産額は二百二十萬圓に上れり。

やまぐちけんのちせい(山口縣の地勢)本縣は中國山系の起點にして山嶽重疊し、徳佐峯近傍に於て最高く南北に傾斜せり。地勢かくの如くなるを以て平野少し。

やまぐちけんのでつち(山口縣の鐵道)山陽鐵道線は廣島縣を経て本縣に來り、岩國、三田尻等を過ぎて下關市に終れり。九州鐵道とは連絡汽船によりて通せり。支線は厚狹驛より分岐して北に走り、大嶺に至れり。

やまぐちけんのとくわい(山口縣の都會)三田尻は周防第一の良泊にして人口三千餘。中國航海の汽船常に寄港し、貨客輻輳せり。山口は人口一萬七千。大内氏の居城たりし時は繁盛なる都會なりしも、その後衰微し毛利

やまぐちけんのちせい—やまぐちには

鐵道線は廣島縣を経て來り、岩國、三田尻等を過ぎて下關に終り、九州鐵道とは連絡汽船によりて通せり。

下關港は東西汽船通行の要衝となり、神戸以西第一の要津なり。

やまぐちけんのかりち(山口縣の河流)重なる河流は岩國川、佐渡川、阿武川等にして前者は南流し、後者は北流せり。

やまぐちけんのみやうかい(山口縣の境界)東は島根、廣島の二縣に連り、北及び西は日本海、南は瀬戸内海に臨む。

やまぐちけんのおんがく(山口縣の山岳)本縣は中國山系の起點にして、山嶽重疊し、徳佐峯近傍の地にて最も高し、鬼城山西にあり、權現山は中央に位し、碁盤嶽、徳佐峯はその東に屹立せり。

やまぐちけんのおんげふ(山口縣の産業)農業を主なる業とす。南瀬戸内海に面する地は製

氏牙城をこの地に置くに及び、再び繁榮に趣き、山口縣廳、高等商業學校等あり。

萩は人口二萬に近く日本海に面し、阿武川に跨る。山口を距る九里、隧道を開き車馬を通ず。夏蜜柑を産す。

下關市は人口四萬三千。開港場の一なり。北に丘陵を負ひ、南は門司と僅かに五町餘の海峡を隔て、相對し本州の咽喉を扼せり。東西汽船の通行要衝となり、神戸以西第一の要津たり。

やまぐちけんのるち(山口縣の位置)廣島縣及び島根縣の西に連り、本州の西端を占む。

やまぐちけんのは(山口縣)英彦山に發源し周防灘に注ぐ。この川の上流數里の間、所謂耶馬溪にして、上州の妙義山と同じく、凝灰岩の水蝕作用を受けたるものより成り、奇石怪岩屹立し、流水これを浸蝕して愈々景勝を添ふ。本邦三奇景の一にして、瀬山陽の海内第一と

稱せしも過言にあらざるべし。

やまざき (山崎) 山城國乙訓郡にあり。淀川に臨み天王山を後にし男山に對す。水陸運漕の衝に當り、兵家必争の險要なり。天正十年六月、羽柴秀吉、明智光秀との地に戦ひてこれを破れり。

やましろ (山城) 單稱して山州、城州と書く今の山城にして京都府下なり。もと山背と書きしが、桓武帝新都をこの地に經營し、改めて山城と稱す。この國山河襟帶自然城を作すに因るとぞ。

やましろ (山代) 石川縣加賀國江沼郡にある温泉なり。大聖寺の東南一里半に位す。温泉の質は鹽類泉にして、九谷焼の窯元あり。

やまと (大和) 倭、大倭、時として日本、日本の字を用ゐる。今の奈良縣大和國にして、一市十五郡あり。

やまとがは (大和川) 上流を初瀬川といふ。二

源あり。共に大和國の東部に發し、相合して西流し、大阪府河内の中央を西流し和泉、攝津の境に至り大阪灣に注ぐ。流程十三里。瀧の便あり。

やまとがはのへいびん (大和川の平原) 大和川の流域地にして、畿内二大平野の一なり。地味頗る膏腴にして、米穀、綿等の産出夥し。

やまとしゆぞく (大和種族) 言語、風俗、思想を一にし、その多くは初め九州地方より起りて、次第に他の種族を征服し、終に我帝國を建てたる最有力の種族にして、國民の要部を占むるものなり。

やまなか (山中) 石川縣加賀國大聖寺町の二里半東南にある温泉地なり。その間馬車鐵道を通ず。温泉の質は鹽類泉にして百八十度の溫度なり。漆器を産す。

やまなかこ (山中湖) 山梨縣南都留郡中野村に在り。周圍三里十八町餘。桂川の源流にして

富士八湖の一なり。太古駿河灣は甲斐に灣入し、甲斐の北方より下る河流は直ちに海に注ぎしが、富士山の噴出によりて流口を遮られ

初めは富士の北麓を繞りて、半月形の湖水を蓄きしが、その後噴出物に遮られて分離し、今日の如く七湖を成すに至れ。(り富士八湖の中、芦の湖の成因はこの中に入らず)。

やまなしけん (山梨縣) 甲斐全國を管し、縣廳を甲府市に置く。

やまなしけんのかりつら (山梨縣の交通) 鐵道

は官設中央線東京府八王子に於て、甲武線に接続し小佛峠を超えて本縣に入り、全長一万五千尺なる笹子峠の隧道を過ぎ、甲府市を貫きて韮崎を經過し長野縣に入れり。本鐵道は尙、信濃諏訪湖の附近に出で鹽尻に達し、茲に信州篠の井線に接続し、一方名古屋より來れる中央西線に接続する工事中なり。富士川の上流に鯉澤あり。甲府より馬車鐵道

やまなしけん——やまなしけんのくわうさん

の便あり。これより以下舟楫の便ありて吐口まで十八里、半日にして達す。

やまなしけんのかりつら (山梨縣の河流) 富士川

は駿河、甲斐の二國に關する大河にして笛吹川、釜無川、芦川の三水、甲斐の西八代郡の北境、市川大門町と同國中巨摩郡の東南端忍村の間にて相會し、始めて本川の名あり。南流して許多の諸川を合し、東南に轉じ駿河國に入り駿河灣に注ぐ。二十二里の間貨物旅客を輸送し得べし。日本三急流の一に數へらる。桂川は山中湖に發し、東北に流れて神奈川縣に入り、馬入川となりて相模灣に注ぐ。

やまなしけんのさやうかい (山梨縣の境界) 東は東京府及び神奈川縣、南は静岡縣、北より西は埼玉縣及び長野縣に接す。

やまなしけんのくわうさん (山梨縣の礦産) 金山より盛に水晶を出す。透明六角柱の結晶にして、その結晶の大なるものは數尺に及

やまなしけんのさんかく——やまなしけんののうさん

三五

へるものあり。純粋なる透明無色、清澄水の如く、その他黄水晶、紫水晶、黒水晶等あり。
やまなしけんのさんかく(山梨縣の山岳)日根山、駒ヶ嶽等は西に聳じ、八岳、金峯山、國師山、甲武信岳は北部に聳じ、南には富士山身延山、七面山等あり。東に關東山脈の諸山あり。

やまなしけんのさんびふ(山梨縣の産業)土地肥沃、桑楮の栽培に適するを以て、養蠶業盛にして生糸、絹織物の産多し。縣下絹織物の産額五百万圓に達す。葡萄の栽培も盛にして勝沼附近は甲州葡萄の本場なり。葡萄酒を醸造す。鑛業は北部に水晶を産出す。

やまなしけんのさんみやく(山梨縣の山脈)關東山脈は東境にあり。赤石山脈は西境にあり。富士帯火山脈は本縣を南北に貫けり。
やまなしけんのつづら(山梨縣の鐵道)山梨縣の交通を見よ。

やまなしけんのちせい(山梨縣の地勢)本縣は西に赤石山脈藩屏をなし、東は關東山脈の迫れるあり。南は富士山の高嶺を控へ、その餘派はひいて北境、八ヶ嶽に至る。斯の如く山岳縣の四周を圍繞して、中央は盆地をなせり。

やまなしけんのとくわい(山梨縣の都會)甲府市は縣の中央に位し、人口三万三千。縣廳の所在地にして物貨の集散多く、東京を距る三十五里、鐵道の便あり。
猊澤は富士川の上流にあり。甲府より馬車の便あり。これより以下舟掛の便あり。
猿橋驛は人口四千二百。甲州街道の要驛にして、商業盛なり。桂川に臨む。猿橋は奇橋を以て名あり。

やまなしけんののらさん(山梨縣の農産)土地肥沃にして桑楮に適す。養蠶業盛にして生糸の産夥し。葡萄の栽培も盛にして、本縣の特産物なり。葡萄酒、甲斐絹の産額莫大なり。

やまなしけんのへいや(山梨縣の平野)本縣は四周山岳にして、中央は楕圓狀の盆地をなせり。甲府附近は小平野をなし、地味肥沃なり。

やまなしけんのあち(山梨縣の位置)靜岡縣の北に隣し、東は東京府、神奈川縣に、北は埼玉、長野の二縣に接す。

やまのて(山の手)東京市西北部は丘陵起伏して盆地をなせり。これを山の手と稱す。他の低部を下町と稱す。山の手に對する稱なり。邸宅多し。

やまのてせん(山手線)日本鐵道山手線は、東海道線と奥州線とを接続するものにして、赤羽停車場にて奥州線に接し、東京市の西北を巡り、品川驛にて東海道線に接続せり。

やまものたき(楊梅瀑)近江國滋賀郡小松山にあり。直下二十二丈七尺、幅三間餘。下流荒川となりて湖に注ぐ。

やりがたけ(鎗ヶ嶽)長野縣の西境、飛驒の境やまなしけんのへいやーゆきくらがたけ

に聳ゆる高山にして、乗鞍嶽の北に在り。松本より四日程にて登山するを得。全山花崗岩より成り、奇勝頗る多し。直立五千五百五十尺。



ゆあさ(湯淺)和歌山縣紀伊の西北部にある都會にして醬油の名産あり。

ゆらつぶたけ(遊樂部岳)北州渡島の北部にある山岳にして、五千百尺の高さあり。

ゆがしま(湯ヶ島)熊本縣肥後國天草郡に屬し大矢野島の西一里余にあり。周圍三十一町。人口稠密なり。

ゆきくらがたけ(雪倉ヶ岳)富山縣下新川郡の東北境に位し、東方新潟縣に跨る。その南に蓮華山峙てり。

三五

ゆだけ (湯岳) 福島縣磐城國東海岸に聳ゆる山なり。

ゆどのざん (湯殿山) 山梨縣羽前國鶴ヶ岡の東南に在り。頂上に湯殿神社あり。月山羽黒山と合して羽後の三山と稱す。夏秋の候諸國より參詣するもの數万人に及ぶ。

ゆどのじんじや (湯殿神社) 羽前國東田郡湯殿山に在り。國幣小社、大己貴命、少彥命、大山祇神を祀る。

ゆのみねくわらせん (湯の峯鑽泉) 和歌山縣紀伊の熊野川の支流なる、湯の峯川の崖下に涌出す。光明湯は硫黄泉に、玉の湯は炭酸泉に、小栗湯は鹽類泉に屬す。その効驗多少差異ありといへども、皆、よく病痾を醫す。傳へ云ふ崇神天皇の朝、大阿力宿禰の發見したるものにして、文武天皇以下譯を駐めさせ給ひしこと多し。

ゆみがだけ (由布ヶ岳) 豊後國速見郡にあり。

鶴見嶽の西に峙てる活火山なり。直立六千五百尺。九州第一の高峯にして、豊後富士の稱あり。

ゆふき (結城) 千葉縣の西北端にあり。人口一万余。商業甚だ盛にして結城紬の産額多く、染色鮮麗を以て汎く人に知らる。この地の附近は一帶に木綿を産すること夥し。

ゆふぼりざんみやく (夕張山脈) 北州石狩國石狩川の支流、空知川の上流地方にあたり西方にある山脈なり。

ゆふぼりだけ (夕張嶽) 北州石狩國にあり。夕張山脈中の最高峯なり。

ゆふぼりたんざん (夕張炭山) 北州石狩國夕張嶽の南部に在り。概ね第三紀層に屬して、炭質堅緻なれば粉粹することなく層位整正し、石炭煤田中第一位を占むべし。

ゆみがはま (弓ヶ濱) (夜見ヶ濱) 鳥取縣伯耆國の西北に突出する半島にして、海中に斗出す

あり。

ゆらだけ (由良岳) 京都府丹後の南部由良川の左岸にあり。一に丹後富士と稱す。

ゆるがはま (由井ヶ濱) 神奈川縣の東南岸なる稲村ヶ崎の東方、滑川口に至る海濱にして鶴岡八幡の前方に在り。頼朝が千鶴を放ちたるこゝ、鎌倉武士の演武所たりしこと、和田義盛が源家の爲に奮戦し、屍を平砂に暴したることによりその名を知らる。白砂遠く相連り、風景頗る佳なり。

よ

よいち (余市) 北州後志國小樽の西にあたり、海岸にある小都會なり。

よこすが (横須賀) 神奈川縣三浦郡三浦半島の東岸にありて、東京灣に臨む。第一海軍鎮守

ること五里、幅廣き所一里。日野川と外海との作用になれる白洲にして、翠松蒼々密林をなし、その民家の斑點するを見る、風光絶佳詩人は天橋立に比し大天橋と稱せり。又弓形をなせるが故に、一に弓ヶ濱の名あり。

ゆら (由良) 兵庫縣淡路國の東部に在り。由良海峽に臨めり。この所に砲臺を設け瀬戸内海を扼せり。

ゆらかいけふ (由良海峽) 紀伊の西北端と淡路の東端の間にある海峽にして、瀬戸内海を扼せり。昔ヶ島(二島あり、友ヶ島とも書く)はこの海峽にあり。故に昔ヶ島海峽の稱あり。

第四師團の要塞砲兵はこの海峽を守れり。ゆらがは (由良川) 京都府丹後に在り。上流を和知川と稱し、源を丹波近江の境なる盤谷に發し、福知山に至りて福知川(音無瀬川)と云ひ、丹後に入りて大川と稱せられ、山陰道第二の長流にして由良港に注ぐ。流程二十余里

府の所在地にして、我國軍港中最も完備せるものなり。東洋無比の造船所、海軍機關學校、海兵團の設あり。灣内水深く安全なる軍港なり。その管轄區域は、海軍區を参照すべし。

よこすかせん (横須賀線) 官設東海道線の一驛たる大船驛より分岐して東南に走り、三浦半島の東岸なる横須賀に達するものなり、この中間に二驛を置く。

よこで (横手) 秋田縣羽後國の東南、陸中に出る要路にあり。生糸綿布を産す。附近の金澤柵趾は史上有名なり。

よこのこ (余吾の湖) 滋賀縣伊香郡伊香具村なる賤ヶ岳の北麓にありて、下流は余吾川となりて琵琶湖に入る。周圍一里十七町、東西十二町、南北十八町の小湖なるも、賤ヶ岳の役に関し有名なり。

よこはまし (横濱市) 神奈川縣武藏にあり。東京を距ること八里餘。人口三十萬。我國第一

の開港場にして、本邦第六の大都會なり。地形は本牧岬出で、灣口を扼し、風波を遮り、背後は固むに一帶丘陵を以てし、港内深き八切乃至十一切にして、船艦の碇泊安全なり。市内には縣廳、税關等あり。

よこはましのひんかく (横濱市の沿革) 今より凡そ四十年前までは金川字横濱と稱し、葦蘆風に戦々一漁村たりしが、安政六年開港以來丘陵を削り、海を埋め新道を開き、鐵道を布き、市區を修理し幾多の改築工事を施したれば、街衢端正今日の盛況を見るに至れり。

よこはまのからつら (横濱市の交通) 陸には鐵道の東京より西に通ずるあり。海には船舶の出入常に絶へず。遠くは香港、新嘉坡、馬耳塞、倫敦、紐育及び桑港、南洋諸島等到處に定期航海あり。

よこはましのほうにき (横濱市の貿易) 貿易甚だ盛にして、輸出品額常に輸入品額より超過

せり。輸出品の主なるものは生糸、羽二重、茶、銅等にして、輸入品の主なるものは砂糖、棉花、諸器械、雜貨等とす。輸出原價一億三千萬圓に上り、本邦貿易輸出品額の二分の一強を占む。

よこのらみ (興謝の海) 京都府丹後の國の東端成生岬と、西端興謝半島なる鷺岬とに包まれ深く陸地に灣入す。内海中東には無鶴、西に宮津の兩灣を抱く。中央に由良港を有す。

よさんわん (豫讃灣) 伊豫國の東北にある灣にして、東は讃岐、西部海岸を以て限る。この灣は楚灘とも稱す。

よしだ (吉田) 廣島縣安藝國高田郡にあり。人口四千四百。毛利氏勃興の故邑にして、今、尙城趾遺廟あり。

よしのがは (吉野川) 阿波にあり。一名西國三郎と云ふ。源を瓶ヶ森山に發し、土佐の北方を東流すること十五里、更に阿波に入り

よこのらみ——よしののさんせん

て伊豫川を合せ、東流すること二十六里、四國第一の大河なり。河口は四派に分れ數個の三角洲を作りて撫養海に入る。舟楫の便多くその灌漑地は良好なる農産地にして、藍の産名高し。吉野川は奈良縣の吉野郡大臺ヶ原山に發し、南より廻り來りて吉野郡の北方を帶し、紀伊に入りて紀の川となる。鮎の産著名なり。

よしのさんざん (吉野群山) 大和の、稍、南部に位し、山脈四方蟠延して金峯、大峯、稻村小孫、國見、七面、釋迦、山上、大日ヶ岳等の十二峯より成る。その中最高峻なるを彌山とす。直立六千七百尺。古來櫻花を以て著はれ、又、史上の事蹟を以て知らる。

よしのさんせん (吉野の三川) 吉野川は大台ヶ原山に發して吉野郡の北方を帶し、紀伊に入りて紀の川となる。北山川は源を大台ヶ原山に發し、南流して東

南隅を流れ、紀伊に入りて熊野川となる。十津川は源を山上ヶ岳に發し、屈曲して西南に流れ、西方の山間を迂回して紀伊に落ち、北山川と合して熊野川となる。

よしのやま (吉野山) 奈良縣吉野郡に在り。多武峯を南して吉野川を渡りし所にあり。南朝の皇居ありし地にして、吉水神社、如意輪寺、醍醐帝の御陵等あり。この山は櫻の名所として汎く人に知らる。吉野山とは金峯山より吉野河岸に至る總稱にして、初程の櫻を一目千本といひ、山腹の櫻を奥の千本といふ。

よしのがは (吉井川) 東大川。又、大寺川と稱す。岡山縣の東部を流る、河なり。美作の溪間に發源して津山川といひ、幾多の支流を集めて南流し、兒島灣に注ぐ。流程二十七里。下流七八里の間舟筏を通す。

よつかいちし (四日市市) 三重縣桑名の東南伊勢灣に臨める港にして、人口約三萬。港内水

深く海陸交通の便よろしく、開港場の一たり北勢第一の都會にして、その萬古焼は元祖たる桑名を凌ぎて名高く、又、綿糸の産多し。

よど (淀) 京都府久世郡の西北隅淀川に臨む。人口二千一百餘。舊稻葉氏の城地にして、西北に城趾あり。史上有名なり。

よどがは (淀川) 淀川は源を琵琶湖に發し、上流を宇治川と稱す。源流は、近江の勢多川にして、畿内東境の山間を貫き、山城の製茶地方に流れ、西に轉じて鳥羽に至り、丹波より來る桂川を合せ、淀町に至りて木津川と會し淀川となりて攝津河内の境を流れて、大阪に至りて安治、木津、尻無等の諸川に分れ大阪灣に入る。流程二十里。流域甚だ長からざれども、河身廣大にして舟運の便、灌溉の利甚だ多し。淀川の改修は築港と、もに、その便益の大知るべきなり。

よなご (米子) 伯耆の夜見ヶ濱の脚南に位して

中の海に臨み松江、境の間には日々汽船の往來ありて海運の便よろしく、商業盛なり。人口一萬六千。

よぬやま (米山) 越後の刈羽郡の西境に位する消火山にして、彌彦火山脈に屬せり。直立三千三百尺。

よぬさはし (米澤市) 山形縣の東南にあり。人口三萬二千。市街の盛なること山形市に次ぐ工業は米澤系織業盛なり。附近は養蠶甚だ盛なり。

よぬさはいや (米澤平野) 羽前の最上川の流域地にして、米穀、蠶桑に富む。

よぬしろかは (米代川) 能代川とも云ふ。源を陸中羽後の境より發し、西流して、南より下れる大阿仁川を併せ、能代港に注ぐ。流程二十五里。河口より上流の大館まで舟通ず。

よびひき (豫備役) 現役を終りたるものこれに服す。陸軍にありては四年四ヶ月、海軍にあ

よねやま—らいでんがたけ

りては滿三ヶ年とす。

よみがはま (夜見ヶ濱) 伯耆の西北に斗出する半島なり。詳しくことは、**よみがはま**の所を見よ。

よみはんたう (夜見半島) 伯耆の西北に斗出する半島にして、島根半島と相對して中の海を包む。その北方に境港あり。**よみがはま**参照。よる(夜) 地球の自轉するにあたり、太陽に面せざる方を夜と云ふ。

ら

らいくわりのたき (來光瀧) 阿波國三好郡井内谷村にあり。二層に落つ。上層高さ十八尺、幅一間。下層七丈二尺、幅八間。

らいでんがたけ (雷電岳) 後志國岩内郡敷島内村の南方にあり。直立三千二百五十尺。

らいまんかいりり (來滿海流) オホーソク海に
 起り間宮海峡を過ぎ、日本海の西北岸を流れ
 朝鮮海峡より東海に入る。
 らうたいだに (期詠谷) 山城國愛宕郡岩倉村字
 長谷の山中にあり。昔時大納言公任卿幽栖の
 地たり。卿曾てこゝに居て、和漢期詠集を撰
 したるを以てこの名あり。
 らかんざん (羅漢山) 因防國玖珂郡の東北端に
 位す。直立三千九百二十尺。
 らつぎべつだき (刺鬼別瀑) 千嶋國薩取郡薩取
 村にあり。海に注ぐ。高さ五十四丈、幅二間。
 らんざん (嵐山) おらしやまに同じ。

り

りらがさき (龍ヶ崎) 茨城縣常陸國にあり。木
 綿の産地なり。

りらきう (琉球) 九州の西南海中に羅列する諸
 嶋にして、沖縄縣の管轄に屬す。
 りらきうのめんせき (琉球の面積) 百五十七方
 里ありて、その周圍三百十五里。全帝國の百
 分比例は、〇、七に當る。
 りらきうれつたり (琉球列嶋) 鹿兒島に屬する
 薩南諸島と、臺灣島との間に羅列する五十餘
 の島嶼を云ふ。
 りらこ (龍湖) 臺灣の中央にあり、一に水社湖
 と云ふ。南北一里、東西半里許。周圍は鬱蒼
 たる森林に蔽はれ、海拔二千三百尺の高處に
 位す。湖中一島ありて風景頗る佳なり。
 りらもんざん (龍門山) 和歌山縣の西北、紀の
 川の南岸に聳ゆる山岳にして、紀伊富士の稱
 あり。
 りく (陸) 地球の表面は陸と水とより成りて、
 その水に被はれざる處を陸地と云ふ。陸の大
 なるものは大陸と云ふ。陸の小なるものは島

と云ふ。

りくぐん (陸軍) 陸軍は歩兵、騎兵、砲兵、工
 兵、輜重兵、憲兵、鐵道隊、軍樂隊等とし、
 各これに將官、佐官、尉官、下士、兵卒等の
 差等あり。參謀本部ありて、國防及び用兵の
 事を掌る。全國を十二管に分ち、每管に一師
 團を置く。外に近衛師團あり。
 りくぐんしくわんがつかう (陸軍士官學校) 陸
 軍の士官を養成する處にして、東京市牛込區
 に設置す。
 りくぐんしやう (陸軍省) 陸軍や政を管理し、
 陸軍や人軍屬を統轄する官署なり。その長官
 を陸軍大臣といふ。東京市麹町區に設置す。
 りくぐんたいがつかう (陸軍大學校) 東京府下
 東京市赤坂區青山に設置す。
 りくぐんのとらきふ (陸軍の等級) 陸軍には將
 官、佐官、尉官、下士、兵卒の等級あり。
 りくぐんのはいち (陸軍の配置)

りくぐんーりくぐんのはいち

師團	司令部所在地	旅團	司令部所在地
近衛	東京	第一	東京
第一	東京	第二	仙臺
第二	仙臺	第三	名古屋
第三	名古屋	第四	大阪
第四	大阪	第五	廣島
第五	廣島	第六	熊本
第六	熊本	第七	石狩國 上川郡
第七	石狩國 上川郡	第八	弘前
第八	弘前	第九	金澤
第九	金澤		

第十 姫路 第二十八 福知山
 第十一 善通寺 第二十二 松山
 第十二 小倉 第二十三 善通寺
 大村
 りくぐんへいしゆ (陸軍兵種) 歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵、憲兵、鐵道隊、軍樂隊。
 りくせん (陸前) 宮城縣の管する國にして、一市十三郡あり。この他に氣仙郡あり。岩手縣に屬す。
 りくちち (陸中) 岩手縣の管する國にして、一市十一郡あり。
 りしりたり (利尻島) 北州北見國に屬する島なり。宗谷海峽の近海にあり。練漁盛にして島中の利尻山は、北見富士の稱あり。航海者の目標とする島なり。
 りつけんくんしゆせいいたい (立憲君主政体) 東洋唯一の立憲君主政体たる我國の政治は、立

法、行政、司法の三大部に區別し 天皇は國家の元首として、その大權を總攬し給へり。立法部は帝國議會と稱し、貴族院と衆議院とより成る。
 りつぽふぶ (立法部) 帝國議會と稱し、別ちて、貴族院、衆議院となし、凡て法律及び豫算は兩院の協賛を経て弘布する制にして、毎年一回 天皇の大命によりて開會す。
 りつりんこうあん (栗林公園) 香川縣高松市の北に在り。面積十六萬五千餘坪。叢林四方を圍み、紫雲山南に聳え、池中水を湛へて奇岩珍石交錯して、海内屈指の名園なり。
 りやちせん (磯山) 岩代、磐城の境に在りて福島島の東に位す。北島顯家の城址にして斷崖數百丈、山上に靈山神社あり。顯家を祀る。
 りやちもりせん (両毛線) 日本鐵道の両毛線は上野の前橋より東に走り、下野の小山に至り奥州線に會するものなり。この間に十三の停

車場を置く。
 りよだん (旅團) 旅團は二個集りて一個の師團を成す、陸軍の團隊なり。一旅團は二聯隊より成る。

る

るべつがは (流別川) 一に留別川に作る。千嶋國紗那郡の東端にあり。
 りりざん (瑠璃山) 安房國安房郡なる鋸山の別稱なり。
 るるもつべ (留萌) 北州天鹽國の西南岸にあり。鮭、鯨の漁場を以て著はる。
 るるもつべがは (留前川) 天鹽國留前郡の南部にあり。源を幌尻山に發す。流程十四里餘あり。

りよだん——れんだいじをんせん

れ

れいざん (靈山) 近江國犬上郡にあり。直立三千百八十尺。南靈山、中靈山、北靈山の三峯に分る。
 れいじやがたき (靈蛇ヶ澤) 三重縣伊賀國名賀郡なる赤目四十八瀧の一なり。
 れういがは (了意川) 攝津國東成郡なる平野川上流の稱なり。
 れぶんたり (禮文嶋) 北海道宗谷岬の北方にあり。北見の風鳴なり。練漁盛なり。
 れんげざん (蓮華山) 越後國西頸城郡の西南隅に位す。直立九千九百尺あり。信濃、越中の二國に跨る。
 れんこ (蓮湖) 山城國なる巨椋池の別稱なり。
 れんだいじをんせん (蓮臺寺温泉) 伊豆國賀茂

郡にあり。泉、塩類泉にして治効甚だ多し。れんりのたき（連理の瀑）大阪府攝津國豐能郡細川村にあり。

ろ

ろくがらぎき（綠剛崎）石川縣能登半島端にあり。燈臺を設く。この邊は岩礁最も多く、航行危険なる所なり。

ろくかふさん（六甲山）武庫山とも云ふ。中國山脈の一山なり。兵庫縣攝津國武庫郡の北境に位し、北方有馬郡に跨る。直立三千三十九尺。この脈遙に西して摩耶山に連亘す。又、山間に窟あり。譚葉窟といふ。近傍に譚葉多きを以て斯く名く。土人歳末に及べば、その葉を採りて新年の飾に充つ。登行五里。ろくところ（鹿港）壱灣の西岸にある開港場にし

て、清國福建省の泉州に對し、大陸最近の良港なり。彰化に近きを以て貨物の集散甚だ盛にして、西部商業の中心たり。支那船常に往來して樟腦を輸出すること夥し。人口一萬八千三百。

ろくじふりこみ（六十里越）新潟縣越後國と福嶋縣岩代國との境にある有名なる峻路なり。ろくたいしう（六大洲）亞細亞洲、亞弗利加洲、歐羅巴洲、大洋洲、南亞米利加洲、北亞米利加洲、これなり。

わ

わいふ（隈府）熊本縣肥後國の北部菊池川の上流にあり。菊池神社を以て著はる。この神社は勤王の忠臣、菊池氏代々の靈を祀れる所なり。

わかのうちら（和歌の浦）紀伊國海草郡にありて和歌山市の南に位す。延長二里許。日本三景に次ぐべき勝地なり。名草山その東に築は、洲崎その前面に横はり風光明媚なり。聖武天皇この地に行幸して、明光浦の稱を給へりと云ふ。萬葉集に

和歌の浦に潮満來ればかたをなみ

あしへをさして田鶴なき渡る

わかまつ（若松）福岡縣筑前の東北にあり。人口一萬六千。筑豊の石炭を輸出すること多く市街繁盛なり。その對岸に入幡製鐵所あり。規模宏壯、人目を驚かすに足る。原料たる鐵鑛は釜山、清國大冶鑛山より輸入するものなりといふ。

わかまつし（若松市）福島縣岩代國にあり。人口三萬七百餘。東に猪苗代湖あり。松平氏三十二萬石の舊城地たり。至徳元年声名直盛の築きたる所にして、若松城は鶴城、又は、黒

わいふじやうし（隈府城趾）肥後國菊池郡隈府町に在り。菊池武政の築きし所にして、菊池氏累代の居城たり。元弘中武時主事に死し、子武重菊池城より移りてこゝに居る。足利氏の叛するや、九州悉くこれに屬せしが、武重獨り屈せず、勢望日に重く、大に賊勢を挫きたりと云ふ。町内の菊池神社は維新後、朝廷その忠烈を賞してその靈を祀りし所なり。

わかざわん（若狹灣）福井縣若狹國の北岸にある小濱灣の別稱なり。赤礁及び松ヶ崎の兩岬左右より突出してこの灣を擁す。灣口には大門、小門等の巉岩削立して天然の石門をなしその間小船を通すべし。東西四里、南北二里。わかない（稚内）北州北見國にあり。一大灣を隔て、北東宗谷岬と相對し、後に山を貫ひ、前に宗谷灣を控へ、人口五千餘。新開の地にして、人煙年を逐うて増殖せり。小樽を距ること北方百四十七里にあり。

川城と稱せり。蒲生氏封を受けて大に城を治めこの名に改めたり、後、上杉景勝、加藤嘉明、保科正之等これに代れり。明治元年松平容保氏この城に籠りて、官軍に抗せしが糧盡き、兵疲れて支ふる能はず遂にこの城を致して罪に服せり。會津塗、會津焼等を産するを以て名聲噴々たり。就中、陶器は内地向のみならず、素焼のまゝこれを横濱に送り、輸出向の繪を施して海外に送るといふ。この地維新の變亂に際し、天下の大兵をこの一城に集めて奮闘激戦したるを以て、名ある家屋什器は大抵兵火にかゝりたれば、市街の繁華、復昔日の如くならず。

わかやまけん(和歌山縣)紀伊國の大部(一市七郡)を管し。縣廳を和歌山市に置く。

わかやまけんのかいがん(和歌山縣の海岸)沿岸は出入多けれども、多くは、斷崖絶壁にして錨地としては加田、田邊の二港あるのみ。

奈良縣及び三重縣の西南に連り、北は大阪府に接し、西及び南は太平洋に面す。

わかやまけんのかりう(和歌山縣の河流)熊野川は十津川の下流にして、新宮に至りて海に注ぐ。流程三十五里。兩岸奇岩怪石の峙立するありて奇景に富めり。吐口より本宮まで十里の間和船を通ず。紀伊の木材この河流によりて下するもの多し。

紀の川は吉野川の下流にして、西流して和歌浦に至りて海に注ぐ。流程四十七里。舟楫の便なし。

日高川は國の東境に發し、西南に流れて海に入る。流程三十一里。

有田川は國の北部なる高野山に發し、西に流れて宮崎村より海に入る。流程二十七里十八町、幅五十間、下流五里の間舟通ず。この河の兩岸は大に密柑を産す。所謂紀州密柑これなり。

わかやまけんのかりう——わかやまけんのちせい

伊豆半島の沿岸に同じく、沿岸小蒸汽船によりて交通するもの多し。南端を潮岬といふ。黒潮の激する所となり、岩礁多く波濤荒く難破船多し。燈臺の設あり。鯨獵盛なり。

わかやまけんのかうつう(和歌山縣の交通)鐵道は關西鐵道の奈良縣より、紀の川の流域に沿ひて本縣に來り、高野山の北を過ぎて和歌山市に達するあり。南海鐵道は和歌山市より發して北大阪に達せり。道路は和歌山市を起點として和泉の沿岸に沿ひ、大阪に通ずる紀伊街道あり。紀伊の沿岸を経て三重縣伊勢の間弓に達する伊勢沿海路あり。和歌山より大和五條に達する大和路あり。汽船は大坂商船會社の定期船の往來あり。大阪三輪崎間毎日一回、兩地より出帆し和歌の浦、湯淺、比井、御坊、印南、田邊、串本、古座、勝浦、三輪を順次寄港せり。

わかやまけんのかやうかい(和歌山縣の境界)

わかやまけんのさんげふ(和歌山縣の産業)森林業は盛にして熊野、高野の二山、松、杉、檜の良材を出すこと多し。杉は七十八萬圓、松は十八萬圓、檜は十萬圓に近き産額あり。

農業は山地多きにより見るものなし。然れども有田川、紀の川の流域は、密柑の産額多く、その産額は約九百萬貫に達し、普通密柑、温州密柑、夏密柑、金柑、柑子等の種類あり。仕向地は内地はもとより、韓國、浦羅斯、歐米各國なり。

織物業は和歌山市及びその附近の地より、紀州子ル、木綿織、紋羽織等の産出多し。紀州子ルは四百萬圓以上に及べり。塗物業は黒江塗にして、産出の多きこと全國第一とす。

わかやまけんのかやうかい(和歌山縣の地勢)本縣は紀伊山脈蟠延せるを以て山地多く、平地稀

なり。僅に紀の川、有田川、富田川、日置川、熊野川の沿岸に、稍、平地あるのみ。
わかやまけんのてつだう（和歌山縣の鐵道）交通の條を見よ。

わかやまけんのといふ（和歌山縣の都邑）和歌山市、舊、徳川氏の親藩を置きし所にして紀の川の吐口に位せり。人口一萬五千。南海第一の都會にして、和歌山縣廳こゝにあり。商業活潑にして、綿子ルの産出多し。

神宮は熊野川の吐口にあり。人口一萬四千。熊野早玉神社あり。水野氏の領邑たりし地にして、薪炭を集散す。
湯淺町は人口一萬あり。廣灣に濱す。繁華の地にして醬油を産す。

黒江町は漆器の産出多きこと日本第一とす。田邊町は扇濱に瀕し。蓑安藤氏の封土たりし地なり。
わかやまけんののらさん（和歌山縣の農産）本

縣は山地多く、農耕地乏しきを以て農事の見るべきものなし。獨り柑橘は殆んど産せざる所なく、品質最も佳良なり。尤も多額の産あるは有田川、紀の川の流域にして、その産額は約九百萬貫に及べり。

わかやまけんのりんさん（和歌山縣の林産）本縣は氣候溫和、雨量多く加ふるに藩政時代及びその以前に於て、造林を奨励したりしを以て、山林能く茂生し、熊野、高野の二山名高し。杉は七十八萬圓、松は十八萬圓、檜は十萬圓に達せり。

わかやまけんのるち（和歌山縣の位置）和歌山縣は三重縣、奈良縣の西南に連り、北は大阪府に接す。

わかやまし（和歌山市）紀の川の吐口に位し、人口五萬五千。南海第一の都會にして、舊徳川氏の親藩を置きし地なり。和歌の浦に接す往昔若山と稱し、天正年中羽柴秀吉始めてこ

れに築き、尋で淺野氏を經、徳川頼宣城主たるに及び大に修理を加へ、今の稱に改めたり水陸交通の便宜しく、商業活潑にして、紋羽織、綿子ル等を産す。

わかやません（和歌山線）關西鐵道の和歌山線は、奈良縣大和國五條を起點として西に走り紀伊國和歌山市に達する線なり。三十二哩あり。

わむらをんせん（和倉温泉）能登國鹿島郡端村字和倉にあり。泉質塩類泉にして諸病に効あり。溫度百八十度。發見明和年中。

わじま（輪島）能登半島の北岸にあり。人口一萬餘。住民の多くは漆器を製す。所謂輪島塗これなり。多くは膳部、吸物椀、平皿、壺皿飯櫃等常用の漆器にして、甚だ堅牢なるを以て汎く使用せられ、全石川縣下にて年産額四十萬圓に上れり。

わたららび（和田峠）長野縣の、界、中央にある
わかやません——わん

りて信濃川の上流なる千曲川と、犀川との間に位せり。海拔四千八百尺の峰にして阪路六里、旅人の艱む所なり。されど中山道の通路なれば道路よく修められ、鐵道の信濃に入らざりし以前までは、往來の車馬絡繹の地たりしなり。

わたらせがは（渡良瀬川）下野國上都賀郡の西部鹽の湖に發源し、南流して足尾山を過ぎ西南に轉じて上野國勢多郡に入り、諸水を集めて東南に向ひ、武藏、下總の境界を南下して利根川に入る。長さ三十里、幅二十間。

わたりがは（渡川）高知縣の西部にあり。一に四萬十川と云ふ。源を伊豫の西部に發し、土佐に入りて土佐灣に注ぐ。流程二十里。土佐の三大川の一なり。

わん（灣）海水の陸地に進入したる處を灣と云ふ。灣にして船の安全に碇泊し得る處を港と云ふ。

あ

あなほじやうし (廢澤城趾) 岩手縣陸中國の南部にある水澤の附近にあり。往昔鎮守府を置きし處なり。その城は田村將軍が築きたる處にして、蝦夷征伐の遺蹟として知られ、末の松山の歌枕として名高し。

あせん (緯線) 緯線は地球の赤道に平行して畫きたる圓線を云ふ。この線は赤道より南北に向ひて數へ、赤道の北にある部分を北緯何度といひ、南に在る部分を南緯何度といひ、各一度より九十度に至る。

あと (緯度) 地球の赤道より南北へ九十度ありて、地球表面に許多の假線を設け、各地の位置を定むるに便ならしむる爲に引きし想像線なり。この線に對して南北を直角に引きし線

を經線といふ。一度は更に小別して六十分とし、一分は更に分ちて六十秒とす。

あながは (猪名川) 一名池田川といふ。攝津國豊能郡なる劍尾山に發源し、神崎川に注ぐ。流程十一里餘。

あなはしろこ (猪苗代湖) 福島縣岩代國にあり本邦第三の大湖にして、周圍十六里餘。火力によりて成りし者。會津平野の中部を占め、盤梯山影湖底に離し、風景幽くが如く、湖中の翁島、亦、趣を添ふ。湖上汽船の往來は運搬の便を興ふること多し。下流は日橋川となり、越後に入りて阿賀川となりて日本海に注ぐ。

あなべがは (員辨川) 伊勢國員辨郡より發する町屋川の別稱なり。

あのはなだき (猪鼻瀑) 上野國利根郡東村にあり。絶壁より瀉ぐ。高さ三十丈。

あぶり (鹽振) 北州島の西南岸に面する國なり

あなほじやうしーるふり

あ

あさんかふ (惠山岬) 北州渡島半島の東端なる岬なり。

あちこ (越後) 北陸地方の北部を占むる國なり。二市十五郡あり。新潟縣下に屬す。

あちこへいや (越後平野) 新潟縣越後國の信濃川及び阿川の流賀域にある、廣漠平坦の平野にして、長さ四十里に亘り、濕潤宜しきを得て、地味佳良に米産額は一ヶ年平均三百石に達し、全國中殆んどその首位に在り。又、近來石油の産額多く、日本石油會社の紐育スマンダード石油會社は、巨額の資を投じて採掘に従事し、年産額八十万石を超過せり。その主なる産地は新坂田、新潟、長岡、出雲崎、柏崎等附近一帯の地域なりとす。

あなほじやうしーるふり

あなほじやうしーるふり

あなほじやうしーるふり

あなほじやうしーるふり

あぢせん(越前)北陸地方の西南にある國なり一市八郡を有す。福井縣の管する處なり。中古若狹を割きてこの國を置けり。

あつぎたき(越前)肥後國上益城郡にあり。高さ二十一丈、幅八間。下流は緑川に入る。

あつちゆう(越中)北陸地方の中部にある國なり。二市八郡を有す。現今は富山縣の管内に屬せり。

あつちゆうのしせん(越中の四川)

射水川は一に庄川とも云ふ。上流を雄神川と稱し、飛騨より來る白川の末にして、小矢川を合して西流し海に注ぐ。流程二十一里あり。神通川は飛騨宮川の下流にして、國の中央を貫流し、富山市の西方を過り、東岩瀬港に至り海に注ぐ。流程五十里。運輸の便大なり。常願寺川は、源を立山附近の諸山に發し、西水橋に至りて海に入る。流程十七里。黒部川は、源を國の南境に發し、立山、蓮華

両山の間を走り、下流二派に分れて海に注ぐ。流程二十五里。

以上の諸川は時々氾濫し、堤防を破り、田圃を浸すこと多く、その損害多きを以て巨堤を造りてこれに備へたり。以上を越中の四川と稱す。

あなさん(惠那山)美濃國惠那郡東方信濃の境に屹立す。高さ七千五百尺。

あばやま(惠庭山)北州膽振國千歲郡にあり。石狩との北境に峙ち、海拔三千八百尺。南に支笏湖あり。

あほしだけ(烏帽子岳)美濃國養老郡の南に位し、南は伊勢に界す、伊勢にありては熊取峠と云ふ。

あんきやうじくわうせん(圓行寺嶺泉)土佐國土佐郡初田村字圓行寺にあり。炭酸泉に屬せり。

あんけう(猿橋)甲斐の甲府を距ること十二里

桂川に臨む。人口四千二百。商業稍盛なり。猿橋は奇橋として名高く、長さ十七間、幅一丈餘。橋上より水際まで十六間、橋下に一本の支柱をも有せず。

を

をかぎき(岡崎)愛知縣三河國矢作川の左岸に位す。人口二万餘。徳川家康の生地にして水陸運送の便に富み、綿の賣買頗る盛なり。附近よりは參河木綿を産す。參河木綿は平織の綿布にして晒さざる生木綿もあり。全縣下にては七百二十九萬圓に達す。

をかぎはらわら(小笠原列島)伊豆國下田港の南方二百餘里に位す。北より南に羅列しその内最も大なるものを父嶋(周圍十五里)、母嶋(周圍十四里)とし、これに次ぐものを兄

をかぎき——をかばらぬま

弟、姉、妹、媳、聾等の諸嶋とす。元祿二年小笠原貞頼が朝鮮征伐の歸途、發見したるものなりといふ。往昔は無人嶋と稱し、居民甚少かりしが、官民力を開拓に盡し、より、現今二三千人に達せりといふ。寒暑の差甚だ少く、恰も内地の春の如し。地味肥沃にして牧畜、耕作に適し、海龜、信天翁、大蠟蝟、鳳梨、咖啡、椰子等の熱帶性動植物に富む。この列嶋は地質學上、富士帶火山脈に屬し、富士山より伊豆の天城山、伊豆七嶋、八丈嶋等を経て、本列嶋に入り。尙、南方、硫黄嶋より獨領マリヤナ諸島に達せり。政治區劃上より、現今東京府これを管す。嶋廳は二見港の北西に瀕する大村に設置せり。警察署、病院、小學校等あり。

をかばらぬま(小河原沼)青森縣陸奥の東岸に近く位す。沙丘相連りてこの潟を成生す。周圍十三里半なり。